

# 豊田市

## 認定調査員テキスト別冊

豊田市役所 福祉部 介護保険課

2018年2月作成

(2026年7月改訂)



## 目次

|      |                       |
|------|-----------------------|
| P2   | 「豊田市 認定調査員テキスト別冊」について |
| P5   | 第1群：身体機能・起居動作         |
| P35  | 第2群 生活機能              |
| P65  | 第3群 認知機能              |
| P79  | 第4群 精神・行動障害           |
| P113 | 第5群 社会生活への適応          |
| P131 | 過去14日間にうけた特別な医療について   |
| P151 | 障害高齢者の日常生活自立度         |
| P155 | 認知症高齢者の日常生活自立度        |

## 「豊田市 認定調査員テキスト別冊」について

### 1. 構成

この「豊田市 認定調査員テキスト別冊」（以下、「別冊」とする。）は、項目ごとに、これまで当市が保険者として判断してきた事例や、愛知県や厚生労働省要介護認定適正化事業質問窓口へ質問してきた事例を掲載しています。

内容は、各項目での「No」、「事例」、「選択」、「理由」、「開始時期」です。

また、当市に所属する介護認定調査員向けの研修で使用した参考資料を項目に関連したページに掲載しました。

複数の項目にまたがっている事例は、調査項目番号の小さいものにまとめて掲載しています。例えば「2－5 排尿」と「2－6 排便」の両方に係る事例は、「2－5 排尿」に掲載しています。

なお、「理由」欄に（県）とあるものは愛知県健康福祉部高齢福祉課から回答を得ているもの、（国）とあるものは厚生労働省要介護認定適正化事業質問窓口から回答を得ているものです。

### 2. 判断・解釈の修正

当市の判断は個別事例に基づくものがあること、また、「認定調査員テキスト」についても改訂が見込まれることから、掲載している判断・解釈を修正することがあります。

その際は、修正ページを差し替えていただくように通知いたしますので、その都度ご確認くださいようお願いします。

### 3. 別冊の解釈の範囲

この別冊は以下に掲げるものの解釈の範囲を出ません。

- （１）「要介護認定 認定調査員テキスト 2009 改訂版」
- （２）「要介護認定等の方法の見直しに係る Q&A 及び認定調査員テキスト 2009 改訂版正誤表の送付について」（厚生労働省老健局老人保健課平成 21 年 9 月 30 日付事務連絡）

### 4. 使用フォントについて

「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」が平成 28 年 4 月 1 日から施行され、地方公共団体にも「障がいを理由とする差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられました。

これに伴い、本市においても『ユニバーサル市役所「とよた」ガイドライン』を策定し、本市が行う事務事業における障がい者等への配慮を積極的に推進していくこととなりました。

ガイドラインでは、その対象を障がい者のみとせず、年齢、性別、障がいの有無などに関係なく全ての人を対象（ユニバーサル）とし、法令や条例等により適用が難しい場合を除いた全ての事務事業で実践していくものとしています。

つきましては、本市が作成する全ての公文書もこのガイドラインに沿って作成するものとしています。

この別冊は全てメイリオ体で作成し、ポイントも12ポイント以上で作成しています。

また当市では条例で「障害」の表記のうち、人の状態を表現するものすべてについて「障がい」と表記することとなっております。

| 内容 | 判断ミス | 誤字脱字 | 判断根拠を前に出して記載 | 不適切表現 |
|----|------|------|--------------|-------|
|----|------|------|--------------|-------|

特記事項ルール

| No | 内容                                       | 正しい例                                 | 誤った例                          |
|----|------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1  | 商品名の使用は避ける。                              | 軟膏塗布                                 | ワセリンを塗布                       |
| 2  | 個人の特定される情報は記載しない。                        | 市外在住の家族                              | 岡崎市に住む家族                      |
| 3  | 個人の特定されない情報は記載してよい。点検時、指摘はしない。           | マンション、県営・市営住宅、銀行・郵便局員、社協 等           |                               |
| 4  | 利用事業所・病院の特定される情報は記載しない。                  | 総合病院。クリニック。                          | 豊田厚生病院。豊田クリニック                |
| 5  | 発症年月日は和暦、年齢等で正確に記載する。                    | 「平成〇年から」「〇〇歳の時」と記載。                  | 「〇年前から」                       |
| 6  | 情報開示等で他人が読む時に、不適切と捉えられるような表現は避ける。        | 「備考」に記載する。<br>(例) 立会いは多弁。立会いは自尊心が高い。 | 立会いはうるさい人で困る。立会いはブライドが高い。     |
| 7  | 手間や判断に係る頻度は必ず記載する。                       | 日中5,6回、夜間2回排尿。                       | 自分で排尿。                        |
| 8  | 人の状態を表す時の「障害」は「障がい」と記載。                  | 嚥下障がい。高次脳機能障がい。                      | 嚥下障害。高次脳機能障害。                 |
| 9  | がんの告知状況については、備考に記載する。                    | 概況にがんの記載があり、「備考」に告知状況の記載がある。         | 概況にがんの記載があるが、「備考」に告知状況の記載がない。 |
| 10 | 介護度にバイアスがかかるような情報（障がい者手帳、生活保護等）は備考に記載する。 | 「備考」に手帳情報の記載がある。                     | 概況に手帳情報の記載がある。                |

審査委員からの要望

|   | 正                  | 誤              | 例                   |
|---|--------------------|----------------|---------------------|
| 1 | 頻度は同じ              | 頻度同等           | 頻度が同じため「全介助」と判断。    |
| 2 | もたれる               | 凭れる            | 背もたれにもたれる。          |
| 3 | 畑に行った先での作業内容を記載する。 | 「畑に行く」という記載のみ。 | 週1回は畑に行き草取りする。      |
| 4 | スポーツの内容を記載する。      | スポーツするという記載のみ。 | 週1回は近所へゲートボールをしに行く。 |

用語説明

| No | 用語    |                       | 説明                                                    |
|----|-------|-----------------------|-------------------------------------------------------|
| 1  | 寝浴    | 寝たまま、ストレッチャーのまま入るタイプ。 |                                                       |
| 2  | 機械浴   | 車椅子浴                  | 椅子に座るタイプ。                                             |
| 3  |       | リフト浴                  | つりさげ式のもの。                                             |
| 4  | 訪問入浴  |                       | 移動入浴と同義。居宅に浴槽を持ち込んで入浴する。                              |
| 5  | シャント  |                       | 透析のために前腕に埋めた人工血管。水頭症の廃液バイパスとしてや、先天性心疾患の血流について指す場合もある。 |
| 6  | 胃ろう   |                       | 胃瘻、ペグ、PEGのこと。胃に穴をあけ、経管栄養等を行う。                         |
| 7  | 自操    |                       | 車椅子を自分で操作して移動すること。                                    |
| 8  | 端座位   |                       | ベッドの端に腰かけ、足を下ろした体位。                                   |
| 9  | イレウス  |                       | 腸閉塞                                                   |
| 10 | 構音障がい |                       | 音声器官における形態上の異常や、麻痺等の運動機能障がいにより声をうまく出すことができない障がい。      |
| 11 | MMSE  |                       | ミニメンタルステート検査。認知症診断検査の一種。                              |

よくある間違い

| No | 正       | 誤      | 例               |
|----|---------|--------|-----------------|
| 1  | ずつ      | づつ     | 1個ずつ。半割ずつ。      |
| 2  | 拳上      | 拳上     | 確認位置まで拳上できる。    |
| 3  | おく      | 置く     | そのままにしておく。      |
| 4  | 上がる     | 上る     | 肩の高さまでは上がる。     |
| 5  | 上げる     | 上る     | 腰まで上げる。         |
| 6  | 下りる、下ろす | 下る     | ゆっくり下りる（下ろす）。   |
| 7  | 下げる     | 下る     | 背中を下げると、背中を上げる。 |
| 8  | パッド     | パット    | パッドを交換する。       |
| 9  | ズボンを書く  | ズボンを履く | 自分でズボンを穿く。      |

# 第 1 群

## 身体機能・起居動作



1-1 麻痺等の有無

| No | 事例                                                                                             | 選択                 | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 開始時期                            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1  | 円背のため常時座位に近い程ギヤッチアップして臥床。端座位になることはできない。この方の臥床状態から下肢の確認動作を行い「できた」。この姿勢での確認で「できた」と判断してよいか。       | 1-1 両下肢<br>「ある」    | 認定調査における確認動作は調査員テキストに記載のある動作のみのため、事例の姿勢は確認動作とは言えない。<br>日頃の類似動作などで評価し、それもできなければ「両下肢麻痺あり」と判断。(県)                                                                                                                                                                                                                        | 2017/5/26                       |
| 2  | 膝関節に著しい可動域制限があり、下肢の筋力低下の確認動作ができない場合は、下肢の「麻痺あり」としてよいか？                                          | 「ある」               | お見込みのとおり。<br>著しい可動域制限がある場合は、その範囲まで挙上できていたとしても確認動作ができなければ麻痺「あり」とする。(県)                                                                                                                                                                                                                                                 | 2010/12/8                       |
| 3  | 手指は上肢に含めるのか。足趾も下肢に含めるのか。                                                                       |                    | 手指や肘、足趾といった肩や股関節から先の器官については「上肢」「下肢」に含んで考え、手指の巧緻動作ができない場合は「その他」に含めない。<br>調査員テキスト P31「6.その他（四肢の欠損）」<br>・いずれかの四肢の一部（手指・足趾を含む）に欠損がある場合は「6.その他」を選択する。<br>⇒四肢に手指や足趾を含めている。<br>調査員テキスト P32◆特記事項の例◆<br>重度の寝たきりで、意識障害があり意思疎通ができず、自分の意思で四肢等を全く動かせないため、「2,左上肢」「3,右上肢」「4,左下肢」「5,右下肢」が「あり」を選択する。<br>⇒四肢等を全く動かせなくても「6,その他」を選択していない。 | 2017/12/19                      |
| 4  | 手指の屈曲や拘縮があり他動で動かすことが困難で自動でも動かすことができない。現在は1-2 拘縮その他「あり」とチェックしているが・・・1-1 麻痺その他「あり」とチェックしなくて良いのか？ | 1-1<br>その他<br>「なし」 | 手指や肘、足趾といった肩や股関節から先の器官については「上肢」・「下肢」に含んで考え、手指の巧緻動作ができない場合は、「その他」に含めない。(市)                                                                                                                                                                                                                                             | 2017/12/19                      |
| 5  | 三角巾、装具、ギプス、硬性コルセットを装着の場合 1-1、1-2 共に「ある」としてよいか？                                                 | 1-1「ある」<br>1-2「ある」 | 固定されており動かせない場合 1-1、1-2「ある」と判断する。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2011/6/20<br>(2020/11/01<br>追記) |
| 6  | 図1-5で枕を入れる意味は？                                                                                 |                    | 股関節を曲げるため腰痛になる可能性があるので動作の補助的な意味で入れています。<br>必ずしも枕を入れなくてもよいですが、枕の代わりに大腿部を調査員が支えるなどするとよいです。(県)                                                                                                                                                                                                                           | 2010/12/8                       |

|   |                                                                                                      |                    |                                                                                                                                     |            |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 7 | 半身麻痺があり、上下肢とも確認動作ができない場合、手指・足趾も麻痺ありと判断して「その他」を選択してよいか。<br>それとも、手指は上肢、足趾は下肢の一部として考え「その他」を選択してはいけないのか。 |                    | 手指や肘、足趾といった肩や股関節から先の器官については「上肢」・「下肢」に含んで考え、手指の巧緻動作ができない場合は、「その他」に含めない。(市)                                                           | 2017/12/19 |
| 8 | 顔面神経麻痺や眼瞼下垂で自分では動かすことができない場合は、その他「ある」としてよいか。                                                         | 1-1<br>その他<br>「ある」 | 上肢・下肢以外に麻痺等が見られる場合に、「その他」を選択する。その場合は、必ず特記事項に具体的な部位や状況等を記載する。<br>(平成 21 年 9 月 30 日発事務連絡(厚生労働省老健局) 問 8 より抜粋)                          | 2020/11/01 |
| 9 | 四肢のいずれかが欠損していることにより、上下肢の確認動作ができない場合の 1-1、1-2 の選択肢は？                                                  |                    | 四肢のいずれかが欠損し、確認動作ができない場合は、1-1、1-2 どちらとも欠損している部位と「その他」を選択する。(市)<br>例えば、左大腿部(膝上 10cm)で欠損している場合は、1-1 は「左下肢」と「その他」、1-2 は「左膝」と「その他」を選択する。 | 2022/1/17  |

# 1-1 麻痺等の有無について

12月13日の研修で、「加齢による巧緻動作のしにくさ等は「その他」に含めないように」と示しましたが、平成29年12月19日調査分からは、以下のとおり変更します。

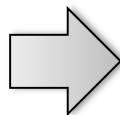
下表のとおり、テキストの内容から、手指や肘、足趾といった肩や股関節から先の器官については「上肢」・「下肢」に含んで考え、「その他」に含めないこととします。聞き取りや特記事項はこれまでどおりですが、OCR用紙にチェックする認定調査項目としては「上肢」・「下肢」の「確認動作」ができないものを「ある」と評価することとなります。

「その他」で評価することとなるものは、いずれかの四肢の一部に欠損がある場合と、「上肢」「下肢」以外に麻痺等があるものとなります。

|    | 12月13日以前の選択                                                                                                                    | H29年12月19日以降の選択                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内容 | <p>手指の巧緻動作ができない場合など、自動で手指の屈曲や伸展ができない場合は「その他」をあるで選択。</p> <p>＜ポイント＞</p> <p>「上肢」・「下肢」に「手指」「足趾」を含めずに判断。</p>                        | <p>手指や肘、足趾といった肩や股関節から先の器官については「上肢」・「下肢」に含んで考え、手指の巧緻動作ができない場合は、「その他」に含めない。</p> <p>＜ポイント＞</p> <p>「上肢」・「下肢」に「手指」「足趾」を含めて判断。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| 根拠 | <p>＜参考：愛知県との問答＞</p> <p>問：両上下肢の確認動作ができず、手指も巧緻動作ができない。「両上肢ある」の判断で良いか。</p> <p>答：手指にも麻痺がある場合は「両上肢」と「その他」を「ある」で選択。H24.6.25（愛知県）</p> | <p>調査員テキストP31</p> <p>「6.その他（四肢の欠損）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれかの四肢の一部（手指・足趾を含む）に欠損がある場合は「6.その他」を選択する。</li> </ul> <p>⇒四肢に手指や足趾を含めている。</p> <p>調査員テキストP32</p> <p>◆特記事項の例◆</p> <p>重度の寝たきりで、意識障害があり意思疎通ができず、自分の意思で四肢等を全く動かせないため、「2.左上肢」「3.右上肢」「4.左下肢」「5.右下肢」が「あり」を選択する。</p> <p>⇒四肢等を全く動かせなくても「6.その他」を選択していいい。</p> |

＜1－1「その他」に関する判断の例＞

| No | 特記事項                                   | 12月13日以前の判断 | 12月19日以降の判断 |
|----|----------------------------------------|-------------|-------------|
| 1  | 右手第1指はPIP関節で切断されているが、生活に支障はない。         | ある          | ある          |
| 2  | 骨折治療のため腰部に硬性コルセット装着しており、自他動ともに体幹制限がある。 | ある          | ある          |
| 3  | 両手指は力が入り難く、ボタン留め等の巧緻動作困難。              | ある          | ない          |
| 4  | 足関節から足趾にかけては浮腫が強く、自動で背屈できない。           | ある          | ない          |
| 5  | 右肘は半分程度しか伸展できないが、伸展しきった状態であれば確認動作できる。  | ある          | ない          |
| 6  | 両手指は力が入り難いが、自動で離握手でき、巧緻動作できる。          | ない          | ない          |



NO3,4のような、状態が前回から変わっていないのに判断を「ある」から「ない」に変える場合の特記事項

| No | 特記事項                                                               |
|----|--------------------------------------------------------------------|
| 3  | 両手指は力が入り難く、ボタン留め等の巧緻動作困難。両手指は上肢に含めて判断することから、その他は「なし」と判断。           |
| 4  | 足関節から足趾にかけては浮腫が強く、自動で背屈できない。足趾は下肢に含めて判断することから、その他は「なし」と判断。         |
| 5  | 右肘は半分程度しか伸展できないが、伸展し切った状態であれば確認動作できる。肘は上肢に含めて判断することから、その他は「なし」と判断。 |

1 - 2 拘縮等の有無

| No | 事例                                                                 | 選択 | 理由                                                                                                                                                                                                                    | 開始時期                            |
|----|--------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1  | 図2-6 下肢の挙上はどの程度上がれば拘縮なしと判断できるか？                                    |    | 膝関節をほぼまっすぐ伸ばした状態（伸展）から90度程度他動的に曲げる（屈曲）ができるかどうかで判断します。伸展もしくは屈曲のどちらかに可動域制限があれば制限ありとします。（県）                                                                                                                              | 2010/12/8                       |
| 2  | 図2-4 もともと25cm膝が開いている人は、拘縮なしとしてよいのか。                                |    | 「認定調査員テキスト2009改訂版」P39を参照してください。股関節は屈曲と外転を確認します。仰臥位の場合は「図2-3」もしくは「図2-4」のいずれかができなければ「制限あり」となります。「図2-3」屈曲にも拘縮がなければ、もともと25cm膝が開いている人は、拘縮「なし」となります。（県）                                                                     | 2010/12/8                       |
| 3  | 股関節の手術後で動けない場合は。                                                   |    | 医師の指示で動かすことができない場合は、「ある」を選択し確認できない理由を特記事項に記載してください。特記事項の記載内容に基づいて介護認定審査会において一次判定の修正・確定および二次判定を行います。（県）                                                                                                                | 2010/12/8                       |
| 4  | O脚でもともと膝が10cm開いている人はあと15cm開けばよいのか。                                 |    | 座位での確認であれば、O脚でもともと膝が10cm開いている人はあと15cm開けばよい。「認定調査員テキスト2009改訂版」P39を参照してください。（椅子に座っている状況であれば屈曲はできています。）                                                                                                                  | 2010/12/8                       |
| 5  | 今回、腰椎、頸椎が含まれるようになったが、高齢者は丸背・亀背も多く、大半にマークされることになるが問題はないか。（側弯の場合も含む） |    | 肩関節、股関節、膝関節以外について、他動的に動かした際に拘縮や可動域制限がある場合は「その他」を選択することとなります。丸背、亀背等だけでなく可動域制限があるかないかで判断してください。「認定調査員テキスト2009改訂版」P36（2）選択肢の選択基準「5 その他」の2行目を参照してください。また、日常生活の支障の有無による選択はできません。日常生活上の支障やそれに基づく介護の状況については特記事項に記載してください。（県） | 2010/12/8<br>(2020/11/01<br>追記) |



# 1 - 3 寝返り

| No | 事例                                                                     | 選択    | 理由                                                                                   | 開始時期      |
|----|------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 1-4 起き上がりは水平の状態からもしくは常時ギャッチアップ状態の人はその状態から判断すると基準があるが、1-3 寝返りには基準はないのか？ |       | 1-3 寝返りも基本的には、水平の状態からだが、水平にできない理由があるため、常時ギャッチアップしている人（座位レベルは除く）は、その状態からの寝返りで選択する。（県） | 2010/12/8 |
| 2  | 座面に手や肘について寝返りする場合は「つかまれば」を選択してよいか？                                     | 「できる」 | 今までは手や肘について寝返りしている場合は「つかまれば」を選択していたが、「できる」の選択に変更。（県）                                 | 2011/9/13 |
| 3  | 「横たわったまま」「寝た状態」からの動作を確認するが、枕はあってもよいか？                                  |       | 日頃の状況で確認する為、枕はあってもよい。（県）                                                             | 2010/12/8 |



# 1 - 4 起き上がり

| No | 事例                                                   | 選択   | 理由                                                                                                                                                                     | 開始時期       |
|----|------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 複数の枕やクッションを使用している場合や、常時ギャッチアップされている方の判断はどのように行うのか。   |      | 水平にできない理由があるため、複数の枕やクッションを使用している場合は医師の指示に関わらず、それを使用しなければ臥床できない理由を特記事項に記載した上でその状況で選択する。常時ギャッチアップされている方は、電動ベッドのギャッチアップ動作による起き上がりは評価せず、ギャッチアップしている状態からの起き上がりは評価する。<br>(市) | 2017/12/13 |
| 2  | 肘を軸にして、どこにもつかまらないが、時間をかけて起き上がる。この場合の判断は。             |      | 肘や手について加重をかけなければ「起き上がり」ができないのであれば、「何かをつかまればできる」を選択してください。くせで肘や手をつけている場合は「つかまらないでできる」を選択してください。(県)                                                                      | 2010/12/8  |
| 3  | 寝たままでは起き上がることができず、ベッドから床に滑り降りて上半身を起こした姿勢になる場合は該当するか。 | できない | 調査員テキスト P43 より、寝た状態から上半身を起こすことができるかどうかの能力を評価する項目であるため。(市)                                                                                                              | 2020/11/01 |



## 1 - 5 座位保持

| No | 事例                                                                                       | 選択           | 理由                                                                                                                                                                                              | 開始時期      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 調査時 10 分程度の座位保持はできず、日頃も食事を食べる際は机に覆いかぶさり体中で支えて、横を向いて食事を食べている。この時の判断は？                     | 「支えてもらえばできる」 | 支えがあれば座位保持できるため、「支えてもらえばできる」と判断する。                                                                                                                                                              | 2017/4/24 |
| 2  | ほかの場所でできず、ギャッチアップ機能のついたベッド上で行わざるを得ない場合等に、ベッドのギャッチアップ角度が何度程度であれば「支えてもらえばできる」を選択すると考えるべきか。 |              | 認定調査員テキスト45～47ページ参照<br>ギャッチアップに係る具体的な角度については、当該調査項目の定義や選択肢の判断基準に含んでいない。認定調査員が、調査対象者の状況を確認し「支えてもらえばできる」と判断した場合は、調査対象者の実際の状況と日頃の状況、認定調査員の判断根拠等を特記事項に記載し、介護認定審査会は、特記事項等を用いて一時判定の修正・確定及び二次判定を行う。(県) | 2010/12/8 |



# 1 – 6 両足での立位保持

| No | 事例                          | 選択     | 理由                                                                                                                               | 開始時期      |
|----|-----------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 椅子や壁・歩行器にもたれて立位を保持する場合の判断は？ | 「できない」 | <p>もたれなければ出来ない場合は「できない」を選択。</p> <p>ただし「つかまれば」出来るが、習慣や楽だからなどの理由で、「つかまって」行なっていない場合は、調査時試行し能力を確認。あわせて、日頃の能力の状況を確認し選択する。<br/>(県)</p> | 2010/12/8 |



# 1-7 歩行

| No | 事例                                                                                                                                          | 選択         | 理由                                                                                                                                                                                          | 開始時期      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 日頃ベッド上の生活で歩く機会がない。<br>月2回通院時のみ介護者2人に支えられ歩く。<br>調査時5mの歩行は、介護者に片腕を支えられれば継続して歩行できた。<br>この場合、移動の頻度は少ないが歩ける状況から「つかまれば」で良いか？                      | 「つかまれば」    | 能力の項目。頻度は少なくとも支えられて5m連続歩行できる能力が、日頃からあることが確認できれば、「つかまれば可」を選択できる。ただし、この1週間で、日によって5mの連続歩行できないことが多い状況であれば頻度から「できない」を選択する。(市)<br>能力の項目の「日頃の状況」とは、日頃の生活の様子ではなく、確認動作を別の機会に施行した場合の、日頃の施行結果を推定する。(国) | 2017/2/24 |
| 2  | 骨折し車椅子移動していたが、調査前日から掴まらず独歩できるようになった。<br>全てにおいて、身体状態が改善した。歩行は「できる」と判断するのか？                                                                   | 「できない」     | 調査日より概ね過去1週間の状況に置いてより頻回な状況で判断する。(県)                                                                                                                                                         | 2017/4/19 |
| 3  | 自宅内では、昼間独居。家が狭く車椅子が入らないため、トイレ・食事への移動は、這う。(5回)。<br>週2回デイサービスでは、職員が支え5m以上歩いてトイレ・食事へ移動(3回)。<br>日内変動は、ない。この1週間は、這うことが多いため、頻度から判断し「できない」としてよいのか？ | 「つかまればできる」 | 能力の項目。日頃の能力の状況により判断する。<br>この場合、日内変動はなく、歩行できない理由が、介護力不足や環境的な条件による。介護があれば、歩行できると判断し「つかまればできる」と判断する。特記事項には、判断した理由を記載する。ただし、歩行の頻度が極端に少ない場合や、体調等によって能力の程度が異なる場合は除く。(市)                           | 2013/6/24 |
| 4  | 杖なしで家具や壁に触りながら歩く人はどう判断したらよいか。                                                                                                               |            | 「認定調査員テキスト2009改訂版」P50(2)を参照してください。<br>状況不明ですが、視力障がいがない方で体を支える目的で壁にさわりながら歩く場合は「何かにつかまればできる」を選択してください。(県)                                                                                     | 2010/12/8 |
| 5  | リハビリは含まないとあるが、入院中であり病棟内は歩行していないが、リハビリは何メートルでもできる場合どう判断するか。                                                                                  | 「できない」     | 「認定調査員テキスト2009改訂版」P51(3)P52(4)を参照してください。病棟(日頃の状況)での生活で選択するため「できない」を選択してください。ただし、リハビリでの状況(歩行距離、安定性、器具の使用等)を特記事項に記載してください。(県)                                                                 | 2010/12/8 |
| 6  | 脳梗塞の後遺症で背中がまがっていて後ろに手を組まないとバランスがとれなくて横へ行く場合、「つかまらないでできる」でよいのか。                                                                              | 「つかまれば可」   | 自分の膝につかまるなど、自分の身体につかまり歩行する場合(つかまらないう歩行できない場合)は「2. 何かにつかまればできる」を選択します。テキストP51(3)調査上の留                                                                                                        | 2010/12/8 |

|   |                                                                              |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |            |
|---|------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|   |                                                                              |  | 意点を参照してください。状況の特記事項へ記載してください。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |            |
| 7 | デイなど頻度は少ないが5mは杖歩行ができる状態であるが、自宅では環境により2m程しか歩いてない。この場合も頻回な状態から「できない」にするのでしょうか？ |  | <p>調査当日実際に5mの歩行を実施してもらい、歩行の状況を確認します。(直線である必要はないのでUターンしてもらえばよいと思います。)</p> <p>その状況が日頃ではないと判断すれば(2mしか歩行できないことが日頃の状況であれば)、その上で、日頃の状況と比較し頻回な状況で判断しますが、状況(根拠)を必ず特記事項に記載し介護認定審査会において一次判定の修正・確定および二次判定を行います。能力的に「歩行できない」状況と環境上「歩行しない」とは異なります。(県)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2010/12/8  |
| 8 | 徘徊は歩行で評価しますか。                                                                |  | <p>徘徊も含めて評価していただくのですが、通常通り、テストと頻度選択は必ず行ってください。評価するのは、「立った状態から継続して(立ち止まらず、座り込まずに)5m程度歩ける」というテストができるかどうかです。調査日より概ね過去1週間の状況についても、当該テストが1週間以内にできそうな人かどうかという視点で評価します。</p> <p>そのため、「徘徊しているから歩行できる」という評価をするのではなく、「5m連続で歩行してください」とその方に指示した場合にできるかどうかという評価をしてください。</p> <p>「1-7歩行」は「能力」の評価軸の項目であり、テキストP50「(1) 調査項目の定義」にあるとおり、「立った状態から継続して(立ち止まらず、座り込まずに)5m程度歩ける能力があるかどうかで選択する」項目です。</p> <p>また、テキストP51「(3) 調査上の留意点及び特記事項の記載例」には「歩幅や速度、方向感覚や目的は問わない」とあります。さらに「①調査対象者に実際に行ってもらった場合」には、「調査対象者に実際に行ってもらった状況と、調査対象者や介護者から聞き取りした日頃の状況とが異なる場合は、一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回な状況に基づき選択を行う。」とあります。</p> | 2018/11/30 |

|   |                                                                                                         |        |                                                                                                                                                                                                                                                          |            |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|   |                                                                                                         |        | <p>テキスト P20「(1) 能力で評価する調査項目の選択基準」には、「能力で評価する項目は、当該の行動等について「できる」か「できない」かを、各項目が指定する確認動作を可能な限り実際に試行して評価する項目である。ただし、実際に試行した結果と日頃の状況が異なる場合は、一定期間（調査日より概ね過去 1 週間）の状況において、より頻回な状況に基づき選択する」ともあります。</p> <p>そのため、徘徊だから含めるかどうかではなく、テストができそうかどうかの頻度で選択してください。(市)</p> |            |
| 9 | <p>介護者が身体を支えても自分で足を送り出す事ができない。介護者が後ろから身体を抱え、介護者の足で本人の踵を押し出したり、介護者の足の甲に本人の足をのせ、進ませる場合の判断は、「できない」でよい。</p> | 「できない」 | <p>調査員テキスト P50 より、歩行とは立った状態から継続して歩ける能力があるかどうかで評価する。このケースの場合、何かにつかまったり、支えられても歩行はできないと判断する。(市)</p>                                                                                                                                                         | 2020/11/01 |



# 1 - 8 立ち上がり

| No | 事例                                                                 | 選択     | 理由                                                                                                                                      | 開始時期       |
|----|--------------------------------------------------------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 円背の人で椅子から立ち上がる際、座面から手が離れない場合は「何かにつかまればできる」でよいか。                    |        | 「認定調査員テキスト 2009 改訂版」P 53(3)を参照してください。体を支える目的で座面から手が離すことができなければ「何かにつかまればできる」を選択してください。習慣的であれば「つかまらないでできる」を選択してください。(県)                   | 2010/12/8  |
| 2  | 臀部が離れるまで座面に手をついて立ち上がる方も、「できる」を選択するとのことであったが、その考え方でいいか。             |        | 「認定調査員テキスト 2009 改訂版」P 53(3)を参照してください。加重をかけなければ立ち上がることができず、そのため、座面から手が離すことができなければ「何かにつかまればできる」を選択してください。習慣的なものは「つかまらないでできる」を選択してください。(県) | 2010/12/8  |
| 3  | 座位の座面の高さによって、膝の角度が異なるがどのように判断すればよいか。                               |        | 「認定調査員テキスト 2009 改訂版」P 53(1)の 5 行目を参照してください。膝の角度が「ほぼ直角」からの立ち上がりが原則です。(「ほぼ直角」以上であれば立ち上がりしやすいし、「ほぼ直角」以下であれば立ち上がりにくい。)ため。)                  | 2010/12/8  |
| 4  | 円背の人などで、ずっと座面を後ろ手に触りながら立ち上がる人はどう判断するか。                             |        | 状況の詳細が不明ですが、触る程度で加重をかけていない、体を支えているのではないと判断できれば「つかまらないでできる」を選択してください。(県)                                                                 | 2010/12/8  |
| 5  | 右膝の拘縮があり直角に屈曲できないが、左膝はほぼ直角に屈曲でき、片足のみ膝が直角に屈曲している状態から、手すりにつかまり立ち上がる。 | つかまれば可 | 調査員テキスト P 53 (1) の 5 行目参照。膝の角度が「ほぼ直角」からの立ち上がりが原則だが、両膝かどうかまでは明記されていないため、膝が直角に屈曲するのが片足のみでも立ち上がりの能力があると評価する。(市)                            | 2020/11/01 |



# 1 - 9片足での立位

| No | 事例                                                                             | 選択             | 理由                                                                                                                                           | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 1秒かけて掴まらずにゆっくり足踏みで<br>きるがふらついている場合は、「支えなし<br>でできる」か「何か支えがあればできる」<br>どちらを選択するか？ | 「支えなし<br>にできる」 | 1秒かけてゆっくり足踏みをしてもらっても<br>良い。ふらついても良い。(県)<br>※ふらついてすぐに片足を下ろしてしまい掴<br>まらずには1秒片足を浮かせることができな<br>い場合は「何か支えがあればできる」を選択。<br>(市)                      | 2016/6/30 |
| 2  | 何か支えがあればできるとはどこまでと<br>判断するのか。                                                  |                | 何もなしでできれば「支えなしでできる」、少<br>しでも支えが必要であれば「何か支えがあれ<br>ばできる」とするが、つま先を少しあげるく<br>らいでよいです。ただし、体を支える目的で<br>はなく何かにつかまっている場合は「支えな<br>しでできる」を選択してください。(県) | 2010/12/8 |
| 3  | ふらつきながらもできる場合はどう判<br>断するのか。                                                    | 「支えなし<br>にできる」 | ふらついても何もつかまらず片足での立位が<br>できれば「支えなしでできる」を選択してく<br>ださい。(県)                                                                                      | 2010/12/8 |



# 1 - 10 洗身

| No | 事例                                                                                                                                   | 選択     | 理由                                                                                                                                                             | 開始時期                  |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1  | 入浴が面倒・人に見られることを嫌がり、ここ数年入浴していない。1年前まで清拭していたが、以後清拭もしていない。見るからに、落屑が酷く足も黒ずんでいる。タオルを準備して渡せば、排泄後の清拭（陰部・肛門部）は行える。「不適切」として適切な介助の方法を選択してよいのか？ |        | 不適切な判断根拠がはっきりしていれば、判断根拠も含め特記事項に記載し応じた判断を行う。<br><br>長期間洗身を行っていない状況のみでは不適切と判断することはできない。皮膚の汚れや臭い等不適切と判断する根拠が必要。<br><br>長期間洗身しておらず、不適切な状況と判断できれば一部、全介助のいずれかを選択。（県） | 2011/3/4              |
| 2  | 「自分で洗身するが、背中に手が届かず洗えていない。入浴は毎日行うため不適切さはない。」という場合はどのように判断するのか。                                                                        | 「介助なし」 | 洗身に介助が入っておらず、不適切さもないため、「介助なし」。<br><br>ただし、汗疹等の不適切さが見られる場合については適切な介助の方法を選択し、具体的な状況については特記事項に記入すること。（市）                                                          | 2017/4/19             |
| 3  | 長年の習慣で入浴していない。介助を嫌がり隔日で下半身のみシャワーで自分で洗い、上半身は自分で拭いている。目立った汚染はない。下半身だけでも自分で洗身できている為「介助なし」と判断するのか？                                       | 「介助なし」 | 部分的に洗身を行っている場合はその部分で判断し、不適切さがなければ想定もしないため「介助なし」。（市）                                                                                                            | 2017/4/19             |
| 4  | ベッドサイドに桶を用意し、その中で足浴を看護師が介助する場合はその介助で判断するのか？（それ以外は入浴や洗身は行っていない。）<br><br>また、浴室内で臀部のみなど体の一部分のみを洗っている場合は、洗身として評価してよいのか？                  |        | 洗身とは「浴室内（洗い場や浴槽内）」のことを指すため、ベッド上での手浴、足浴についての介助は判断に含めず、介護の手間として記載する。<br><br>ただし、浴室内で身体の部分のみ（臀部など）を洗う行為が発生していれば洗身行為として評価する。（市）                                    | 2016/6/30<br>2020/9/1 |
| 5  | 自分で洗身するが同じ箇所ばかり洗う。途中何度も様子を見に行く場合、見守りをしていると考え「一部介助」を選択して良いのか？                                                                         | 「一部介助」 | 常時の見守りでなくても、見守りや指示がないと洗身できない状況であれば、「一部介助」を選択する。（県）                                                                                                             | 2011/7/28             |
| 6  | 週2回デイで背中を洗ってもらっている人が、その他、5日は、自宅で、自分で清拭を行っている場合、一部介助が2回・行っていないが5回であるため、より頻回に見られる状況で「行っていない」を選択し、特記事項にその内容を記入するのか。（テキストP58③の特記事項の例からす  | 「一部介助」 | 「認定調査員テキスト2009改訂版」P58の上から4行目以降および③を参照してください。この場合は「一部介助」を選択してください。「行っていない」を選択する場合は一定期間、清拭のみしか行っていない場合と行為自体が全く行われていない場合のみです。この場合の清拭は、行為量に含みません。（県）               | 2010/12/8             |

|    |                                                                                                                               |          |                                                                                                                                                    |           |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
|    | <p>ると「行っていない」と推測できますが。）<br/>         この場合、清拭を行っているので「介助されていない」を選択するのは誤りとしてよいのか。</p>                                           |          |                                                                                                                                                    |           |
| 7  | <p>毎日、入浴はしていますが、タオルに石鹸をつけて洗うことはせず、浴槽につかり、浴槽内で、身体をこするのみの方は、洗身の一連行為はしていないので「行っていない」を選択するのか？それとも「介助されていない」を選択するのか。</p>           | 「介助なし」   | <p>浴槽の中で体をこすっているので「介助されていない」を選択してください。（県）</p>                                                                                                      | 2010/12/8 |
| 8  | <p>石鹸を使う習慣がない場合は、洗身の動きで判断か、「行っていない」になるのか。</p>                                                                                 |          | <p>石鹸を使っていなくても自分の手などで身体をこすっていれば「介助されていない」を選択してください。「行っていない」を選択するのは、清拭のみ及び入浴拒否、湯につかるのみの場合が想定されます。（県）</p>                                            | 2010/12/8 |
| 9  | <p>日常的に洗身を行っていない場合は「調査対象者の行為自体が発生しない」と考えて「行っていない」を選択することになるが、風呂嫌いで洗身していない場合「介助されていない」を選択するのか「行っていない」を選択するのか。</p>              | 「行っていない」 | <p>「行っていない」を選択する場合は本人が行っているか介護者が行っているのかに関わらず、清拭のみの場合と日常的に洗身が行われていない場合のみです。（認定調査員テキスト2009改訂版）P57、58 調査上の留意点及び特記事項の記載例を参照してください。）（県）</p>             | 2010/12/8 |
| 10 | <p>身体は洗わず湯船に浸かるだけの場合はどのように判断するのか。</p>                                                                                         | 「行っていない」 | <p>湯船に浸かるだけで日常的に「洗身」を行っていないければ「行っていない」を選択してください。（県）</p>                                                                                            | 2010/12/8 |
| 11 | <p>最後に洗い流すことは「洗身」に含まれるか。<br/>         定義について「全身を洗うことをいう」とあるが、石鹸をつけて洗うことは見守りなしで自分でできるが、最後のシャワーなどでの洗い流しのみ「見守り」を受けている場合はどうか。</p> | 「介助なし」   | <p>石鹸を洗い流す行為については、定義に規定されていません（「洗身」の定義は、浴室内（洗い場や浴槽内）で、スポンジや手拭い等に石鹸やボディシャンプー等を付けて全身を洗うことについて介助が行われているかどうかで選択します）。定義以外の状況については、特記事項に記載してください。（県）</p> | 2010/12/8 |
| 12 | <p>洗身していない方でも清潔が保てていれば「介助されていない」を選択。不潔であれば適切な介助の方法で「見守り」「一部介助」を選択すればよいのか。</p>                                                 |          | <p>日常的に洗身を行っていないければ「行っていない」を選択しますが、実際の介助方法が不適切と判断できれば適切な介助の方法を選択し特記事項に判断根拠も含め状況を記載してください。（県）</p>                                                   | 2010/12/8 |

1-11 つめ切り

| No | 事例                                                                                                                                                                                                                                                                            | 選択                          | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 開始時期                             |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 1  | 調査日 2 週間前に家族が手足の爪を切り、調査日 1 週間前に状態が変わらずに入院し、入院後は爪切りの機会がなく、爪が伸びておらず不適切さもない場合は、介助なしで良いか？                                                                                                                                                                                         | 「全介助」                       | 状態が変化しているかどうかにかかわらず、過去概ね 1 ヶ月の状況で判断する。質問の場合はひと月に 1 回全介助が発生しているのみなので、「全介助」を選択。<br>このひと月で全く爪切りをしておらず、爪が伸びている等の不適切さがなければ「介助なし」を選択する。爪が伸びている等の不適切さがあれば、適切な介助を想定し選択する。<br>(県)                                                                                                                                          | 2017/5/26                        |
| 2  | デイで行ってもらっている方で家では自分で行っていたり、明らかにできるというような、むしろ本人の自立を阻害しているような場合について。過剰介護の根拠が無い限りはあえて勘案せず、その状況で判断してよいのか。                                                                                                                                                                         |                             | 根拠がなければ、その状況で判断してください。実際の爪切りの状況だけではなく、麻痺の状況や指先の動き、膝の拘縮、腰の状況等からも不適切な状況と判断することは可能です。<br>(県)                                                                                                                                                                                                                         | 2010/12/8                        |
| 3  | 本人の生活習慣でまったく切っていないと言われる人は「介助なされていない」でよいのか。本人の能力としては足の爪を切れそうにない状態である。                                                                                                                                                                                                          |                             | 介助の方法で判断するため、原則「介助されていない」と判断しますが、爪の状況等を確認し介助が不適切と判断できる状態があれば、適切な介助の方法を選択し、判断根拠も含めて状況の特記事項へ記載してください。<br>(県)                                                                                                                                                                                                        | 2010/12/8                        |
| 4  | (2) 選択肢の選択基準「2. 一部介助」に「左右どちらか片方の手のつめのみ切れる、手のつめはできるが足のつめはできない等で一部介助が発生している場合も含む。」とありますが、(3) 調査上の留意点及び特記事項の記載例①「朝昼夜等の時間帯や体調等によって介助の方法が異なる場合」では「一定期間（調査日より概ね過去 1 か月）の状況において、より頻回に見られる状況や日頃の状況で選択する。」とあります。手爪を 4 回介助なく切り、足爪は肥厚しており自分では切れず通院時に医師に 1 回すべて介助され切ってもらった場合はどのように判断するのか。 | <del>「介助なし」</del><br>「一部介助」 | <del>朝昼夜等の時間帯や体調「等」によって介助の方法が異なる場合は、一定期間（調査日より概ね過去 1 ヶ月）の状況において、より頻回に見られる状況や日頃の状況で選択します。その場合、その日頃の状況等について、具体的な内容を「特記事項」に記載してください。つまり、朝昼夜の時間帯や体調に拘らず、一定期間のより頻回な状況で判断してもらうため、お問い合わせの件については「介助なし」となります。(国)</del><br>(2) 選択肢の選択基準「2. 一部介助」に「左右どちらか片方の手のつめのみ切れる、手のつめはできるが足のつめはできない等で一部介助が発生している場合も含む。」に基づき選択してください。(市) | <del>2018/3/2</del><br>2019/12/2 |

|   |                                            |      |                                                                    |            |
|---|--------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------|------------|
| 5 | 自分で爪切りを準備をし、手足爪を切り片付ける。妻が新聞紙を敷き、ゴミ箱の準備をする。 | 介助なし | テキスト P60 (3) より、切ったつめを捨てる以外の、つめを切った場所の掃除等は含まないことから介護の手間として評価する。(市) | 2020/11/01 |
|---|--------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------|------------|

# 1-12 視力

| No | 事例                                                                                                                                                                                                                                            | 選択     | 理由                                                                                                                                                                            | 開始時期                     |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1  | 「普通」を選択するのは、どのような状況の場合か？                                                                                                                                                                                                                      |        | 「普通」とは、「新聞、雑誌などの字が見え、日常生活に支障がない程度の視力を有している場合」のため、日常生活に支障がなければ「普通」を選択する。(県)                                                                                                    | 2016/6/30                |
| 2  | 視野狭窄や半側空間無視があり、介護者が最初に片側に食器を置けば自分で最後まで自己摂取できるが、最初の介助がなければ食べられない場合は、日常生活に支障があると判断して視力確認表の判断で良いか？<br>※新聞や雑誌等の文字は読める場合とする。                                                                                                                       |        | 視力確認表の判断で良い。最初に介助がなければ、自分で食事摂取できないため、支障があると考え、「普通」ではなく、視力確認表での判断となる。(市)<br>※同様に、日常生活に支障があると判断する例として、視野狭窄や半側空間無視のために、毎食、食事中に皿の置き換えが必要な場合や外出時に毎回ガイドヘルパーが必要な場合は、視力確認表での判断で良い。(市) | 2016/11/16<br>2020/11/01 |
| 3  | 視野狭窄があり、正面では新聞等の文字が見えないが、視野がある位置（正面ではない場所）に位置をずらせば新聞等の文字が見える場合は「普通」と判断して良いか？<br>※日常生活には支障がない場合とする。                                                                                                                                            | 「普通」   | 正面の位置でなくても、新聞等の文字が見ることができれば、「普通」と判断する。(市)<br>※視力確認表であれば本人の正面に置くことを原則としているが、新聞、雑誌などの文字を見るときには、そうではないため。(国：厚生労働省老健局老人保健課 Q&A 問 12 参照)                                           | 2016/11/16               |
| 4  | 認知症の方で視力確認表で判断できない方は「判断不能」を選択との事であるが、視力確認表が認識できないため、視力表では判断ができない方の場合、実指では(例、1本)とわかっていても、判断不能とするのか、それとも実指で判断していいのか。視力確認表の検査の有効が無効かで決めていいか、またその検査が有効とする基準は下記のうちどれか<br>① 認知症の人が指真似をする→O K<br>② 視力確認表を注視し、追視をする→X<br>or ○<br>③ 視力確認表を注視するが追視しない→X | 「判断不能」 | 判断ができないのであれば「見えているのか判断不能」を選択。その上で日頃の状況の特記事項に記入します。(県)                                                                                                                         | 2010/12/8                |
| 5  | 反応ない人、違う物で答える人は判断不能を選択。日常生活の中で確実に見えるという事実があれば、そこで判断し選択しても良いか。                                                                                                                                                                                 |        | 新聞、雑誌などの字が見え日常生活に支障がない程度の視力があることが確認できれば「普通」を選択します。生活全体を聴き取って判断してください。判断できないのであれば、「見えているのか判断不能」を選択してくだ                                                                         | 2010/12/8                |

|    |                                                                                       |        |                                                                                                                                                                                     |           |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
|    |                                                                                       |        | さい。その上で日頃の状況の特記事項に記載してください。また、「認定調査員テキスト 2009 改訂版」P 20 下から 5 行目も参照してください。(県)                                                                                                        |           |
| 6  | 認知症があり、聞いても、視力確認表を見せても返答が得られないが普段目の前にある食事を摂取できる人については「普通」なのか「見えているのか判断不能」かどちらなのか。     |        | 認知症の方でも新聞、雑誌などの字が見え、日常生活に支障がない程度の視力があることが確認できれば「普通」を選択してください。食事摂取だけでは判断できませんので生活全体を聴き取って判断してください。<br><br>判断できなければ「見えているのか判断不能」を選択し、特記事項に状況を記載し介護認定審査会において一次判定の修正・確定および二次判定を行います。(県) | 2010/12/8 |
| 7  | 視覚失認があり、調査時視力確認表を目の前に置いて「見えない」と言うが、日頃どこにもぶつかることなく移動できており、見えていると思うと家族が言う場合はどう判断したら良いか？ | 「判断不能」 | 調査員が見えているかどうか判断できなければ「見えているかどうか判断不能」を選択し「判断不能」と判断した根拠と家族から聴き取った日常生活の状況の特記事項に記載し介護認定審査会において一次判定の修正・確定および二次判定を行います。(県)                                                                | 2010/12/8 |
| 8  | 新聞の見出し程度の大きさの文字を目の前に近づければ見える場合、普通か、それよりも重度の判断のどちらでとりますか？                              |        | 日常生活に支障があるかどうか分かりませんが、普通に文字が見えている状況ではなさそうですので、「悩んだが」として「約 1m 離れた視力確認表の図が見える」以下の判断になるのではと考えられます。(市)                                                                                  | 2018/5/25 |
| 9  | 「新聞、雑誌などの文字」は大きさがそれぞれ異なると思うが、どの程度の大きさの文字とするのか。                                        |        | 見出しの大きな文字ではなく、記事等の小さい字を指すと解釈し、普通に小さい字を見ることができ、日常生活に支障がない程度の視力を有している場合を「1. 普通」で判断することとします。(市)                                                                                        | 2019/12/2 |
| 10 | 外国の方については、新聞等の文字が見えるかどうかどのように確認すると良いか。                                                |        | 新聞の小さい文字と同じ程度の大きさの数字を「新聞、雑誌などの文字」に含めて判断してください。(市)                                                                                                                                   | 2020/4/1  |

1 - 13 聴力

| No | 事例                                               | 選択   | 理由                                                                                                                                                              | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 寝たきりで、普通の声で呼ぶと追視して反応がある場合の判断は？                   | 「普通」 | 反応のある場合は、その声の大きさに応じて選択する。(県)                                                                                                                                    | 2010/12/8 |
| 2  | 大きめの声で聞こえる方は「やっ」と、耳元で大声で聞こえる方は「大声が聞こえる」と判断して良いか。 |      | 「大きめの声で聞こえる」「耳元で大声で聞こえる」で判断するのではなく、「認定調査員テキスト 2009」p 67「(2) 選択肢の選択基準」に合わせて、「普通の声で話すと聞き取りにくい」場合は「やっ」と聞こえる、「耳元で大きな声や、かなり大きな声や音でないと聞こえない」場合は「大声が聞こえる」で判断してください。(市) | 2019/12/2 |



# 第 2 群

## 生活機能



## 見守り判断の基準

(※) 2-1、2-2以外の介助の方法の項目については、転倒予防を目的とする見守り等、一連の行為に対する見守りを目的としない場合は判断に含めない。

|                          | 洗身 | つめ切り          | 移乗                                       | 移動 | 食事摂取   | 排尿・排便     | 口腔清潔    | 洗顔       | 髻髪 | 上衣・ズボン | 薬の内服 | 買い物 | 簡単な調理 |
|--------------------------|----|---------------|------------------------------------------|----|--------|-----------|---------|----------|----|--------|------|-----|-------|
| ところどころ見守り<br>（「常時」の記載なし） | ○  | ○<br>(確認実績なし) | ×                                        | ×  | ×      | ×         | ○       | ○        | ○  | ×      | ○    | ×   | ×     |
| 常時の見守り                   | ○  | ○             | ○                                        | ○  | ○      | ○         | ○       | ○        | ○  | ○      | ○    | ×   | ×     |
| ところどころ確認・指示・声かけ          | ○  | ○             | ×                                        | ×  | ○      | ×         | ○       | ○        | ○  | ×      | ○    | ○   | ○     |
| 認知症高齢者に対する<br>確認・指示・声かけ  | -  | -             | ○                                        | ○  | -      | 誘導のみ<br>○ | -       | -        | -  | ○      | -    | -   | -     |
| 特殊パターン                   |    |               | 車いすの差し入れ<br>清拭・褥瘡予防目的<br>の体位変換、シーツ<br>交換 |    | 皿の置き換え |           | 磨き残しの確認 | 衣服の濡れの確認 |    |        |      |     |       |

H22.2.2厚生労働省老健局老人保健課 事務連絡 「要介護認定の見直しに係る検証・検討会」における検討結果を踏まえた認定調査及び介護認定審査会における留意事項等について

「特記事項の適切な記載がポイントとなる質問の例」

質問例①

1-10「洗身」について

洗身行為自体は介助が行われていないが、洗身時の転倒防止のために見守っている場合、

見守り目的が調査項目の定義に記載される行為の見守り（洗身がきちんとできているかの見守り）でない場合でも、

「見守り」を選択してよいか。

質問例②

2-4「食事摂取」について

基準では、食事中に「常時」見守りを行っている場合に「見守り」を選択することとなっているが、

1回の食事の最中にところどころ声かけ見守りをしている場合のように、

「見守り」の基準に含まれているかどうかの判断に難しい場合でも、「見守り」を選択してよいか。

<回答>

基準に従って「介助されていない」を選択するが、特記事項に、実際に行われている介護の手段について記載する。

### 食事摂取の見守りについて

愛知県からは、H29.6.15に「常時の付き添いの必要があるのは「見守り」のことを指していて、「行為の確認・指示・声かけ・皿の置き換え」は常時の付き添いでも「見守り等」を選択してもよい」



## 2-1 移乗

| No | 事例                                                                                                                               | 選択    | 理由                                                                                                                                       | 開始時期       |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 移乗の類似行為は存在するか？ベッドから降り、Pトイレまで歩き、Pトイレに座る際に介助がある場合に「移乗」の類似行為と考えるか？                                                                  |       | 考えない。類似行為という考え方はテキストに存在しないため、実際の介助から選択を行なう場合の参考にはならない。(国)                                                                                | 2010/12/8  |
| 2  | トイレまで這って移動し便座に腰かける時に、介護者が腰を引き上げる介助をする。移乗として「一部」と判断してよいのか？                                                                        | 「一部」  | 床からトイレの移乗に介助があるため、「一部」を選択。移乗と移動は別で考える。(県)                                                                                                | 2016/4/15  |
| 3  | ベッドから這ってトイレまで行き、でん部を床につけることなくトイレに乗り移る場合、移乗として評価してよいのか。                                                                           |       | 評価してよいです。<br>「でん部が床についている状態から」という記載はテキストにもないため、いざる、這う等での床に近い姿勢からトイレに乗り移る場合は、でん部が床についているかどうかにかかわらず、テキスト P70「畳からポータブルトイレへ」に含めて評価してください。(市) | 2019/9/2   |
| 4  | 移乗の機会がない。移乗が自力ではできず、ベッド上の生活で、褥瘡予防のために定時で看護師が体位変換する。この場合の選択はどうなるか。                                                                | 「全介助」 | 褥瘡予防のための体位変換の介助があれば、実際の介助で「全介助」を選択。(市)                                                                                                   | 2013/5/24  |
| 5  | 歩行できる。車椅子を使用することがあり、この1週間では車椅子を使用する頻度が多い。移乗時は、常時見守られて車椅子に移る。この場合の選択はどうなるか。                                                       | 「見守り」 | 歩行頻度に関わらず、移乗行為があればその頻度で選択する。なお、「でん部を移動させ、いす等へ乗り移ること」「清拭・じょくそう予防等を目的とした体位変換」「シーツ交換の際に、でん部を動かす行為」は全て移乗として評価できる。(市)                         | 2016/12/28 |
| 6  | 動ける人や介護を要する程度が軽度の人には移乗が発生しない(臀部を移動させ、いす等へ乗り移ることがない人)ことがありうるのか。また、その場合は「介助されていない」と判断してよろしいか。                                      |       | 移乗が発生しない場合は、適切な介助の方法を選択し、そのように判断できる具体的な事実を特記事項に記載することを原則としているが、想定した結果「介助されていない」を選択することとなる場合は記載を省略できることとする。(市)                            | 2016/12/28 |
| 7  | 普段トイレに自分で座る事ができる方で車椅子から車(タクシー等)に移乗する機会が1週間の間に1回しかなかった場合、その介助が全介助だったとすると、不適切な介助(過剰な介護)で選択し、「見守り」か「一部介助」を選択する。もしくは、移乗の際に高低差があり全介助の |       | そのとおり。その方に発生した移乗についての介助の方法を選択する。その介助の方法が不適切であった場合は適切な介助の方法を想定して判断すること。(市)                                                                | 2016/12/28 |

|    |                                                                                            |        |                                                                                                                                     |           |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
|    | 必要があった等その理由を特記事項に明記するということによいか。                                                            |        |                                                                                                                                     |           |
| 8  | 軽度者、直接乗り移る行為がない人の場合で杖歩行して立位から椅子・便座に座る行為は（ふらつきがあり見守り・一部介助あり）定義上の「移乗」行為と考えるとよいのか。            | 含まない   | 認定調査員テキスト 2009 改訂版 P 70（1）調査項目の定義の 4 行目「・・・等、臀部を移動させ、椅子等へ乗り移ることである」の記載を参照してください。（県）                                                 | 2010/12/8 |
| 9  | トイレに座らせるとき、認知症で体の位置を定められず、体の位置を定めて座らせる場合や、体を支えて座らせる場合はどのように考えたらよいか。                        | 「介助なし」 | いすへ座らせる際の介助については移乗の定義にはありません。歩行が間に入ると移乗ではありません。移乗とはあくまでも殿部の移動です。<br>トイレ（ポータブルトイレではない）への移乗は、車いすを使わない限りあまり起こらないと考えます。（県）              | 2010/12/8 |
| 10 | 2-1・2-2・2-10・2-11 の「見守り」の定義に「認知高齢者等の場合に必要となる行為の「確認」「指示」「声かけ」等のことである。」とあるが、常時付き添いがなくても良いのか。 |        | 認知症高齢者等の場合には、常時の付き添いが無くても、必要な行為の「確認」「指示」「声かけ」等があれば「見守り」を選択できる。（県）                                                                   | 2017/5/9  |
| 11 | 車いすを使用できない等の理由で、介護者が本人を抱きかかえたり、背負ったりして、ベッドからトイレ等まで移動して乗り移る場合は、どのように判断するか。                  | 「全介助」  | 移乗とは「でん部を移動させ、椅子等へ乗り移ること」であるため、距離が少し離れた場所であっても評価します。その場合は「移乗」と「移動」の両方を評価してください。また、ベッドから少し離れた訪問入浴の浴槽への移動についても、同様に「移乗」も「移動」も評価します。（市） | 2023/7/7  |
| 12 | 浴室洗い場の椅子から、介護者が本人の体を抱え上げ、直接浴槽に降ろす場合はどのように判断するか。                                            | 「全介助」  | 「全介助」を選択してください。<br>移乗のNo.10 にもあるとおり、少し距離が離れていても臀部を面から面へ移動させる場合は移乗の介助として評価します。（市）                                                    | 2023/7/7  |

## (2-1) 移乗の判断について

H30.8.31

### 留意点【調査時に必ず聞いてくること】

#### ① 1週間以内に以下の行為が生じていないか

- (1) 移乗（車椅子からベッド、ベッドからPトイレ等）
- (2) 体位変換（腰上げ程度は含めない）の介助
- (3) 清拭・シーツ交換の時に臀部を動かす行為

#### ② ①が生じている場合、頻度と介助内容を確認

- (1) 介助されていない…移乗に介助が行われていない場合
- (2) 見守り等…常時の付き添い等
- (3) 一部介助…介護者が手を添える、体を支える等
- (4) 全介助…介護者が抱える、運ぶ等

#### ③ ①が生じていない場合、寝たきり状態等の方かどうか確認

(1) 歩行できるような人の場合→テキスト P71③の規定は適用されず、機会もなく「介助なし」として考える。

(2) 寝たきり状態等の人の場合→適切な介助の方法を選択する。

＜特記事項の例＞

#### ・【介助なし】

介助なく移乗する。今週1回、通院時に家族が車の横に車椅子を置くと、見守りなく自分で肘掛等を支えにしながら乗り移った。

#### ・【歩行しているが手間として車椅子移乗の状況を書きたい】

歩行機会が多く介助なし。

この1週間で移乗は発生していない。調査2週間前に通院した際車椅子を使用し、車からの移乗を嫁が支えて介助した。

#### ・【歩行することが多いが1週間以内に移乗の機会がある場合】

嫁が腰を支えて車いすへの移乗を介助。調査3日前に通院した際、車に横付けした車椅子へ移乗。車椅子利用は通院時のみ。

#### ・【想定して全介助】

- ① ■車椅子に移乗時は抱える介助が必要。四肢ともに筋力の低下が顕著であり、車椅子（ストレッチャー）に移乗するためには、抱える介助が必要と判断し「全介助」。この1週間での移乗はない。
- ② ■職員が全介助で体位変換をする必要がある。寝たきり状態で四肢に力も入らず、自力で寝返りができないため。エアーマットを使用し、この1週間で体位変換、寝返りの機会はない。



## 2-2 移動

| No | 事例                                                                                                                                                                | 選択     | 理由                                                                                                                                                       | 開始時期                    |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 歩行器を介護者が引っぱることで、歩く場合は、「見守り」か「一部」か？                                                                                                                                | 「一部介助」 | 移動の行為に一部介助が発生していると考え<br>る。(県)<br>介護者の肩に掴まる、段差等で介護者が歩行<br>器を持ち上げたり、進行方向に歩行器の向き<br>を合わせる、方向転換時に介護者が体を支え<br>る場合も含む。(市)                                      | 2012/9/14<br>2020/11/01 |
| 2  | 週1回自宅で這って移動し、残りの週6回<br>はデイサービスやショートステイなどで<br>車椅子を使い、全介助してもらっている。<br>過去1週間の様子での頻度でチェックと<br>なっているが、こういった場合はどのよ<br>うに判断すればいいか。一日単位でまと<br>めてみるのか、移動回数を細かく数えて<br>みるのか。 |        | 移動は生活全体で確認するため、日常生活に<br>において必要な場所への移動がどのように介助<br>されているのか確認します。朝昼夕および日<br>によって介助の方法が異なる場合は、それぞ<br>れの移動の場面ごとに、移動の介助の方法を<br>過去1週間の状況で確認し頻度で判断してく<br>ださい。(県) | 2010/12/8               |
| 3  | 寝たきりの方で10日前に移動する機会<br>があったが、ここ1週間ではなかった場<br>合「1. 介助されていない」と選択してい<br>いのか。<br>例) 施設入所や病院入院中の方は1週間<br>以内に移動の機会があると思うが、在宅<br>の方は1週間以内にないこともある。                        |        | 認定調査員テキスト2009改訂版P74の③を<br>参照してください。また特記事項に状況を記<br>載してください。(県)                                                                                            | 2010/12/8               |
| 4  | 認知症高齢者等の場合に必要行為の<br>「確認」については、「移動」を「確認」<br>する必要がある場合で、常時側について<br>いなくても、遠目にでも確認をしていれ<br>ば「見守り等」に該当すると考えられま<br>すか、いかがでしょうか。                                         |        | 認定調査員テキストP73 見守り等の選択基準<br>に基づいて選択すること。(県)<br>認知症高齢者等の場合に必要行為の「確認」<br>については、「移動」を「確認」する必要があ<br>る場合で、常時側についていなくても、遠目に<br>でも確認をしていれば「見守り等」に該当しま<br>す。(市)    | 2017/12/13              |
| 5  | 「生活上必要な場所への移動」とは、往復<br>か片道、どちらで評価を行うのか。                                                                                                                           |        | 「片道」で評価をしてください。より頻回に見<br>られる状況で選択するため、場面ごとでの評<br>価を行っていただきます。(市)                                                                                         | 2018/11/30              |
| 6  | 自分で歩いて移動するが、介護者が蓄尿<br>袋を持って一緒に移動する。                                                                                                                               | 見守り等   | 本人に付き添い、見守りをしていなければ移<br>動ができないのであれば該当する。特記事項<br>に「移動を見守る」と必ず記載する。(市)                                                                                     | 2020/11/01              |



## 2-3 えん下

| No | 事例                                                                                                                                                                 | 選択                 | 理由                                                                                                                                                                       | 開始時期                    |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 嚥下がうまくできない為「嚥下訓練中」で昼食のみトロミ食を PT 見守りのもと摂取。朝夕は経管栄養を注入する。この場合どのように判断するのか。                                                                                             | 「できない」             | 嚥下訓練中は一般的には日頃の状況でないと考える。(1-7 歩行リハビリと同様の考え方) この場合は朝夕は経管栄養の状況から判断する。(県)                                                                                                    | 2010/12/8               |
| 2  | 点滴のみでずっと食事をしていない場合はどう判断したらよいか？                                                                                                                                     | 「できない」             | 嚥下ができないからずっと点滴をしているということが確認できれば「できない」を選択する。(国)                                                                                                                           | 2010/12/8               |
| 3  | 胃腸疾患のため入院し医師の指示で絶食。水分は咽なく飲めている。入院前は普通食をスムーズに嚥下できていて、嚥下能力は入院後も変化はない場合、「できる」を選択してよいか？<br>また、同じ状況でも医師の指示で絶飲食。水分も飲んでいない。入院前は普通食をスムーズに嚥下できていた。長期間絶食しており、嚥下できるか分からない場合は？ | 「できる」<br><br>「見守り」 | 絶食の理由が嚥下できないわけではなく、嚥下能力自体は障がいされていないため、日頃の状況より、「できる」を選択する。(県)<br><br>調査員科 P76 より、「できる」「できない」のいずれにも含まれない(不明な)場合は「見守り」を選択する。                                                | 2011/7/28<br>2020/11/01 |
| 4  | えん下の「見守り」とは、どのような状況が該当するのか？                                                                                                                                        |                    | テキスト通り。状況が迷う場合は特記事項に状況を記載する。(県)<br><br>「できる」でも「できない」でもない状況。「できる」というのは、えん下することに問題がなく、自然に飲み込める場合のため、「見守り」は、頻回に咽ることが多いか、もしくはスムーズな飲み込みができない(飲み込みに時間がかかる)ことが多い場合が該当すると考える。(市) | 2016/6/30               |
| 5  | 嚥下ができず I V Hを行っている方であるが、牛乳だけは飲めるので日頃飲んでいる。牛乳が飲める状況で判断してよいのか。                                                                                                       | 「できない」             | 嚥下ができず I V Hを行っている方に牛乳だけ飲ませてみたら飲めたという状態であれば、「できない」を選択し特記事項に状況を記載します。(県)                                                                                                  | 2010/12/8               |
| 6  | テキストにはどのようなものを「食物」とするのかという記載はなく、「固形物か、液体かどうか等、食事の形状によって異なる場合も、より頻回にみられる状況や日頃の状況で選択する。」とある。そのため、液体状の食物や間食等の全ての食物を含めて評価するものと思われるが、いかがか。                              |                    | 調査時に悩むものについては「たべもの」として摂取しているかを聞き取り、その結果に基づいて判断することとします。おそらく、アイスやお菓子、栄養価の高いジュース等は含まれてくると思われる。(市)                                                                          | 2017/12/13              |

|   |                                                                                |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |            |
|---|--------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 7 | ゼリーのようなものはスムーズに飲み込みできるが、普通食では誤嚥の恐れがあるために経管栄養を行っている方の場合、ゼリーの経口摂取と経管栄養の頻度選択となるか。 |  | なりません。「3. できない」を選択します。<br>テキスト P76(3)調査上の留意点及び特記事項の記載例に「固形物か、液体かどうか等、食物の形状（普通食、きざみ食、ミキサー食、流動食等）によって異なる場合も、一定期間の状況において、より頻回に見られる状況や日頃の状況で選択する。」とあります。ここでは経口で摂取する形状については頻度選択するという旨で記載がされていますが、経管栄養は含まれていないと当市では解釈しています。そのため、誤嚥の恐れがあるために経管栄養を行っている方は、どれだけゼリー等で嚥下できていても「できない」を選択してください。（市） | 2018/11/30 |
|---|--------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|

## 2-4 食事摂取

| No | 事例                                                                                           | 選択                          | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 開始時期                                 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 1  | 大皿から小皿に取り分ける介助は「一部介助」になるのか？                                                                  | <del>「介助なし」</del><br>「一部介助」 | 最初に取り分けるだけの場合は「介助なし」を選択する。食事中常時側について見守っているか、常時でなくてもよいが食事摂取動作について確認・指示・声かけを行っているか、皿の置き換え等行っている場合は「見守り等」を選択する。 <del>（市）</del><br>配膳は食卓に食事を並べた時点とします。食べ始める前に食事をとりわけけることは配膳に含めます。食器から食事を口に移し始めたのちに食事をとりわけけることは「食べやすくするための介助」として考え、1回だけかどうかに関わらず一部介助を選択してください。 <del>（市）</del><br>調査対象者一人分の食事として並び終えた時点を配膳完了とします。配膳後、調査対象者のためだけに取り分ける等の介助が発生している場合は、一部介助となります。※最初の取り分け等、介助者が家族や他入所者にも同じように行っている行為は介助なしとなります。<br>（市） | 2018/2/26<br>2018/10/25<br>2021/10/4 |
| 2  | 食欲低下や精神疾患等で食事を拒否しており食事摂取量が極端に少ない場合、不適切と判断し介助の方法を選択してよいのか？                                    |                             | テキスト P79（3）に「食事の量、適切さを評価する項目ではなく、食事摂取の介助が行われているかどうかを評価する項目である」と記載あり。<br>食事量は判断には含まないが、体重減少が著明等明らかに不適切と判断できる根拠がある場合は特記事項に記入し、介助の必要性を検討する。（県）                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2011/3/4                             |
| 3  | 中心静脈栄養の介助も含まれることになったが、中心静脈栄養が中心で、補助的に経口摂取による自己摂取も同時に行っている場合、頻度で判断することは困難であるため、主栄養源で考えればよいのか？ | 「全介助」                       | テキスト P79（3）に「経管栄養、中心静脈栄養のための介助が行われている場合は「4.全介助」を選択する」とあるため。全体の手間が分かるよう、具体的な状況は特記事項に記載してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2018/2/26                            |
| 4  | 経口摂取による自己摂取が中心で、補助的に中心静脈栄養を同時に行っている場合はどのように判断するのか。                                           | 「全介助」                       | 主栄養か補助栄養かに関わらず、テキスト P79（3）に「経管栄養、中心静脈栄養のための介助が行われている場合は「4.全介助」を選択する」とあるため。全体の手間が分かるよ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 2018/2/26                            |

|    |                                                                                                                                          |        |                                                                                                                                        |                         |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
|    |                                                                                                                                          |        | う、具体的な状況は特記事項に記載してください。(市)                                                                                                             |                         |
| 5  | 毎食、食事の時にその都度スプーンを手<br>に持たせる介助がある場合は、「一部」に<br>該当するのか？                                                                                     | 「一部介助」 | 毎食、その都度、スプーンを毎回手に持たせる<br>介助があれば「一部介助」。ただし、食事の最<br>初に1回のみスプーンを持たせ、それ以降は<br>介助がない場合は、「介助なし」を選択。介護<br>の手間として特記事項に記載。(県)                   | 2016/6/30               |
| 6  | 食欲不振のため、職員が、毎食 2～3 口<br>食事としてゼリーをスプーンで口に運び<br>食べさせている。それ以外は点滴のみ。こ<br>の場合の 2-4 食事はどのような判断にな<br>るのか？                                       | 「全介助」  | ゼリーは食物であるため、その時の介助の方<br>法で「全介助」を選択。(市)                                                                                                 | 2018/2/26               |
| 7  | ① 本人がスプーンで食べるが、スプーン<br>に食物を載せているのは「見守り」になる<br>のか。<br>② 本人がスプーンで食べるが、スプーン<br>を介護者が支え、スプーン等をすくって<br>いるのは「見守り」か、それともスプーン<br>フィーディングに該当するのか？ | 「一部介助」 | 食事中の介助（食器から口に入れるまでの行<br>為の介助）にあたるため、「一部介助」に該当<br>します。(県)                                                                               | 2010/12/8               |
| 8  | 好きな物ばかり摂取してしまったり、<br>次々に口に入れるため傍らで見守り声掛<br>けするなどの理由で食物を摂取する行為<br>を見守っていれば、「見守り」を選択して<br>良いでしょうか。                                         | 「見守り等」 | 常時付き添いの必要な見守りや、行為の「確<br>認」「指示」「声かけ」「皿の置き換え」が行わ<br>れていれば「見守り等」を選択してください。<br>(市)                                                         | 2010/12/8               |
| 9  | 経管栄養・中心静脈栄養の介助も含まれ<br>ることになったが、点滴のみの場合も同<br>様に考えてよいか。                                                                                    |        | 点滴は含みません。(県)                                                                                                                           | 2010/12/8               |
| 10 | 食事を皿に寄せたり、皿を傾けてすくい<br>易いようにする介助は「一部」になるでし<br>ょうか？                                                                                        | 「一部介助」 | 食べやすくするための介助と判断しますが、<br>朝昼夕および日によって介助の方法が異なれ<br>ば頻度で判断します。また、介助の状況につい<br>ては必ず特記事項に記載してください。(食事<br>1回にどのくらい寄せる、傾ける介助を行っ<br>ているか等)(県)(市) | 2010/12/8<br>2020/11/01 |
| 11 | 「行為の確認・指示・声かけ・皿の置き換<br>え」は常時の付き添いでなくても「見守り<br>等」を選択してもよいか。今回、食事の間<br>は遠目で見守り、一点食べになるため皿<br>をその都度置き換えており、そうしないと<br>食事が摂取できないという方がいました。    | 「見守り等」 | 御推察のとおり。(県)<br><br>県からの回答のとおり、「行為の確認・指示・<br>声かけ・皿の置き換え」は常時の付き添いでな<br>くても「見守り等」で判断してください。(市)                                            | 2017/6/15               |

|    |                                                     |  |                                                                                                                                                                                                                                                                             |            |
|----|-----------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 12 | 「見守り等」と「一部介助」の違いは何か。                                |  | 「行為の確認・指示・声かけ・皿の置き換え」は「見守り等」で選択し、それ以上の食べやすくするための介助は、自分でできることがあれば「一部介助」として選択をしてください。ただし、最初のスプーン持たせは配膳とします。(市)                                                                                                                                                                | 2018/10/25 |
| 13 | 視覚障がい者に対するメニューの説明は「見守り等」に含まれるのか。                    |  | 含まれないと考えます。配膳後に「食器から口に入れるまでの行為」について「確認・指示・声かけ」を行っている場合を「見守り等」として判断するため、食事を認識するためのメニュー説明は含まれないと考えられます。また、視覚障がい等によって食器から口まで運ぶために、皿の場所や口への入れ方等について配膳後に声かけを行っている場合は、配膳後に「食器から口に入れるまでの行為」について「確認・指示・声かけ」を行っていると考えられるため「見守り等」を選択します。(市)                                           | 2018/10/25 |
| 14 | 食事の最後だけ皿の置き換えを行っている場合は、「見守り等」に含まれるのか。               |  | 含まれると考えます。最初や最後、また食事中常時側についているかに関わらず「皿の置き換え」が食事中にされた場合は「見守り等」を選択します。(市)                                                                                                                                                                                                     | 2018/10/25 |
| 15 | 本人が麻痺等の理由でソース等を食事にかけてられないために、介護者がかけてあげる介助は評価に含まれるか。 |  | 含まれないと考えます。テキスト P78 の「3.一部介助」の中の「食べやすくするための介助」は食事形態についての介助を対象としている文章であると類推されることから、食事中に調味料をかける介助は手間として特記事項に記載してください。(市)                                                                                                                                                      | 2018/10/25 |
| 16 | 食事中にお椀の蓋を取る介助は評価に含まれるか。                             |  | 含まれないと考えます。蓋を取らないと食事ができないだろうと考えられますし、テキスト P78 の「3.一部介助」の中に「この「一部介助」については、時間の長短は問わない。」ともあります。しかし、蓋を取るだけで樹形モデル図に影響の特に大きい「一部介助」を選択することは適正な認定を出す認定調査の目的からも外れるおそれがあることから、蓋を取る介助は評価に含めずに判断してください。なお、スプーンを食事中に手渡す行為については、「スプーン等に食べ物を乗せる介助」が含まれていることから同等の介助であると解釈し、評価に含めることとします。(市) | 2018/10/25 |

|    |                                                                                   |      |                                                       |            |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------|------------|
| 17 | 嚥下訓練で日 1 回、ゼリーを ST が全介助で食べさせる。点滴のみで経管栄養や中心静脈栄養は行っていない場合は食事として「全介助」で評価してよいか。       | 介助なし | 嚥下訓練のゼリー食は食事としない。(市)                                  | 2020/11/01 |
| 18 | この 1 週間で 1 食のみ、全介助にて食事をした。その他 6 日間は食事摂取できず点滴のみ。中心静脈栄養や経管栄養は行っていない場合の評価は「全介助」でよいか。 | 全介助  | 実際に食事の機会が発生した時の状況で評価する。(市)                            | 2020/11/01 |
| 19 | 配膳後に、介助者がご飯茶碗の上におかずをのせるのは「一部介助」でよいか。                                              | 一部介助 | 配膳後に発生しているため「一部介助」を選択してください。なお、配膳後に食べ始めているかどうかは問いません。 | 2021/10/4  |
| 20 | 医師の指示を受けて、リハビリとして嚥下訓練食を摂取する際に発生する介助はどのように判断するか。                                   | 介助なし | リハビリの訓練で嚥下訓練食を摂取しているため、食事摂取の介助として考えない。手間として特記事項に記載する。 | 2022/8/1   |

## 2 - 5 排尿

| No | 事例                                                                                                                 | 選択     | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 開始時期       |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 汚染したオムツの片付けの介助は、判断に含まれるか？                                                                                          |        | 判断には含まない。手間として特記事項に記入する。(県)                                                                                                                                                                                                                                                             | 2010/12/8  |
| 2  | パッドの手直しの介助は判断に含まれるか？                                                                                               |        | 判断には含まない。手間として特記事項に記入する。(県)                                                                                                                                                                                                                                                             | 2011/4/1   |
| 3  | トイレに自動水洗機能がついており、水洗しに介助がない。他は全て介助されている場合は「全介助」と判断するのか？                                                             | 「全介助」  | その人に発生している中での介助の状況で判断する為、水洗以外の状況で判断する。(県)                                                                                                                                                                                                                                               | 2011/4/1   |
| 4  | ズボンの上げ下げは自分でできる。最後に衣類の整えの介助がある場合、「一部介助」としてよいのか？                                                                    | 「介助なし」 | 最後の衣類の整えの介助は、ズボンの上げ下げの介助に含まない。(市)                                                                                                                                                                                                                                                       | 2012/11/26 |
| 5  | 自分で昼間 6 回、夜間 4 回尿器に自分で排尿。指定の容器に毎回自分で捨てると、日に 3 回家族が容器にたまった尿を廃棄する。この場合の判断はどうなるのか？                                    | 「一部介助」 | 家族が容器の尿を捨てていれば、後始末の頻度が少なくても、尿器やポータブルトイレ等の後始末と同様と考え「一部介助」を選択する(市)。                                                                                                                                                                                                                       | 2016/9/14  |
| 6  | この 1 週間以内で直近 2 日は、自分で日に 6.7 回トイレ内で一連の動作を自立して行った。直近 2 日より以前の 5 日間は、留置カテーテル挿入中で日に 1 回看護師が尿を廃棄している場合は、どのように選択したらよいのか。 | 「介助なし」 | 認定調査員テキスト P81-83、要介護認定等の方法の見直しに係る Q & A (厚労省老健局老人保健課：平成 21 年 9 月 30 日事務連絡) 問 15 参照。より頻回な状況に基づき判断する。質問の場合では、6.7 回×2 日の回数の方が、1 回×5 日より多いため介助なしとなる。<br>なお、その際日頃の状況や周囲からの聞き取り内容等、具体的な内容を特記事項に記載すること。特に、今回のケースでは直近 2 日間とそれ以前では介助の方法が大きく異なるため、審査会委員が今後継続して介護の手間が必要かどうか判断できるよう、その事情も記載すること。(県) | 2017/5/22  |
| 7  | 排泄後、トイレ内ではズボンをしっかり上げれないがベッドに戻り自分で上げられる場合「介助なし」を選択してよいのか？                                                           | 「介助なし」 | トイレ内でできなくてもベッドに戻ってできていれば「介助なし」。ただし、ベッドまで移動する際に尿が漏れて汚れる等不適切な状況があれば必要な介助を選択する。(県)                                                                                                                                                                                                         | 2011/7/28  |
| 8  | P トイレを使用して自分で日に 7 回排尿をしているが、日に 3 回家族が P トイレに溜まった尿を捨てる。「介助されていない」が 4 回で、「一部介助」が 3 回となるか                             | 「一部介助」 | 頻度から「介助されていない」を選択するのは誤りで、排尿のたびに捨てると考え「一部介助」を選択する。(国)<br>尿器の後始末も同様(県)                                                                                                                                                                                                                    | 2010/12/8  |

|    |                                                                                                                                   |            |                                                                                                                                                                                   |                          |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 9  | 昼間は 6 回トイレで排尿、夜間は 2 回 P トイレで排尿し後片付けは朝家族が行なっている場合の判断は？                                                                             | 「介助されていない」 | 頻度から「介助されていない」が 6 回、「一部介助」が 2 回になるため。(国)                                                                                                                                          | 2010/12/8                |
| 10 | H21.10 月改定以降：トイレ等へ誘導するための声かけ（トイレのタイミングなど認知症高齢者に声かけをする場合）は？                                                                        | 「見守り」      | 認知症でトイレのタイミングがわからない方に定時で声かけをし、トイレへ誘導している場合などは「見守り」。誘導のための声かけとは、「今からトイレへ行きますよ。」という声かけのこと（トイレへ連れて行く際の声かけ）。「トイレへ行かなくても大丈夫？」という声かけとは異なる。(県)                                           | 2010/12/8                |
| 11 | 自分でパッドを換えないため毎回介護者がパッドの汚染を確認し交換を促している場合は「見守り」でよい？<br>(それ以外に介助はなく、見守りもない)                                                          | 「介助されていない」 | 常時の付き添いの必要がある「見守り」「指示」「声かけ」の場合は「見守り」だが、パッドの交換のみ見守り・指示の場合は「介助されていない」を選択する。(県)                                                                                                      | 2010/12/8                |
| 12 | シャワートイレのボタン操作のみできるが、その他は全て介助されている場合は「一部」？紙を渡すのみの介助は？                                                                              | 「全介助」      | ボタン操作のみ行っている、陰部や肛門を拭く介助をしていれば「全介助」。拭く行為の介助の有無で判断する為、紙を渡すだけなら介助には入らない。(県)                                                                                                          | 2010/12/8                |
| 13 | 周囲を汚す為排泄後に介護者が確認している。「見守り等」としてよい？                                                                                                 | 「介助なし」     | 排泄後の確認のみでは見守りとはいえない。「見守り等」は常時見守っている場合を言う。(県)                                                                                                                                      | 2011/6/20                |
| 14 | 排泄後、ズボンを上げきれず、そのまま部屋に戻り、介護者が毎回ズボンを上げている場合。「一部介助」を選択してよい？（ズボンを上げる動作以外は自分で行う。）                                                      | 「一部介助」     | トイレ以外の場所でも、排泄後に毎回ズボンを少しでも上げる介助があれば、実際の介助で選択。トイレ内で介助をしているかどうかは問わない。(市)                                                                                                             | 2017/5/9                 |
| 16 | 排尿時に毎回トイレ周囲を汚染するが、掃除は家族が日に 1 回気づいた時に行うのみの場合、どのように判断するか。<br><br>また、半数以上の尿汚染があるため新聞紙やトイレマットを敷いて、日に 1 回交換している場合も排尿直後の掃除として「一部介助」でよい？ | 「一部介助」     | 2-5 の排尿の、P トイレの片づけ、排尿直後の掃除については、実際の介助が少なくても（家族が日に 1 回気づいた時に行う等）、P トイレの使用頻度、トイレ周囲の汚染の頻度が半割以上ある場合は、実際の介助で「一部」を選択。また、半数以上の尿汚染があるため新聞紙やトイレマットを敷いて、日に 1 回交換している場合も排尿直後の掃除とし「一部」を選択。(市) | 2015/11/16<br>2020/11/01 |
| 17 | トイレで一連の行為を自分で行う方がズボンの上げ下げを行う際に、介護者が支えていないと転んでしまい、ズボンの上げ下げができない場合は、「介護者が支える」こともその方に発生する一連の行為                                       | 「介助なし」     | 転倒予防目的かどうかに関わらず、体を支えることは一連の行為には含めず手間として記入すること。2-5 だけでなく、他の介助の方法も同様です。(市)                                                                                                          | 2018/7/24                |

|    |                                                                       |                    |                                                                                                                                                                   |            |
|----|-----------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|    | の一つとして捉えて「一部介助」を選択してもよろしいでしょうか？                                       |                    |                                                                                                                                                                   |            |
| 18 | Pトイレで排尿し、自分でまとめて尿を廃棄するが、その後の掃除を家族が行う場合は一連の行為に含めて考えますか？                | 「一部介助」             | テキスト P81 には「トイレやポータブルトイレ、尿器等の排尿後の掃除」とあるため含めて判断する。(市)                                                                                                              | 2018/7/24  |
| 19 | 日 4,5 回排尿する人で、毎回水の流し忘れがある。独居で、週 2 回ヘルパーが訪問した際にまとめて流す。どのように判断するのか。     | 適切な介助の方法を選択し「一部介助」 | 実際の介助の方法の頻度では「介助なし」となりますが、毎回水を流す介助が必要と想定し、「一部介助」を選択します。流し忘れる頻度が排尿回数の半分以上であれば、実際の介助の方法で選択し「介助なし」となります。(市)                                                          | 2018/10/25 |
| 20 | 使用済ペーパーをトイレの床に捨てるため介護者が片付ける場合は介助の手間と評価するのか。                           | 一部介助               | 陰部を清拭した後のペーパーが床等に落ちている場合、ペーパー自体を片付けることに加え、落ちていた床等を合わせて掃除することもあると考え、排尿後の掃除として含める。<br>(使用済みオムツが放置されている場合、床までの汚染の頻度は少ないと考えられ、手間として捉える。) ※排便も同様に考える。(県担当者に聴取し、市として決定) | 2020/11/01 |
| 21 | 自分でトイレにて一連動作をするが、排泄困難なため、介護者が腹圧をかける介助をする場合は、一連の動作に含み「一部介助」として判断してよいか。 | 「一部介助」             | 平成 21 年 9 月 30 日 厚生労働省 事務連絡より、介護者が腹圧をかける介助は、「便器への排尿」に係る介助と判断できるため。(国)(市)                                                                                          | 2020/11/01 |
| 22 | 日頃、布下着を着用。布下着が汚染された際に介護者が布下着を交換する。この場合は「一部介助」か。                       | 「一部介助」             | 布下着の交換自体は調査員テキスト P81 に記載はないが、(1) 調査項目の定義の「オムツ、リハビリパンツ、尿取りパッドの交換」と同等と考え、「一部介助」とする。(市)                                                                              | 2021/10/4  |
| 23 | 排泄が自立していて、失禁等の失敗もない方が清潔保持の目的でリハビリパンツ等を交換する場合、一連の行為として含めるか。            |                    | 基本的に排泄が自立しており失禁等の失敗もない方が、「清潔保持」の目的でリハビリパンツ等を交換する場合、排尿時の交換であっても「2-5」の一連の行為としては評価しない。下着の交換と同様に判断する。(市)                                                              | 2024/7/22  |
| 24 | 放尿は評価に含めるか。                                                           |                    | 放尿も評価に含めて判断する。 <u>放尿を含めた全ての排泄行為について介助の方法を確認し、介助の方法が異なる場合は頻度の高いもので判断する。</u><br>放尿の頻度が多い場合は、①介護者が片付けをしている、②適切な介助の方法として、拭き                                           | 2025/2/10  |

|  |  |  |                                                                                        |  |
|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |  | <p>取り、片付け等一連の行為に介助の必要性があると判断する場合は「一部介助」。(市)</p> <p>※令和6年度西三河担当者会議にて、近隣自治体の状況より判断変更</p> |  |
|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------|--|

## 2 - 6 排便

| No | 事例                                                                                                                               | 選択     | 理由                                                                                                                                                                     | 開始時期       |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | テキスト P85 の特記事項の記載例の2つ目に摘便が行われている場合の事例が記載されているが、摘便がされていなくても、トイレ・便器への排便以外の行為（トイレまでの誘導、ズボンの上げ下げ、肛門部の清拭、水洗など）全てに介助がされている場合は「全介助」でよい。 | 「全介助」  | お見込みのとおり。テキスト P84(1) 調査項目の定義の記載「ここでいう排便とは・・・の一連の行為である」の記載を参照してください。トイレまでの誘導が移動に関する見守りであれば、排便の一連の行為には含みませんので注意してください。ここでいう誘導とは認知症高齢者等をトイレ等へ誘導するために必要な「確認」「指示」等のことです。(県) | 2010/12/8  |
| 2  | 排便後拭くことのみ自分で行うが、不十分で拭き直しの介助がある。全介助か？                                                                                             | 「全介助」  | 拭き直しをしているため「全介助」とする。(県)                                                                                                                                                | 2010/12/8  |
| 3  | シャワートイレを使用し自分で陰部を洗浄した時に便座を汚し、掃除しないと便座に座れないため、毎回家族が掃除する場合は「一部介助」でよい。                                                              | 「一部介助」 | シャワートイレの操作そのものは排尿・排便の一連の行為に含まれないため、手間として評価するが、シャワートイレを操作した結果便器周囲が汚染され、実際に掃除するという介助が発生しているのであれば「一部介助」として考える。(県担当者に聴取し、市として決定)                                           | 2020/11/01 |
| 4  | 自分でトイレにて一連動作をするが、排泄困難なため、介護者が腹圧をかける、背中を叩く、肛門を刺激する介助をする場合は「一部介助」でよい。                                                              | 「一部介助」 | 平成 21 年 9 月 30 日 厚生労働省 事務連絡より、介護者が腹圧をかける介助は、「便器への排便」に係る介助と判断できるため。(市)(国)                                                                                               | 2020/11/01 |
| 5  | 看護師が日 1 回パッドを交換する。日 1、2 回トイレで自分で一連の行為を行うが軟便の為紙パンツ・パッド使用し、日 1 回間に合わず便汚染あり、看護師がパッドを交換。この場合も「一部介助」でよい。                              | 「一部介助」 | パッド交換自体は調査員テキスト P84 に記載はないが、(1) 調査項目の定義の「オムツ、リハビリパンツの交換」と同等と考え、「一部介助」とする。(市)                                                                                           | 2021/10/4  |
| 6  | 日頃、布下着を着用。布下着が汚染された際に介護者が布下着を交換する。この場合は「一部介助」か。                                                                                  | 「一部介助」 | 布下着の交換自体は調査員テキスト P84 に記載はないが、(1) 調査項目の定義の「オムツ、リハビリパンツの交換」と同等と考え、「一部介助」とする。(市)                                                                                          | 2021/10/4  |
| 7  | 放便は評価に含めるか。                                                                                                                      |        | 放便も評価に含めて判断する。放便を含めた全ての排便行為について介助の方法を確認し、介助の方法が異なる場合は頻度の高いもので判断する。                                                                                                     | 2025/2/10  |

|  |  |  |                                                                                                                                 |  |
|--|--|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |  | <p>放便の頻度が多い場合は、①介助者が片付けをしている、②適切な介助の方法として、拭き取り、片付け等一連の行為に介助の必要性があると判断する場合は「一部介助」。(市)</p> <p>※令和6年度西三河担当者会議にて、近隣自治体の状況より判断変更</p> |  |
|--|--|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

## 2-7 口腔清潔

| No | 事例                                                           | 選択     | 理由                                                                                                                                                | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 意欲低下等で口腔清潔、洗顔、整髪ができない場合、不適切さが無くても、必要な介助の方法を選択してよいのか？         | 「介助なし」 | 意欲低下や機能低下で準備や一連の動作ができない場合であっても、不適切さがなければ適切な介助の方法は選択できない。(市)                                                                                       | 2015/4/1  |
| 2  | 食事の時に準備されたお茶で嗽をしている場合、お茶の準備として「一部介助」としてよいのか？                 | 「一部介助」 | 食事のために準備されたお茶であっても、準備に介助があるので「一部介助」とする。(県)                                                                                                        | 2010/12/8 |
| 3  | 食事の際に準備されたお茶で、嗽もせず飲んで口腔清潔を済ませているという場合はどのように判断するのか。           | 「一部介助」 | 食事のために準備されたお茶であっても、口腔清潔を目的として飲んで済ませており、準備に介助があるので「一部介助」とする。(県)                                                                                    | 2017/4/19 |
| 4  | 嗽の為のコップを持たせると自分で嗽する場合は「一部」か「全介助」か？                           | 「一部介助」 | コップは持たせてもらっても、置いてあるのをとって飲んでも「一部介助」(県)                                                                                                             | 2011/4/1  |
| 5  | 片付けは介助に含んでよいでしょうか？                                           |        | 一連の行為の中に片付けは含まれていません。選択基準に設定されていない介護がある場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。(県)                                                                    | 2010/12/8 |
| 6  | 入れ歯の洗浄液を作ることに介助がある場合「介助あり」としてよいのか                            |        | 義歯の清潔保持に係る一連の行為と捉えて、介助されている状況に応じて判断してください。(県)                                                                                                     | 2010/12/8 |
| 7  | 行為をするための誘導の声かけは「見守り」に含まないと考えていいのか。                           |        | 洗面所等への移動を誘導するための声かけは含みません。口腔清潔の行為自体に対する誘導・声かけ・確認は該当します。選択基準に設定されていない介護がある場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。(県)                                  | 2010/12/8 |
| 8  | 一部介助の中の見守り（確認、指示、声かけ）には、認知症のないケースに「やってね！」「やった？」という声かけも該当するか。 | 「介助なし」 | 「一部介助」の中の見守り等とは、口腔清潔の行為自体に対する確認、指示、声かけと考えるため、この場合は「介助されていない」を選択する。ただし、選択基準に設定されていない介護がある場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。(県)                   | 2010/12/8 |
| 9  | 一部介助の「声かけ」はどのような声かけをいうのか？                                    |        | 口腔清潔を行っている際の声かけである。はじめの声かけや洗面所へ誘導するための声かけではありません。テキスト P87「口腔清潔」選択肢の選択基準「2 一部介助」の「・見守り等（確認、指示、声かけ）が行われている場合も含まれる。」「・歯磨き中の指示や見守り、磨き残しの確認が行われている場合を含 | 2010/12/8 |

|  |  |  |                |  |
|--|--|--|----------------|--|
|  |  |  | む。」は同じ意味です。(県) |  |
|--|--|--|----------------|--|

## 2 - 8 洗顔

| No | 事例                                                                      | 選択     | 理由                                                                                                                                                                                  | 開始時期                         |
|----|-------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 定義上の「蛇口をひねる」とは開閉どちらも含むのか？                                               |        | 蛇口の開閉どちらも含む。蛇口の閉め忘れがあり家族が蛇口を閉める介助をしていれば介助と考える。(県)                                                                                                                                   | 2010/5/13                    |
| 2  | 洗顔後最後のみ「衣服の濡れの確認」をしている場合「一部介助」としてよいのか？                                  | 「一部介助」 | テキスト P89 (2)「2. 一部介助」参照。「・洗顔中の見守り等」、「衣服が濡れていないかの確認等」が行われている場合を含むため、「衣服が濡れていないかの確認等」は洗顔中かどうかは問わない。(市)                                                                                | 2018/2/26                    |
| 3  | 日に1回自分で洗顔、日に1回介護者が洗顔のためにあらかじめタオルを部屋に準備している場合は、タオルの準備として「一部介助」を選択して良いのか？ | 「一部介助」 | 洗顔のタオルの準備として「一部介助」を選択する。ただし、タオルの準備が1回で、自分で行う洗顔が3回以上ある場合は、タオルの準備の介助が半分もないため、「介助なし」となり、手間として特記事項に記載。また、本人以外の人も利用する共用のタオルを利用する場合は、洗顔のための本人に対してのタオルの準備とは考えない。なお、洗顔は入浴中や洗面台など場所を問わない。(市) | 2016/6/30<br>2026/7/23       |
| 4  | 一部介助の「声かけ」はどのような声かけをいうのか？                                               |        | 洗顔を行っている際の声かけです。「顔を洗いましょう」という洗顔を誘うための声かけや洗面所へ誘導するための声かけではありません。テキスト P89 (2)「2 一部介助」の「・見守り等（確認、指示、声かけ）」が行われている場合も含まれる。「・洗顔中の指示や見守り、衣服が濡れていないかの確認等が行われている場合を含む。」は同じ意味です。(県)           | 2010/12/8                    |
| 5  | 代替えて評価をする際に、「入浴後に濡れた顔をタオルで拭く」という行為は評価に含まれるか。                            |        | 入浴後に濡れた顔をタオルで拭く行為を評価に含めるかどうかについては、顔の保清目的で行っている場合は含めるが、ただ顔が濡れたから拭いている程度の場合は含めないものと考えます。(市)                                                                                           | 2018/7/24<br>2026/7/23<br>削除 |
| 6  | ADL 的には自分で洗顔行為ができそうな方が、デイ等で時間が無いために職員が介助して洗顔行為を行う場合は、どのように判断するのか。       |        | 本人に対象の行為を行う能力があるにも関わらず、手早く済ませるために職員によって介助を受けていたり、施設の方針によって介助を受けている場合は、テキスト P90「④実際の介助の方法が不適切な場合」にあるように、「介護者による介助が、むしろ本人の自立を阻害しているような場合」として捉え、適切な介助の方法を選択してください。(市)                  | 2019/12/2                    |



## (2-8) 洗顔の判断について

### ① 洗面所で一週間以内の洗顔の機会があるかどうか

ある

- ・ 自分だけで一連の行為を行う場合：介助なし
- ・ 蛇口をひねる、タオルを準備する等、部分的に介助を受けたり、見守りされたりする場合：一部介助
- ・ 一連の行為全てに介助を受ける場合：全介助

ない

※ポイント：衣服の濡れの確認は、常時側についていなくても、評価に含めてください。

### ② 入浴後に顔をタオルで拭くことや蒸しタオルで顔を拭く機会があるかどうか

ある

- ・ 自分で準備し行う場合：介助なし
- ・ タオルを渡されると拭く、常時見守りがある等の場合：一部介助
- ・ 一連の行為全てに介助を受ける場合：全介助

ない

### ③ 不適切さがあるかどうか

＜不適切さがある場合＞

- ・ 適切な介助の方法を想定して判断（まずは流水で顔を洗うことを想定。それも想定できない場合は蒸しタオル等で拭く介助を想定する。）。

＜不適切さが無い場合＞

- ・ 想定もせず、機会もないため「介助なし」を選択。



## 2-9 整髪

| No | 事例                                                                    | 選択         | 理由                                                                                                                 | 開始時期      |
|----|-----------------------------------------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 坊主等で整髪の機会がなく類似行為で代替して判断する場合、代替できる類似行為自体も発生しない場合は、類似行為に必要な介助を想定するのか？   |            | 整髪に定義された行為自体が発生しておらず、代替できる類似行為も発生していない場合は、不適切さがなければ「介助なし」を選択。(県)                                                   | 2017/5/9  |
| 2  | 認知症の方。自分で所定の場所からブラシを取って梳く。ブラシを所定の場所に戻せず介護者が探して戻している。準備ととらえ、「一部」でよいのか？ | 「介助されていない」 | 準備には含まず「介助されていない」を選択する。(県)                                                                                         | 2011/3/4  |
| 3  | 日常的に使用している「かつら」の毛やウィッグの整髪の手間でも「整髪」の介助と捉えてよいのか                         |            | かつらを地毛と捉えるかどうかではなく、それを整える行為(整髪)が発生しているのであれば、介助として考えてください。選択基準に設定されていない介護がある場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。(県) | 2010/12/8 |
| 4  | 一部介助の「声かけ」はどのような声かけをいうのか？                                             |            | 整髪を行っている際の声かけです。<br>「髪の毛を梳きましょう」という整髪を誘うための声かけや洗面所や鏡台へ誘導するための声かけではありません。(県)                                        | 2010/12/8 |
| 5  | 自分で髪を整えた後、髪を束ねる、結う、カチューシャ・ピンで留めることは一連の行為に含めるか。                        |            | 含めないこととします。テキストP91に記載のある一連の行為は、「ブラシの準備」「整髪料の準備」「髪をとかす」「ブラッシングする」とあるため、一次判定には含まず、手間として記載してください。                     | 2019/8/1  |
| 6  | デイや施設の入浴後に櫛やドライヤーで整髪を行う方の場合、自宅で髪が乱れているとしても、実際に発生している介助の方法で選択してよいのか。   |            | デイや施設で介助を受けている場合は、そのほかの機会に自分で手櫛で整髪していることが無い、不適切な状態の日が無いかについても聞き取って、より頻回な状況で判断してください。(市)                            | 2019/12/2 |



## 2-10 上衣の着脱

| No | 事例                                                                                                 | 選択                     | 理由                                                                                                                                                                                                                                   | 開始時期       |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 行為をするための誘導の声かけは「見守り」に含まないと考えていいのか。                                                                 |                        | 着脱までの行為は含まないとあるので、誘導の声かけが着脱までのものであれば含みません。(県)                                                                                                                                                                                        | 2010/12/8  |
| 2  | 肌着は上衣に含めないが、夏場、ランニングシャツ 1 枚で過ごしているような人の場合は、ランニングシャツの着脱を上衣の着脱として考えてよいか。                             |                        | よいです。その方が普段使用している上衣等の着脱について評価します。夏場は肌着のみで過ごす場合は肌着の着脱で評価するなど、その方にとっての上衣で評価をしてください。                                                                                                                                                    | 2018/10/25 |
| 3  | 寝たきりで、肘や肩に強い拘縮があり上衣を着ることができない人に、上着を上から掛けるのみの場合はどのように選択するのか。                                        | 「全介助」                  | テキスト P93（3）調査上の留意点及び特記事項の記載例の 2 行目にあるとおり、「服を体にあてがう行為やそで通しなど一連の行為全てが介護者によって行われていれば、首や体幹を揺り動かすなどの行為は、介護者の介助の方法や負担に大きな影響を与えていないことから、選択肢の選択には影響を及ぼさないと判断し、一連の行為全体に対して全て介助されていると考え、「4.全介助」を選択」します。今回の場合は、上衣をあてがうのみを介護者が介助しているため、全介助となります。 | 2018/10/25 |
| 4  | 認知症の方で、勝手に上衣やズボンを脱いでしまい、その都度、介護者が着させたり穿かせる頻度が多い。更衣の場面では、指示が通じない為、介護者が全介助で更衣する。勝手に更衣する部分も評価に含めてよいか。 | 2-10<br>2-11<br>「一部介助」 | 勝手に脱ぐ行為は本人ができることと評価し、頻度に含める。(市)                                                                                                                                                                                                      | 2020/11/01 |



## 2-11ズボン等の着脱

| No | 事例                                                                                  | 選択     | 理由                                                                                                                                                                          | 開始時期       |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | ズボンにボタンがあり、上げることは自分でできるが、毎回ボタンかけの介助を受けている場合は「一部介助」と判断して良いか？                         | 「一部介助」 | ボタンのみの介助でも頻度が多ければ「一部介助」。(県)                                                                                                                                                 | 2012/4/2   |
| 2  | オムツを着用している場合、パンツ等に含めてよいか。                                                           |        | 紙パンツ、オムツ(紙・布)、ふんどし等、個々に使用するものの形状の違いがあっても、「パンツ」として使用している場合はその介助の状況に基づいて評価します。(県)                                                                                             | 2010/12/8  |
| 3  | 日に2回の更衣時は見守りのもと着脱するが、日に3.4回の失禁時には家族がズボン、紙パンツの交換介助をしている場合、更衣時の状況のみで判断し「見守り等」を選択するのか？ | 「一部介助」 | テキストP82に、失禁した場合の衣服の更衣に関する介助は、他の着脱とともに「2-10、2-11」で評価するとあるため、頻度の多い介助の方法で選択する。なお、失禁時のズボンの上げ下げのみは対象外であくまで更衣についてみること。(市)                                                         | 2011/6/20  |
| 4  | 自分でズボンを上げているが上がりきっておらず不十分さがある場合、不適切と判断する規準は？                                        |        | ズボンがわずかでも上がりきっていない場合、不適切と判断し「一部介助」が必要とする。(市)                                                                                                                                | 2017/5/9   |
| 5  | ベルトの付け外しは判断に含めるか。                                                                   |        | 不適切さが無いように穿くために必要なのであれば、判断に含めます。テキストP98の特記事項の例の1つ目にボタンが留められずズボンがずり落ちてしまう状況を不適切として判断しているため、ボタンがベルトであっても同様の判断を行うことが妥当と考えます。(市)                                                | 2018/10/25 |
| 6  | つなぎの服の場合は判断に含めるのか。                                                                  |        | 含めます。テキストP97③では浴衣形式の寝巻きについての記載はありますが、つなぎについての記載はないため、パンツやオムツの着脱の行為で代替して評価せず、そのまま評価してください。<br>なお、つなぎのズボン部分が全て開く形状の場合のものや、スカート、浴衣などは着脱が発生しないため、パンツやオムツの着脱の行為で代替して評価してください。(市) | 2018/10/25 |
| 7  | ADL的には自分で着脱行為ができそうな方が、デイ等で時間が無いために職員が介助して着脱行為を行う場合は、どのように判断するのか。                    |        | 手早く済ませるために職員によって介助を受けていたり、施設の方針によって介助を受けている場合は、テキストP98にあるように、「介護者による介助が、むしろ本人の自立を阻害しているような場合」として捉え、適切な介助の方法を選択してください。(市)                                                    | 2019/12/2  |



## 2-12 外出頻度

| No | 事例                                                            | 選択 | 理由                                                                                                                    | 開始時期       |
|----|---------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 入院や転院、入所したことを外出の頻度と考えて良いか？                                    |    | 過去 1 ヶ月の間に状態が大きく変化した場合は、変化後の状況で選択するため、特に状態が変化していない期間での転院や入所については外出としてカウントしてよい。(県)                                     | 2017/5/26  |
| 2  | 「居住地からの外出」とあるが、退院も含めてよいか。                                     |    | 1 泊でもしていれば病院も、もともといた「居住地」と考え、外出に含めます。ただし、具体的な状況は特記事項に記載してください(市)                                                      | 2017/6/15  |
| 3  | 1 ヶ月以内に、親戚宅への宿泊やショートステイがある場合は、外出の頻度として考えて良いか？                 |    | 親戚宅やショートステイへの外出としてそれぞれカウントして良い。(市)                                                                                    | 2017/2/24  |
| 4  | 1 か月以上前から入院している対象者が、調査日の 1 週間前に外泊した。外出と考えてよいか。                |    | お見込みのとおり。(県)                                                                                                          | 2010/12/8  |
| 5  | 外出は 30 分以上ないとカウントできないか。例えば総合病院から 15 分程度の自宅に退院する場合はどうか。        |    | 居住地から 30 分以上出ている回数を評価するため、例の場合は評価に含めない。(県)<br>居住地とは、ショートステイや入院等も含めて、寝泊りする場所を指すと考えます。(市)                               | 2017/8/8   |
| 6  | 公営住宅等の場合、どこからを「敷地外への外出」とするのか。                                 |    | ひと棟ごとを「同一敷地内」と考えることとします。そのため〇〇団地の A 棟から B 棟へ外出した場合は評価に含めますが、A 棟 1 階のデイサービスへ、A 棟 3 階から通うことは評価に含めません。                   | 2018/10/25 |
| 7  | 30 分以上かけて病院に受診しても、そこから救急搬送で別の病院に搬送され入院した場合、外出の頻度を 1 回と考えてよいか。 |    | 1 回にはならない。<br>居住地を出てから、次の居住地に行くまでに 30 分以上かかっているか、で判断。この事例は居住地に戻らず、次の居住地に救急搬送されている為、外出には含めない。※居住地とは、自宅又は宿泊した場所と考える。(市) | 2020/11/01 |



# 第3群

## 認知機能



### 3-1 意思の伝達

| No | 事例                                                                                                          | 選択     | 理由                                                                                                                                                                          | 開始時期                   |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1  | 寝たきりで筆談もできず、失語症で言葉も発せられない場合に家族が「認知症ではなく、すべて判っている、理解している」と言う場合は確かめる手段がないので「できない」を選択するのか、理解度からして「できる」を選択するのか。 |        | 確認できなければ「できない」を選択し特記事項に確認できない理由及び家族の話を記載し介護認定審査会において一次判定の修正、確定および二次判定を行います。(県)                                                                                              | 2010/12/8              |
| 2  | 認知機能の低下があり、質問の内容の辻褄が合わなくても、3-1 意思の伝達は「できる」として良いか？                                                           | 「できる」  | 伝達する意思の内容の整合性は問わない。会話が成立せず、辻褄が合わなくても、調査対象者が意思を伝達できているため「できる」で良い。(県)                                                                                                         | 2016/4/15              |
| 3  | 合理性は問わないと書かれているが、妄想を伝えることでもよいのか。                                                                            |        | 妄想であっても、考えが伝えられれば良いです。(県)                                                                                                                                                   | 2010/12/8              |
| 4  | 対象者が、ほとんど意思表示をする事が出来ない方で、苦痛の表情示す場合は「3. ほとんど伝達できない」か「4. できない」のどちらを選択すればよいのか。                                 |        | <del>反射的な反応であれば「できない」を、苦痛だということを相手が分かるのであるなら、</del><br><del>「3. ほとんど伝達できない」を選択してください。(県)</del><br>苦痛だということを相手に伝えているのであれば「3. ほとんど伝達できない」を選択し、反射的な反応であれば「4. できない」を選択してください(市) | 2010/12/8<br>2022/5/19 |
| 5  | 好き勝手なことはしゃべれる。昔のことを錯誤したり、幻覚らしき内容が入ったり、文章の成立があいまいで、相手側が本人の言うことがよくわからないことがある。合理性は問わないとのことで本人にとっては言えるため①でよいのか  |        | 意思伝達の合理性は問わない。伝達する内容が妄想でも間違っている内容でも伝える事ができれば「できる」と評価してください。(県)                                                                                                              | 2010/12/8              |
| 6  | 認知症の為に反応性に乏しく、質問や声かけをした際に反応しないことが多いが、本人が自分から話し出す際は常時誰にでも自分の意思を伝えられ周りも本人の話すことを理解できる場合はどう判断するか。               | 「ときどき」 | 自分から話し出すかどうかにかかわらず、常時誰にでも伝えられないが、内容や状況によってはできる場合は、「2. ときどき伝達できる」を選択し、状況を特記事項に記載してください。(市)                                                                                   | 2017/6/15              |
| 7  | なんにでも頷く人も、頷いていることが周囲に伝わっていれば「できる」と判断しているが、「伝達する意思」がそもそもないような、反射的に頷いたりするような方はどのように判断するのか。                    | 「できない」 | 伝達する意思がないような、反射的に頷いたりするような場合しかないと「できない」を選択し、状況を特記事項に記載してください。                                                                                                               | 2019/8/1               |
| 8  | 外国語や方言のために、周囲の方に伝わ                                                                                          | 「できる」  | 話す言語が同じであれば、常時誰にでも意思                                                                                                                                                        | 2020/4/1               |

|  |                     |  |                          |  |
|--|---------------------|--|--------------------------|--|
|  | りきらない場合はどのように判断するか。 |  | の伝達ができることから、「できる」で選択します。 |  |
|--|---------------------|--|--------------------------|--|

### 3 - 4 短期記憶

| No | 事例                                                                                 | 選択 | 理由                                                                                                                                                                                                                      | 開始時期                            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1  | 短期記憶とはどれくらい前のことを指す？                                                                |    | <p>認定調査員テキスト P105 定義及び調査士の留意点「ここでいう「短期記憶」とは、面接調査日の調査直前にしていたことについて、把握しているかどうかのことである。「面接調査の直前に何をしていたか思い出す」こととは、面接調査直前または当日行ったことについて具体的に答えることができれば「1.できる」を選択する」に基づいて判断すること。</p> <p>確認検査の時間に合わせて、5～10 分程度のことを指すとします。(市)</p> | <p>2017/12/13<br/>2019/12/2</p> |
| 2  | 確認検査はどのような場合に行うのか？                                                                 |    | <p>テキストの判断基準の通り、面接調査直前または当日行ったことについて確認が難しい場合は、確認検査を行う。調査直前のことを答えることができ、日頃も分かる場合の確認検査は不要。(県)</p>                                                                                                                         | <p>2016/4/15</p>                |
| 3  | 面接直前に何をしていたか思い出すことが難しい場合の確認方法として「ペン」「時計」「視力確認表」を用いるが、調査場面においてこれらの物品がない場合はどうしたらよいか。 |    | <p>高齢者の日常生活上、身近な物（タオル、ティッシュ、湯呑み等）を代替えとして使ってください。(県)</p> <p>面接調査の調査直前にしていたことについて具体的に答えることができなければ、「ペン」「時計」「視力確認表（調査対象者に対しては、紙または手の絵などの平易な言い方をする）」を見せて確認してください。(国)</p> <p>※調査員はこれらの物品を常に携帯するよう留意してください。</p>                | <p>2010/12/8<br/>2020/7/1</p>   |



### 3 - 5 自分の名前を言う

| No | 事例                                                                                                                     | 選択 | 理由          | 開始時期      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------|-----------|
| 1  | <p>自分の名前を言う：特記の例にあるような「失語症の方で…」の解釈は 3-2~3-7 にも適用してよいか。</p> <p>適用できなければ他の項目は、うなずく等の身振りで、確実に理解できていると確認できても、できないとなるか。</p> |    | 適用しても良い。(県) | 2010/12/8 |



### 3 - 7 場所の理解

| No | 事例                                                               | 選択     | 理由                                    | 開始時期      |
|----|------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------|-----------|
| 1  | 施設入所中の方に「ここはどこですか」と問うと、「会社」と返答。日頃も同様。この場合の判断は。                   | 「できない」 | 自宅でないことがわかっていても、入所中であることを理解していない為（県）  | 2015/2/27 |
| 2  | 「ここはどこですか」の問いに「わからないが、家ではない」と答えた。施設入所中で、自宅でないことは理解している。この場合の判断は。 | 「できない」 | 自宅でないことがわかっていても、どこにいるのか適切に理解していない為（県） | 2015/2/27 |



### 3 - 8 徘徊

| No | 事例                                                              | 選択 | 理由                                                            | 開始時期      |
|----|-----------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 3-8・9 は 4 群「精神行動障がい」と一緒<br>のように環境の変化があった場合は、環<br>境変化後から考えて良いのか？ |    | 良い。基本は 1 ヶ月間に行動が起きたかどう<br>かをみるが、環境の変化があった場合は環境<br>変化後からみる。(県) | 2017/3/21 |



### 3-9 外出すると戻れない

| No | 事例                                                                                                                          | 選択             | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                             | 開始時期       |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 徘徊しており、戻れない状況が発生する前に介護者が自室へ連れ戻している場合、3-9は「ある」で良いのか？                                                                         |                | 徘徊しており、自分で戻れない為に介護者が自室へ連れ戻していれば「ある」を選択。<br>自分で自室へ戻れるが介護者が戻っている状況では「なし」を選択。(県)                                                                                                                                                                                                  | 2011/6/20  |
| 2  | 入院中で、居室の外に出てしまうと場所が分からなくなるが、そのままフロア内を歩いて回っている方。職員が気づくと一緒に居室まで連れて行く場合は該当するか。また、一緒に居室まで連れて行かず、指示・声かけのみで居室へ誘導し、自分で戻れる場合は該当するか。 |                | 一緒に連れて行く場合は該当するが、指示・声かけのみは該当しないと考えます。<br>別冊 P77 No1 に「自分で戻れないために介護者が自室へ連れ戻していれば「ある」を選択。」とある。今回の例では場所が分からないという情報があり、一緒に連れて行くため、該当します。<br>指示・声かけのみで居室へ誘導している場合については、テキスト P112 に掲載されている特記事項の例がどちらも、連れ戻したり、送り届けたりするなど、一人ではない状況について評価をしていることから、連れ添わずに、一人で戻れる場合は評価に含めないものと考えられます。(市) | 2018/11/30 |
| 3  | 息子宅に外泊時に「家に帰る」と言って出かけ戻れなくなり息子が迎えに行った。この場合は該当するか。                                                                            | 「ある」<br>「ときどき」 | 起点となる場所の特定はしていないため自宅以外の場所から戻れない場合も該当する。<br>(H28年1月8日県への質問に対する回答より市で判断)                                                                                                                                                                                                         | 2020/11/01 |
| 4  | デイや店内から出てしまい戻れない場合も該当するか。                                                                                                   | 「ある」<br>「ときどき」 | 場所の特定はしていないため、自宅以外の場所に戻れない場合も該当する。<br>(H28年1月8日県への質問に対する回答より市で判断)                                                                                                                                                                                                              | 2020/11/01 |
| 5  | デイでトイレに行ったり、フロア内を徘徊し、自席に戻れないため連れ戻す場合、該当するか。                                                                                 | 手間             | “外出して”戻れない行動の頻度を評価する。デイの同フロア内の移動は“外出”には当たらないため、手間として考える。                                                                                                                                                                                                                       | 2020/11/01 |



# 第 4 群

## 精神・行動障害



4 群全般・4-1 被害的

| No | 事例                                                                                               | 選択             | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | P115 に「環境が大きく変化した場合」とあるが、状況変化があった場合にはどう判断するのか？                                                   |                | テキストには「環境が大きく変化した場合」としか記載がないため、変化後からの BPSD の有無で判断し、具体的な状況については特記事項に記載すること。(県)<br>なお、「施設等による予防的な対策」については「昼夜逆転に対応するための睡眠薬の内服等」以外の記載がないため、拡大解釈せず、判断は眠剤や治療についてのみ考慮し、それ以外については判断に含めず、状況の特記事項に記載する。(市)<br>ただし、4-9、11 については環境上の工夫によって対象となる行動が無くなった場合は、このひと月以内に対象となる行動があったとしても「ない」を選択する。(県) | 2017/4/17 |
| 2  | ショートステイや入院・入所中の一時外泊は環境の変化に含まれるか。                                                                 |                | ショートステイや入院中の一時外泊、人的環境は原則「環境の大きな変化」に含めずに判断してください。ただし、必要に応じて「悩んだが」とし「●」を付して緊急時のショートステイ等は「環境の大きな変化」に含めることもあり得ます。                                                                                                                                                                       | 2018/7/24 |
| 3  | 介護の手間の表現について、「対応に苦慮」「対応に手間がある」等の表現でよいのか？                                                         |                | 「聞く、説明する」「なだめる」「なぐさめる」「見守る」等の具体的な方法を表現する。(市)                                                                                                                                                                                                                                        | 2012/6/25 |
| 4  | 手術後等で、一時的に起こっているせん妄で、4 群の項目が調査から 1 カ月以内に 1 回発生。現在その症状は落ち着いている場合、この 1 カ月以内の状況で「ときどきある」を、選択してよいのか？ | 「ときどきある」       | 手術後等の一時的な症状で、現在は消失していても、1 カ月以内にあれば、その状況で「ある」もしくは「ときどき」で選択する。(市)                                                                                                                                                                                                                     | 2013/5/24 |
| 5  | 環境の変化（退院など）が調査日 7 日前にあった。4 群・3-8.9 の行動が 1 回あった場合、1 週間前から 1 回として「ある」とするか、1 カ月に 1 回として「ときどき」とするか？  | 「ある」           | この 1 週間に 1 回あったと判断して「ある」。(市)                                                                                                                                                                                                                                                        | 2012/6/25 |
| 6  | 過去 1 ヶ月以内に 4 群の行動があったが、睡眠剤を服用し症状が消失した。状況の変化として判断してよいのか？                                          | 「ない」           | 睡眠薬の内服等、治療の効果も含めて状況の変化として判断してよい。テキスト P 115 最下部参照。(国)                                                                                                                                                                                                                                | 2017/2/24 |
| 7  | 「嫁に財布を盗まれた」と事実でないことを被害的に訴える場合に<4-1 被害的>                                                          | 4-1、4-2 の両方を選択 | 4-1 と 4-2 両方で該当するものは両方きちんとって判断すること。4 群は中間評価項目                                                                                                                                                                                                                                       | 2017/6/30 |

|  |                                                                                                                            |  |                                                 |  |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------|--|
|  | <p>と&lt;4-2 作話&gt;両方選択するのか？</p> <p>被害的な言動と作話は異なる症状ですが、どちらも含まれる場合、4－1 と 4－2 の両方で評価するのか、それとも 4－1 以外の事を 4－2 で評価するのか、どちらか。</p> |  | <p>得点によって評価されるため、判断もらしは適切な一次判定が出ない恐れがある。(国)</p> |  |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------|--|

#### 4 - 2 作話

| No | 事例                                                                                                  | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 開始時期                  |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1  | 前回のテキストでは、不特定多数となっていたが、今回は特定の者に対してのみの場合でもよいのか。                                                      |      | お見込みのとおり。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 2010/12/8             |
| 2  | 幻視・幻聴は含むのか。                                                                                         |      | 例えば「あそこに人がいた」と言う等の過去の出来事については、客観的に事実であるか否かの確認ができないため、幻視・幻聴は判断に含まない事とします。(市)<br>令和2年1月28日・29日に開催された「令和元年度要介護認定適正化事業における認定調査員能力向上研修会」において、講師から「作話と幻視の区別は専門家でも判断が難しい」との言及があったことを受け、事実と異なる話をするのであれば評価するものとします。なお、幻聴も同様とします。(市)                                                                                        | 2019/12/2<br>2020/7/1 |
| 3  | 事実と異なる話をしていればどのようなことでも該当するのか。例えば調査時に3群や5-1の聞き取りをした際に、間違った季節を言ったり、薬を飲んでいるのに「飲んでいない」と言ったりする場合も該当するのか。 |      | 社会生活上、場面や目的から見て不適当な行動であれば該当します(P115)。<br>具体的には、認定調査の際に間違った回答をした場合は、認定調査は社会生活とは異なるため、該当しないと考えられます。日頃から、自分が分からないことを取り繕うように事実と異なることを言っていれば、社会生活上、場面や目的から見て不適当と言えるため、該当します。これは4群全般においても同様と考えられます。<br>判断に迷う際には、各基本調査項目の定義等に基づき選択した上で、対象者の具体的な状況(介護の手間、平均的な手間の出現頻度、選択に迷った状況等)と認定調査員の判断根拠等を特記事項に記載することとなっています。(Q&A問2)(市) | 2017/7/21             |
| 4  | 週1回程度「Aさんに財布を盗られるから」と言って部屋を閉め切っている。Aさんは財布を盗ろうとはしていない。この場合どのように判断するのか。                               | 「ある」 | テキストP117の定義に「ここでいう「作話」行動とは、事実とは異なる話をするものである。」とあります。<br>対象の行為が未来の事象か過去の事象かに関わらず、事実と異なっている点があれば該当すると考えられます。<br>今回の例では、Aさんは財布を盗ろうとしないにも関わらず、「Aさんに財布を盗られ                                                                                                                                                              | 2018/10/25            |

|  |  |  |                                                                                                                                                                                  |  |
|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |  | <p>る」と話しており、客観的に逆説で「A さんに財布は盗られない」と説明できるため、「事実と異なる話」として評価できるものと考えられます。</p> <p>他にも、デイ利用中に「家に帰りたい」という場合、「家に帰らなくてはいけない」という場合では、前者は評価に含めませんが、後者は逆説で「帰らなくてもよい」と説明できるため評価に含めます。(市)</p> |  |
|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

#### 4-3 感情が不安定

| No | 事例                                                                                                                                                         | 選択   | 理由                                                                                                                                                       | 開始時期                    |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | うつ病等の精神疾患があり、気分が沈み「死にたい」「姥捨て山に捨ててくれ」等訴える場合 4-3 に該当するのか？                                                                                                    | 「ない」 | 精神疾患で気分が沈んでもテキストにある「泣いたり、笑ったりして感情が不安定になる」行動には含まれない為「ない」を選択する。(県)                                                                                         | 2011/9/13               |
| 2  | 理由があったとしても場面や目的から見て不適当な行動であれば該当するのか。<br>例えば、「常に怒りっぽく、人の話に聞く耳を持たない。些細な事で怒り、大声で狂ったように 暴言を吐く。ものを壊す事もある。」「不安が強くパニックに陥り、落ち着かない。」「急に怒る」など。                       |      | 感情不安定とは脳血管疾患の後遺症等から起こる感情失禁、情動障がいのことです。感情失禁、情動障がいであれば頻度で選択してください。もともとの性格や理由がある場合は「なし」を選択してください。(県)<br>怒る理由が些細なことであっても、尋常でない程に怒るなど場面や目的から見て不適当な場合は該当する。(市) | 2010/12/8<br>2020/11/01 |
| 3  | 状況から逸脱はしておらず、泣いたり怒ったりして感情の起伏が激しいことがあるが、不自然なほど持続しない人は「1、ない」としていいのか。<br>明らかな理由があって（病気や障がいを受け入れられない等）泣いたり怒ったり感情のコントロールができない場合で、逸脱しているかどうか分からない場合は「ある」と判断するのか？ |      | 感情不安定とは脳血管疾患の後遺症等から起こる感情失禁、情動障がいのことです。感情失禁、情動障がいであれば頻度で選択してください。もともとの性格や理由がある場合は「なし」を選択してください。(県)                                                        | 2010/12/8               |
| 4  | 「そぐわない場面や状況で突然泣き出し、場面や目的から見て不適当な行動」があった場合は該当するか。                                                                                                           |      | 場面や目的から見て不適当であれば、笑う、泣く、怒る等の感情の不安定さがあれば評価することとします。評価できる状況は、「不自然なほど持続」することと、「そぐわない場面や状況での感情失禁（笑う、泣く、怒る等）」とします。                                             | 2018/2/26               |



#### 4-4 昼夜逆転

| No | 事例                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 選択               | 理由                                                                                                                                                                                                                          | 開始時期       |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 夜間覚醒し、精神行動障がい起きていても、日中うとうとすることなく昼夜逆転していない場合は昼夜逆転なしと判断するのか？                                                                                                                                                                                                                                      | 「ある」<br>「ときどきある」 | 昼間への影響（うとうとする等）がなくても、夜間に覚醒し、日中に行われる行為を夜間に行っている状況や夜間に問題行動が起きていれば「あり」と判断する。（県）                                                                                                                                                | 2010/12/8  |
| 2  | 痛みや夜間頻尿等（精神行動障がい以外の理由）で夜間起きていることで、昼間の活動ができない状況にある人は、昼夜逆転に該当するのか？                                                                                                                                                                                                                                | 該当なし             | テキスト P119（2）参照。夜間眠れない状態やトイレに行くための起床は含まないとあるため、日中の生活に支障があったとしても、4-4 昼夜逆転には該当しない考える。（市）                                                                                                                                       | 2016/9/14  |
| 3  | A 認知症のために、理由は分からないが、夜間に起きて椅子にじっと座っていることがある、しかし昼間の行動に支障はないケースは該当するのか。<br>該当しないのであれば、施設内では、自室から出て、食堂や談話室に座っている方が該当するのか。昼間の行動とはどういう行動を言うのか、食事・排泄・更衣、また移動、ADL の動作は含むのか。<br>B 対象者が認知症や精神行動障がいのない方で、仕事ははかどるという理由で、この 1 か月 2・3 回、夜間に起きて昼間の行動をしたという方は該当しないという考え方でよいか。<br>つまり、この項目は認知症の有無を関連づけて考えた方がよいか。 | A「ない」<br>B「ない」   | 昼夜逆転は、<br>①夜間に何度も目覚めることがあるために疲労や眠気があり日中に活動できない<br>②昼と夜の生活が逆転し、通常、日中行われる行為を夜間に行っている状況<br>③ 夜間に問題行動が起こる場合のいずれかです。<br>A の場合は、日中の活動ができ、昼と夜の生活が逆転している状況でもなく、問題行動でもないため、「ない」となります。<br>B の場合は、場面や目的から見て不適当とは言いきれないため、「ない」となります。（市） | 2018/10/25 |
| 4  | テキストの「特記事項の例」の内容には日中活動への影響の有無の記載がないが、本来は「例」の内容をもって「ある」としてよいのか。昼の生活は普通に起きていて、日中の行動に支障がないが、夜間日中に行う行為をしている場合、昼夜は逆転していないが、「ときどきある」「ある」になるか                                                                                                                                                          | 「ある」             | テキストにあげられている状況以外に、夜間、覚醒し問題行動がおこる場合も含みますので、この場合「3 ある」を選択してください。                                                                                                                                                              | 2010/12/8  |
| 5  | 認知症とまではいかない方が、不安や心配等が強く、不眠になり、昼間寝ている場合はとれるか。                                                                                                                                                                                                                                                    |                  | 認知症でなくても、日中寝ていることで日中行われなければいけない活動ができない場合は頻度に応じて選択肢を選択できます。ただ単に心配事（家族の病気等の理由は色々あると思いますが…）があり夜間眠れず、日中寝ているということでは選択できません。（県）                                                                                                   | 2010/12/8  |

|   |                                                                                           |              |                                                                                                            |           |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 6 | 夜間覚醒しており、本人のうめき声や徘徊する物音等で介助者の安眠を妨害しているが、本人自身は日中へ生活の影響はなく、日中行われる行為を夜間行う事もない場合は「ない」と判断するのか。 | 「ときどきある」「ある」 | 夜間、問題行動を起こしている場合も頻度で選択してください。(県)                                                                           | 2010/12/8 |
| 7 | 夜中に模様替えをしたり、片づけをしたりするが、昼と夜の生活が逆転しているわけではない方は該当するのか。                                       |              | 場面や目的から見て不適当かどうかで判断します。テキスト P119 (2) 特記事項の例の 1 つ目を見ても昼と夜の生活が逆転しているとの記載も無いため、夜間の行動が場面や目的から見て不適当かどうかで判断をします。 | 2018/5/25 |

#### 4 - 5 同じ話をする

| No | 事例                                                                 | 選択   | 理由                                                                                   | 開始時期       |
|----|--------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 同じことを日に何度か聞く場合でも、同じ話をするに該当するのか？                                    |      | 場面や目的から見て不適当な「しつこく同じ話をする」であれば該当する。(市)                                                | 2017/6/15  |
| 2  | 同じ話を繰り返す場合、忘れて同じことを聞いているように思えるが<4-5 同じ話をする>と<4-12 ひどい物忘れ>両方選択するのか？ |      | 聞いた内容を忘れて同じ話を繰り返す場合は<4-5 同じ話をする>のみ選択するが、聞いたことすら忘れて同じ話を繰り返す場合は<4-12 ひどい物忘れ>も選択する。(県)  | 2011/3/4   |
| 3  | 「おーい」などと訴える程度でエピソード性の無いものは該当するか。                                   | 該当なし | 同じ「話」とは異なると考えるため、該当しないものと考えます。                                                       | 2018/5/25  |
| 4  | 独語は該当するか。                                                          | 該当なし | 該当しない。そもそも会話が成立しないため。(市)                                                             | 2020/11/01 |
| 5  | メールや筆談で同じ話を繰り返す場合、該当するか。                                           |      | 話をする方法について定義に記載はないため、メールや筆談でも該当しないとは言えない。あくまでも、場面や目的から見て不適当かどうかで判断し、その状況の特記に記載する。(県) | 2022/8/1   |



#### 4 - 6 大声を出す

| No | 事例                                                                            | 選択   | 理由                                                                      | 開始時期      |
|----|-------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 定義では、「周囲に迷惑となるような大声をだす行動」となっているが、留意点の解釈から場面や目的から著しく逸脱していなければ該当しないという考え方でいいのか。 |      | 場面や目的から見て合致していないと思われる場合は頻度に応じて合致する選択肢を選択してください。大声を出している理由があれば該当しません。(県) | 2010/12/8 |
| 2  | 感情的に怒り、気持ちが高ぶって多少大きな声になっている場合、「ある」と判断するのか？                                    | 「なし」 | 感情が高ぶり、場面や目的から見て不適当とまでは言えない程度に、多少声が大きめになっている場合は「なし」とする。(県)              | 2011/7/28 |



#### 4-7 介護に抵抗

| No | 事例                                                                                                                                     | 選択   | 理由                                                                                                               | 開始時期                    |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 手を払う以外に、暴言は含まれるか？<br>座り込む、頑なに動かない、体に力を入れて、必要な介護をやらせないようにする等も含まれるか？                                                                     |      | 介助が必要な方に対して、介助を行う際に、暴言等によって介助がスムーズにできない場合（なだめながら介助をする等）に該当します。（県）（市）                                             | 2010/12/8<br>2020/11/01 |
| 2  | 入浴時に浴槽に入りたがらず、いつまでも外で洗っているような場合で、「手を振り払う」ようなことはしないが、洗うのをやめるよう言ってもそのまま洗い続けるような場合は“抵抗”となるのか。                                             | 「ない」 | 助言に従わないに該当するので「1 ない」を選択してください。<br>選択基準に設定されていない状況で介護の手間が発生している場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。（県）            | 2010/12/8               |
| 3  | 助言に対し、単に従わないだけでなく、怒鳴ったり大声を出したりする場合、「介護」ではないため「なし」とするのか。                                                                                | 「ない」 | 助言に従わないに該当するので「1 ない」を選択してください。<br>選択基準に設定されていない状況で介護の手間が発生している場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。（県）            | 2010/12/8               |
| 4  | 明らかに必要な介助であっても、本人が嫌がるため行えない場合（本人の行う能力があるなしに関わらず。）、手は出さずに口だけで嫌がる場合だと、「なし」になるのか。                                                         |      | 精神・行動障がいからくるものであれば該当します。ずぼら等の性格から来るものは該当しません。選択基準に設定されていない状況で介護の手間が発生している場合は、その具体的な「介護の手間」「頻度」を特記事項に記載してください。（県） | 2010/12/8               |
| 5  | 医療行為に対する抵抗は「介護に抵抗する」に含めますか？吸痰処置や点滴、注射、酸素療法、与薬、創傷処置等の際に抵抗する場合を想定しています。                                                                  |      | 医療行為は介護でないため含めない。<br>しかし、特記事項に詳細を書いて、認定審査会で判断を仰ぐ必要があると考える。（県）                                                    | 2017/10/10              |
| 6  | 「トイレに行きましょう」と言うだけでなく介護者が体に手を添えて誘導している場合のように、助言でも介護者が体に触れている場合は介護と捉えて、それに対して手を振り払ったり頑なに拒否する等して介助がスムーズに行えないなら、介護抵抗は「ある」となるという解釈で良いでしょうか。 |      | お見込みの通りです。テキスト P122(2)には「単に、助言しても従わない場合（言っても従わない場合）は含まない。」とあります。手を添えるなど、単に助言する以外の介助に対する抵抗は評価に含めて判断してください。（市）     | 2018/10/25              |



#### 4 - 8 落ち着きなし

| No | 事例                                                                                         | 選択 | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 帰宅願望はないが、物を出したり入れたり、引き出しの中のものを出したり入れたりするの繰り返し等の行動は、周囲の状況に合致しない行動で 4-14 自分勝手に行動するに該当するかどうか。 |    | <p>「認定調査員テキスト 2009 改訂版」P123</p> <p>(1) 項目の定義を確認してください。</p> <p>この項目は、①「家に帰る」等という意思表示と②落ち着きがなくなる行動のことです。</p> <p>この 2 つがそろえば、状況に応じて選択してください。</p> <p>なお、「家に帰る」等の「等」は居る場所はどこではないという主旨の言葉です。(場所に対する失見当識)</p> <p>「4-14 自分勝手に行動する」は明らかに周囲の状況と合致しない自分勝手な行動のことを指します。認知症の周辺症状の一つである常同行動（物を入れたり出したりする繰り返しの行動）を評価する項目ではありません。(県)</p> | 2010/12/8 |



#### 4-9 一人で出たがる

| No | 事例                                                                                                                     | 選択   | 理由                                                                                                                 | 開始時期       |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 出ようとする動作、(例えば、玄関をうろうろ・戸をがたがた)があるが、実際には出ていない場合の判断は？                                                                     |      | 実際に出ることがなかったり、目が離せない状況がなければ「1. ない」を選択すること。出ようとする行動があり、目が離せない場合、頻度で選択。(県)                                           | 2010/12/8  |
| 2  | 有料老人ホームに入所中のため環境上の理由で、外に出ることはないが、玄関のドアをガチャガチャしている。職員は、居室に連れ戻すために、目が離せないが、外に出ることはない。この場合は該当するのか？                        | 「ない」 | 目が離せない状況でも、環境上の理由で外に出る事がなければ「該当しない」を選択できる。手間を特記事項には記載する。(国)                                                        | 2017/2/24  |
| 3  | 環境上の工夫を行い、その後対象の行為が発生していない場合は、どのように判断するのか。                                                                             | 「ない」 | 環境上の工夫等で外に出ることが無くなった場合は、それ以前にどれだけあったとしても「ない」を選択してください。(県)                                                          | 2018/5/25  |
| 4  | 施設 3 階に入所しているが、1 人で出たがり、1 階のフロアまで勝手に行ってしまったことがあった。それ以降も週 1 回は同様の行為があるため、職員は目が離せない。施設の出入り口にはロックがかかっている。この場合 4-9 は該当するか。 | 「ない」 | テキスト P124 の定義は「一人で外に出たがり目が離せない」行動の頻度を評価する項目である。」となっています。特記事項の例を見ても屋外のことを指しているため、施設内の場合は評価に含めず、状況は特記事項に記載してください。(市) | 2018/10/25 |



# 4 - 1 0 収集癖

| No | 事例                                                                                                 | 選択 | 理由                                                                                                                                               | 開始時期      |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 集めることのみ、持って来ることのみは該当するか                                                                            |    | 場面や目的から見て合致していないと思われる場合は頻度に応じて選択肢を選択してください。(県)                                                                                                   | 2010/12/8 |
| 2  | 本人はお茶を入れるためにペットボトルを集めていると言うが、その量が4 5リットルのゴミ袋に4つあり、家族は妥当な量ではないと思っているが、周囲の状況に合致していない状況として「ある」としてよいか。 |    | 脳血管障がいや認知症によるものであれば、概ね1ヶ月の状況により「ときどきある」「ある」を選択してください。周囲に状況に合致しないとは、例えば道で拾ってきて汚いままゴミ袋にためている場合が考えられます。きれいに洗って取っておくということであれば、周囲の状況に合致しないとは考えません。(県) | 2010/12/8 |



#### 4-11 物や衣類を壊す

| No | 事例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 開始時期       |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | <p>平成22年12月8日に県から発出されたFAQについて、No183では「感情失禁による攻撃的なもの、暴力的なものであれば壊れなくても頻度で判断します。」、No184では「感情失禁や攻撃的なものによって壊すという意味です。認知症で使い方が分からなくて壊してしまった場合は含みません。」と記載があります。テキストにはそのような記載がないため、「攻撃的」という点にこだわらず評価してよろしいでしょうか。</p> <p>テキストには「物を壊したり、衣類を破いたりする」行動で、「実際に物が壊れなくても、破壊しようとする行動が見られる場合」も該当するという旨が記載されているため、そのような行動は全て該当すると考えてよろしいでしょうか。</p> |      | <p>認定調査員テキスト P126 に基づき判断する事。なお、場面や目的からみて不適当な行動であるかどうかには留意する事。（「認知症等で使い方が分からなくなった→結果的に破壊」は場面、行動からみて不適当な行動とは言えないため留意する事）（県）</p> <p>テキストに記載のあることのみで判断することと解釈できるため、「攻撃的」という点にこだわる必要はありません。「物を壊したり、衣類を破いたりする」行動を評価し、「実際に物が壊れなくても、破壊しようとする行動が見られる場合は評価」してください。また、明らかに周囲の状況に合致しない、「物を捨てる行為」も含みます。（市）</p> | 2017/6/15  |
| 2  | 認知症の症状により、分からなくて壊してしまった場合は含むか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |      | 認知症で使い方が分からなくて壊してしまった場合は含みません。（県）                                                                                                                                                                                                                                                                 | 2017/6/15  |
| 3  | 環境上の工夫を行い、その後対象の行為が発生していない場合は、どのように判断するのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 「ない」 | 環境上の工夫等で物や衣類を壊すことが無くなった場合は、それ以前にどれだけあったとしても「ない」を選択してください。（県）                                                                                                                                                                                                                                      | 2018/5/25  |
| 4  | 丸めたティッシュペーパーを投げても該当するのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |      | テキスト P126 特記事項の例の2つ目に、「気に入らないことがあると周囲のものをとって投げるのが月1回ほどあり、家族は、掃除等に手間を要しているとのこと。」とあります。場面や目的から見て不適当であれば、該当するものと考えられます。                                                                                                                                                                              | 2018/10/25 |
| 5  | 紙パンツのポリマー部分を破って捨てる場合は該当するか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      | 場面や目的から見て不適当であれば、「物を壊したり、衣類を破いたりする」行動に合致するため、該当します。（市）                                                                                                                                                                                                                                            | 2018/10/25 |



#### 4-12 ひどい物忘れ

| No | 事例                                                                                           | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                                                                                 | 開始時期      |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 食事をしたことを忘れ、食事を催促するが説明すれば納得する場合、説明の対応をしている為「あり」と判断するのか？                                       | 「なし」 | 食事したこと自体忘れて催促していれば「ある」。食事したことをすっかり忘れて家族に尋ね、説明で思い出せる場合は、食事したこと自体を忘れていないため「なし」を選択。(市)                                                                                                                                                                | 2016/6/30 |
| 2  | 普段使っている眼鏡などを毎日のように探していて、家族に探してもらうという場合は該当するか。                                                |      | 場面や目的から見て不適当な行動（認知症からくるひどい物忘れ）と判断でき、またこのことによって、何らかの行動が起こっているか、家族が何か対応をしていれば該当します。頻度に応じて選択肢を選択してください。（お尋ねの状況が不明ですが、探しているものを本人が理解している場合は、家族が探すなどの周囲の対応があっても該当しません。）年齢相応の物忘れと区別をしてください。なお、定義には当てはまらないが、介護の手間がかかっていると判断する場合は特記事項に介護の手間と頻度を記載してください。（県） | 2010/12/8 |
| 3  | 事前に説明しておいたのに「聞いていない」「知らない」と言うので、家族が何度も繰り返し説明する場合はどうか。                                        |      | 聞いたことすら覚えておらず、また家族が何度も繰り返し説明するという対応がされているので「ひどい物忘れ」に該当します。（県）                                                                                                                                                                                      | 2010/12/8 |
| 4  | 自宅内で居室の場所が分からない。家にいるのに「帰らせていただきます」と言う場合はどうか。                                                 |      | 場面や目的から見て不適当な行動（認知症からくるひどい物忘れ）と判断でき、またこのことによって、何らかの行動が起こっている、家族が何か対応をしていれば該当します。頻度に応じて選択肢を選択してください。年齢相応の物忘れと区別をしてください。また、家にいるのに「帰らせていただきます」と言う①意思表示と②具体的な行動があれば「落ち着きなし」の項目に該当します。（県）                                                               | 2010/12/8 |
| 5  | 普段と違うことがあると説明しても受け入れられず、何度も同じことを言う。受診時に順番通りに呼ばれないことについて、家族が説明しても理解できず、何度も受付に聞きに行こうとした場合はどうか。 |      | 順番どおりに呼ばれないことについて納得できずに同じことという場合は該当しません。一旦は納得しても説明を忘れて何度も聞く場合は該当します。（県）                                                                                                                                                                            | 2010/12/8 |
| 6  | 電話がかかってくるとメモをとるが、メモをとったことを忘れてしまう場合はどうか。                                                      |      | お尋ねの状況について詳細不明ですが場面や目的から見て不適当な行動（認知症からくるひどい物忘れ）と判断でき、またこのことに                                                                                                                                                                                       | 2010/12/8 |

|    |                                                                                                                                                                                                          |              |                                                                                                                                                                                                               |           |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
|    |                                                                                                                                                                                                          |              | よって、何らかの行動が起こっている、家族が何か対応をしていれば該当します。頻度に応じて選択肢を選択してください。年齢相応の物忘れと区別をしてください。(県)                                                                                                                                |           |
| 7  | 指示をしても忘れてしまうため、何度も何度も指示をして、日常的に指示をしないと生活が成り立たない方は該当しないのか。蛇口の閉め忘れがあるため、水を出しっぱなしにする。火の消し忘れにより、火事になる。火の消し忘れにより火事になる、水浸しになり騒ぐ等は、起こっているは現象に対しての反応であるため、物忘れに起因する行動ではないので該当しないのか。また誰がこんなことをしたの？と言って騒ぐことは該当するのか。 |              | お尋ねの状況について詳細不明ですが場面や目的から見て不適当な行動（認知症からくるひどい物忘れ）と判断でき、またこのことによつて、何らかの行動が起こっている、家族が何か対応をしていれば該当します。頻度に応じて選択肢を選択してください。<br>年齢相応の物忘れと区別をしてください。<br>なお、定義には当てはまらないが、介護の手間がかかっていると判断する場合は特記事項に介護の手間と頻度を記載してください。(県) | 2010/12/8 |
| 8  | 「物忘れによって、何らかの行動が起こっている事」→起因する行動とは本人にかかっていることで判断するのか。忘れた事も忘れてそのままになっており、周囲に迷惑がかかっているケースは該当するのか否か。(例、お金をお店で借りたことを忘れてそのままになっており、家族が後で気づき対応に追われる。)                                                           | 「ときどきある」「ある」 | 借りたことすら覚えていなくて周囲が対応する必要があるため「ひどい物忘れ」に該当します。(県)                                                                                                                                                                | 2010/12/8 |
| 9  | 認知症状の程度が重く、生活全体的に介助している為、「物忘れ」を起因とする問題行動は発生していない。その事をもって「ない」と判断するのか、介助者が全てに誘導介助を行っている事をもって、対処していると考え「ある」と判断するのか。                                                                                         | 「ない」         | 「ない」を選択してください。(県)                                                                                                                                                                                             | 2010/12/8 |
| 10 | どの程度の行動を、「起因する行動」とするのか。『月1回。人から贈り物があつたことについて妻が本人に確認すると、もらったこと自体を忘れており「そんなことあつたか」と妻に聞いた。妻が説明した』という事例はどうか。                                                                                                 | 「ときどきある」     | 聞く、話す、といった行動があれば、「起因する行動」に該当するとします。<br>また、家族の確認等によって出現したり明らかになった「ひどい物忘れ」も含みます。<br>ただし、実際の対応がなかったり、対応の必要性がない場合は「ひどい物忘れ」には該当しません。                                                                               | 2020/4/1  |

## (4-1-2) ひどい物忘れの判断について

テキストP127 (2) 留意点より

周囲の者が何らかの対応をとらなければならないような状況については、実際に対応がとられているかどうかは選択基準に含まれない。ひどい物忘れがあっても、それに起因する行動が起きていない場合や、周囲の者が何らかの対応をとる必要がない場合は「1. ない」を選択する。

| 選択  | No | ①ひどい物忘れ | ②起因する行動 | ③対応 | 例 (①ひどい物忘れ+②起因する行動+③対応)                                |
|-----|----|---------|---------|-----|--------------------------------------------------------|
| 該当  | 1  | ある      | ある      | ある  | ①食事を食べたこと自体を忘れて、②催促する。③介護者が説明したりお菓子等を準備したりする。          |
|     | 2  | ある      | ある      | 必要  | ①スーパーで卵を買ったこと自体を忘れ、②卵を何回も購入する。③冷蔵庫に卵が溜まったままで、捨てる必要がある。 |
|     | 3  | ある      | ない      | ある  | ①通帳や印鑑をしまったこと自体を忘れ、②探しもしない。③介護者が後で探した。                 |
|     | 4  | ある      | ない      | 必要  | ①火をつけたこと自体忘れ、②鍋を焦がす。③焦げたままとされており、介護者が片付ける必要がある。        |
|     | 5  | ある      | ある      | ない  | ①話した事自体を忘れて、②毎回初めて話したかのように話す。③家族は聞き流すのみで、特に対応していない。    |
| 非該当 | 1  | ある      | ない      | ない  | ①物の位置を動かしたこと自体を忘れて、②直しもしない。③家族もそれで困ってはいない為対応はしていない。    |
|     | 2  | ない      | ない      | ない  | ①食事を食べたことが曖昧で、②「食べたか」と聞く。③介護者が「食べた」と説明すると思出し納得する。      |

※ (4-1-2) ここでいうひどい物忘れは、場面や目的から見て不適当で、物忘れによって何らかの行動が起こっているか、周囲の者が何らかの対応をとらなければならないような状況を言います。



#### 4-13 独り言・独り笑い

| No | 事例                                           | 選択 | 理由                                                                                                                                                                                                                       | 開始時期       |
|----|----------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 鏡に映った自分に対して話しかけたり、テレビに対して話しかけたりしている状況は該当するか。 |    | テキスト P128 の定義にあるように、「場面や状況とは無関係に（明らかに周囲の状況に合致しないにもかかわらず）、独り言を言う、独り笑いをする等の行動が持続したり、あるいは突然にそれらの行動が現れたりすること」とあります。たとえ鏡像やテレビが対象であっても、明らかに周囲の状況に合致しないにもかかわらず独り言を言っていれば該当します。感想を言う等の常識的範囲の行動ではなく、明らかに会話しているような様子の場合が想定されます。（市） | 2018/10/25 |



#### 4-14 自分勝手に行動する

| No | 事例                                                                                                                       | 選択       | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | どのような場合が「自分勝手な行動」に該当するか。                                                                                                 |          | <p>① 周囲の状況に合致しない②自分勝手な行動のどちらもある場合が該当します。ただし、「周囲」の定義が曖昧な項目であるため、周りに人がいるという「集団」や、真夜中であるという「周辺環境」、治療しなければいけないような社会的規範的「周辺状況」も、含まれないとは言い切れないため、どのようなことが周囲の状況に合致しておらず、どのようなことが自分勝手な行動なのかをできる限りわかるよう特記事項に記載してください。(市)</p> <p>② 「自分勝手な行動」とは、テキストにそれ以上の記載がないことから、認知機能低下により訳が分からず行うものや、状況理解ができず行うものも含めて判断し、生理・反射的なものは含まないこととします。(市)</p> | 2019/5/7  |
| 2  | 一人で立てないのに、毎日、突然ベッド柵を激しくゆすったり、車椅子から立ち上がろうとする。職員が一人で立たないように指示するが、その指示が理解できず繰り返す。職員は危険防止のため、目を離さないようにしている。この場合、4-14 該当するのか？ | ある       | 「自分勝手な行動」とは、テキストにそれ以上の記載がないことから、認知機能低下により訳が分からず行うものや、状況理解ができず行うものも含めて判断するため、今回の事例も「ある」として評価します。                                                                                                                                                                                                                                | 2019/5/7  |
| 3  | 入院後 1 カ月の間に 1 回。多床室で、トイレが別の場所にあるにも関わらず、壁やカーテンに放尿した。看護師が片づけた。                                                             | 「ときどきある」 | 1.「周囲の状況に合致しない」ということと、<br>2.「自分勝手な行動」ということのどちらにも該当しているため「ときどきある」を選択できる。(市)                                                                                                                                                                                                                                                     | 2017/2/14 |
| 4  | 4-14 が該当するような場合は、4-4、4-6、4-9、4-10 などほれなく該当するということか。                                                                      |          | 性格的なものでない、「周囲の状況に合致しない」「自分勝手な行動」であれば該当します。よくある例としては「○○にもかかわらず、勝手に○○する」というような状況です。4-4（昼夜逆転）は、別冊 P87, No1 にある「夜間の問題行動」の際に重複選択する候補に挙がってくると思います。4-6（大声を出す）は「大きな声を出さないように伝えているにもかかわらず勝手に大声を出す」というように「勝手さ」があれば該当すると思います。4-9（一                                                                                                        | 2019/8/1  |

|  |  |  |                                                                                                   |  |
|--|--|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |  | <p>人で出たがる) やセクハラはほとんど該当すると思います。4-10 (収集癖) は持って帰っていいものを大量に集める場合は「勝手さ」の評価が難しいのでその都度相談かと思います。(市)</p> |  |
|--|--|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

## 「4-14 自分勝手に行動する」事例一覧

### <定義抜粋>

「明らかに周囲の状況に合致しない自分勝手な行動」

### <調査上の留意点>

いわゆる性格的に「身勝手」「自己中心的」等のことではなく、場面や目的から見て不適当な行動があるかどうか。

### <ポイント>

- ・①「周囲の状況に合致しない」ということと、②「自分勝手な行動」ということのどちらにも該当していることが必要。
- ・「自分勝手な行動」とは、認知機能低下により訳が分からず行うものや、状況理解ができず行うものも含めて判断し、生理・反射的なものは含まないこととします。

### <特記事項の例>周囲の状況（集団、昼夜、社会的に置かれている状況等も含む）に合致しないという内容でないことと該当しない。

| 種別   | 該当非該当 | 周囲の状況への合致しなさ | 自分勝手 | 特記事項                                                                                 | 備考                                   |
|------|-------|--------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 放尿   | 非該当   | ない           | ある   | 週 1 回。施設の自室で、トイレがあるにも関わらず、筆筒やゴミ箱に放尿する。気づいた職員が片づける。後から聞くともトイレの場所が分からず床でない場所です。済ませたこと。 | 分からないの合理的な判断が伺え、場面や目的から見て不適当とまでは言えない |
|      | 該当    | ある           | ある   | 入院後 1 回。トイレは別の場所にあるが、訳も分からず、壁やカーテンに放尿した。                                             |                                      |
|      | 該当    | ある           | ある   | 入院後 1 回。トイレが別の場所にあるにも関わらず、壁やカーテンに放尿した。看護師が片づけた。場所の理解はあるとのこと。                         | トイレの場所の理解もあり、訳も分かっている様子でもないため。       |
| 点滴   | 該当    | ある           | ある   | 入院後 1 回。「点滴は不必要だ」と言い、勝手に自己抜去した。看護師はミトンを着させ対応した。                                      | 入院して医療的な処置が必要な状況に合致しない行動のため。         |
|      | 非該当   | ある           | ない   | 入院後 2 回。手が点滴に触れると反射的に自己抜去してしまう。看護師はミトンを装着させ対応した。                                     | 反射的な行動のため                            |
|      | 該当    | ある           | ある   | 入院後 1 回。同室者の点滴を勝手に抜いた。気づいた看護師が説明し、再度同室者の点滴を行った。                                      |                                      |
| ベッド上 | 該当    | ある           | ある   | 週 2,3 回。ベッド上安静が必要な状況だが、動きたいために勝手にベッド柵を抜きベッドから立ち上がり、動こうとして転倒する。看護師はセンサーマットを設置し対応している。 | 入院して医療的な処置が必要な状況に合致しない行動のため。         |
|      | 該当    | ある           | ある   | 週 1 回。ベッド上安静の方だが、訳も分からず自分勝手にベッドから立ち上がり、動こうとして転倒する。看護師はセンサーマットを設置し対応している。             |                                      |
|      | 該当    | ある           | ある   | 入院後 1 回。看護師が急いでくるのが面白く、同室者のセンサーマットを勝手に踏んで鳴らす。看護師がやめるよう強く説明したところそれ以降はなくなった。           |                                      |



#### 4 - 1 5 話がまとまらない

| No | 事例                                                                                                      | 選択 | 理由                                                                                                                              | 開始時期       |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 定義上は「話の内容に一貫性がない」「話題を次々と変える」「質問に対して全く無関係な話が続く」等、会話が成立せず、周囲の状況に合致しなければ、失語症であっても評価してよいと思われそうですが、いかがでしょうか。 |    | 第 4 群は認知症に伴う行動・心理状態を評価する項目である。該当の失語症が認知症周辺症状として発症したものであるなら評価対象になりうるが、そうではなく認知症以前から発症していた等、単なる一疾患としての失語症であるならばこの項目での評価対象ではない。(県) | 2017/12/13 |



# 第5群

## 社会生活への適応



## 5-1 薬の内服

| No | 事例                                                                                 | 選択         | 理由                                                                                                                                                                              | 開始時期       |
|----|------------------------------------------------------------------------------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 自分で水を準備。介護者が薬を準備し、口腔内へ入れる場合、一部介助か全介助か。                                             | 「一部介助」     | 自分で水を準備していれば「一部介助」を選択する。ただし、水と薬を準備し、薬を口腔内に入れる介助があれば「全介助」とする。(市)                                                                                                                 | 2015/7/30  |
| 2  | 認知はなく薬の自己管理能力はあるが、入院中の為病院の方針により、薬の準備は看護師により介助されている場合は？                             |            | 入院中の場合、介助の方法と考え、介助の状況により判断し、不適切な方法としての判断はしない。(市)                                                                                                                                | 2010/12/8  |
| 3  | 一連の行為として「薬や水を手元に用意する」とあるが、朝1回、ペットボトルなどに食事用として水を用意し、それを薬の内服にも使用する場合、一連の行為の一部介助となるか。 |            | 準備してもらったもの、注いでもらったものであれば、「水を手元に準備した」として考えてよい。ただし、薬を飲む頻度から判断してください。<br>例) 毎日1回内服の場合は「一部介助」になります。毎日3回内服の場合は、1週間の頻度で、「一部介助」が7回、「介助なし」が14回になるため「介助なし」を選択し、判断根拠と状況の特記事項に記載してください。(県) | 2011/9/13  |
| 4  | 嚥下できず現在内服薬が処方されていない(経管栄養も実施していない)場合は、全介助と選択するのか？                                   | 「介助されていない」 | 嚥下できない、または、嚥下できる能力はあるが医師の指示により内服薬の処方が無い場合、想定できないとし、「介助なし」を選択する。(県)                                                                                                              | 2015/11/16 |
| 5  | 嚥下できず、経管栄養中。現在薬の注入をしていない場合、経管栄養から薬の注入を想定して「全介助」を選択するのか？                            | 「全介助」      | お見込みの通り。テキストP132の(3)に「経管栄養(胃ろう)を含む」などのチューブから内服薬を注入する場合も含む。」とあり、P133「③調査対象の行為自体が発生しない場合」には「薬の内服がない場合は、薬剤が処方された場合を想定し、適切な介助の方法を選択」とあるため、経管栄養からの注入を想定してください。(市)                    | 2018/10/25 |
| 6  | 内服を自己管理しているが、飲み忘れがある場合、どの程度で不適切と判断したらよいか？                                          |            | 頻度で判断する。日に3回を週7回内服する場合は11回以上飲み忘れがある場合。日に2回を週7回内服する場合は7回以上飲み忘れがある場合に不適切と考えられる。(市)                                                                                                | 2017/5/9   |
| 7  | 1回の内服で散剤と錠剤が毎回ある。散剤はこぼれるため、介護者が直接口に入れる。錠剤は手に薬を渡している場合、「一部」か「全介助」か？                 | 「一部介助」     | 1回の服薬を一連の動作とみると、手に渡すと飲めるという「一部」の部分があるため、「一部」で選択。<br>※ただし、1日3回服用。朝、夕は散剤のみで直接口に入れる介助、昼は錠剤のみで手に渡す介助の場合は、頻度より「全介助」を選択。(市)                                                           | 2013/2/28  |

|    |                                                                                                                                  |        |                                                                                                                                        |                         |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 8  | 箱やカレンダー等への薬の仕分けの時に、介護者が常時見守りをしている場合「一部介助」になるか？それ以外の一連の動作は全て自分で行う。<br>また、自分で仕分けが間違えることがあり、家族が後でしっかり確認している場合も同様と考えてよいか。            | 「一部介助」 | 薬の仕分けの時の常時の見守りも、本人が仕分け後に家族が確認することも、なんらかの介助が行われていると判断して「一部介助」を選択。(市)                                                                    | 2016/9/14<br>2020/11/01 |
| 9  | 内服を経管栄養で行う場合は、どのように選択するのか？経管や胃ろうから、内服薬を注入している場合は、内服の介助と考えるのか。                                                                    |        | 経管栄養や胃ろうから内服薬が注入されていれば、経管栄養や胃ろうからの栄養が、どのような介助で行われているかをもとに判断してください。(県)                                                                  | 2010/12/8               |
| 10 | 他は自分で用意できるが、水を手元に用意する介助のみ必要な方は「一部介助」を選択してよいか。                                                                                    | 「一部介助」 | 薬を内服するために、水の用意がされている場合は「一部介助」を選択してください。(県)                                                                                             | 2010/12/8               |
| 11 | 本人が2種類の薬を飲むところを、1種類の薬しか飲んでおらず、介護者の指摘を受けて、やっと正しく内服できる場合、一部介助となるか。                                                                 |        | 薬の内服のたびに、介護者が指摘をしているならば、「一部介助」になりますが、朝昼夕、日によって介護の状況が異なる場合は一定期間（調査日より概ね過去1週間）で「一部介助」が多いのか「介助されていない」ほうが多いのか確認し頻度で判断し状況を特記事項に記載してください。(県) | 2010/12/8               |
| 12 | 留意点に「飲む時間や量を問う項目ではなく・・・」とあるが、「一部介助」の選択基準の中に、「飲む等の指示等」があるが、これは定義（薬を手元に用意する、薬を口に入れる、飲み込む）のどの介助と考えればよいのか、「飲む量の指示等」には、飲んだ後の確認は含まれるか。 |        | 「飲む量の指示等」とは、「薬を口に入れる」介助の延長としての介助の範囲を想定しています。単に飲む量を口頭で指示するということではなく、面前で飲み込むまで確認する等の介助のことです。従って、飲んだ後の確認行為のみは介助に含みません。(県)                 | 2010/12/8               |
| 13 | 経管チューブから内服薬を注入するという介助を受けている場合、「薬を口に入れる」及び「薬を飲み込む」という介助に該当すると考えてよいか。                                                              |        | 「胃ろう」による食事摂取が「全介助」と理解されているのと同様に、薬の内服が経管栄養において実施されている場合は、その経管栄養チューブへの投薬における介助の方法に基づいて選択してください。(県)                                       | 2010/12/8               |
| 14 | テキストP132(2)選択肢の選択基準「一部介助」の記載内容について、「飲む量の指示や確認が行われている」とあるが、毎朝「薬飲んでね」等の声かけは含まれるか。また、「今日、薬飲んだ？」等の声かけは定義にある「一部介助」に該当するのでしょうか。        |        | 「介助されていない」を選択し特記事項を記載してください。「飲む量の指示や確認」とは口に入れる際に発生する飲む量の指示・確認です。(県)                                                                    | 2010/12/8               |

|    |                                                                                                                        |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                       |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 15 | テキスト P134 (4) 異なった選択が生じやすい点の 2 つ目の記載例は質問と回答の整合性がとれないように感じる。自分勝手に薬を飲んだり飲まなかったりするが特に対応していない場合はどう考えるのか。                   |        | 自分勝手に薬を飲んだり飲まなかったりするが特に対応していないという状況が「不適切」と考えるならば、調査員が適切と考える「介助の方法」を選択して状況を特記事項に記載してください。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                | 2010/12/8             |
| 16 | 拒薬や粉薬を飲みやすくするために、介護者が薬を食事に混ぜて、その食事を本人が食べることににより服用している場合は「全介助」を選択して良いか。拒薬の場合と拒薬でなく粉薬を飲みやすくするための介助と介助の手法が同じでも選択肢は同じで良いか。 | 「一部介助」 | 薬の準備は介助を受けるものの、自分で口に運ぶことができていることから「一部介助」と判断します。(市)<br>平成 21 年 9 月 30 日付け事務連絡における「要介護認定方法の見直しに係る Q & A」「問 2」に記載のとおり、基本調査項目の定義にうまく当てはまらない場合等、判断に迷う際には、各基本調査項目の定義等に基づき選択した上で、対象者の具体的な状況（介護の手間、平均的な手間の出現頻度、選択に迷った状況等）と認定調査員の判断根拠を特記事項に記載します。介護認定審査会は、特記事項を用いて一次判定の修正・確定及び二次判定を行います。また、平成 21 年 9 月 30 日付け事務連絡における「要介護認定方法の見直しに係る Q & A」の問 1 及び問 3 も参照してください。(県) | 2020/4/1<br>2010/12/8 |
| 17 | 定義にある「飲み込む」という部分のみ自分でやっている、つまり薬を口に入れてもらう介助を受け、水を自分で飲む場合は「一部介助」を選択しても良いか。                                               | 「全介助」  | 「全介助」を選択します。なお、平成 21 年 9 月 30 日付け事務連絡における「要介護認定方法の見直しに係る Q & A」の問 14 も参照にしてください。薬や水を手元に用意する、薬を口に入れるという行為に介助が行われている時点で水を飲みこむだけ自分で行っているも「全介助」を選択します。逆に水を飲む行為だけ介助されていてその他は自分で行っている場合は「一部介助」を選択してください。(県)                                                                                                                                                      | 2010/12/8             |
| 18 | 薬を 1 回分ずつ、家族が 1 回/1 週、まとめて分包している（分包してあれば自分で服薬できる）場合の判断。                                                                |        | 1 回/1 日であろうと 1 回/1 ヶ月であろうと介護者が分包していれば「一部介助」を選択します。薬局で分包されている場合は「介助」とは考えません。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2010/12/8             |
| 19 | 定期薬はなくても、処方された頓服を 1 週間以内に飲む機会があれば、その状況で判断してよい。                                                                         |        | 調査員テキスト P132 (1) (3) より、「薬」の定義として「定期薬」に限定するとの記載はない。頓服でも飲む機会があれば、その状況での判断でよい。(市)                                                                                                                                                                                                                                                                            | 2020/11/01            |

|    |                                                                                        |                           |                                                                                                                         |            |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 20 | <p>薬局で貰ってきた大袋に介護者が朝、昼、夕と書くだけは「一部介助」に該当するか。</p> <p>一包化された薬の袋一つ一つに介護者が日付を記入する場合はどうか。</p> | <p>「手間」</p> <p>「一部介助」</p> | <p>処方された際に大袋に書くのみでは頻度や内容からみても「一部介助」には該当しない。</p> <p>処方された薬 1 つ 1 つに書いており、「介護者が分包する」行為と同等の介助が行われていると判断できるため「一部介助」。(市)</p> | 2020/11/01 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|

## 5 - 2 金銭の管理

| No | 事例                                                                                                                                       | 選択                | 理由                                                                                                                                                                                                | 開始時期      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 金銭の「管理」とは？                                                                                                                               |                   | 通帳の管理や物理的管理ではない。お金の支出入の管理、お金のマネジメントを言う。1円単位まで把握していなければならないというものではない。(国)                                                                                                                           | 2010/12/8 |
| 2  | 適切な買い物、適切な財産管理の適切使用について問わないなら、5-2での管理は、所持金を紛失しないということを意味しているのか。何をもち、管理できるとするのか。                                                          |                   | 一連の行為の中にある「管理」とは、通帳や財布の中身の管理と考えてよいです。保管≠管理です。(県)                                                                                                                                                  | 2010/12/8 |
| 3  | 本人は年金も受給しておらず、手元にもお金を全く持っていない。身の回りのものは家族が全て支払っている場合、どのように判断するのか。                                                                         | 「介助なし」            | その方に一連の行為が全く発生していない場合は、排便や整髪と同様、「介助なし」を選択してください。<br>ただし、不適切な状況がある場合は、適切な介助の方法を検討し選択してください。                                                                                                        | 2019/2/21 |
| 4  | ①日頃は自分で全てお金を持ち管理しているが、入院したために家族に預け、支出入について報告を受け把握する場合、どのように判断するか。<br>②また、全く自分では管理せず、手元にもない方について、家族が管理し、支出入について本人に報告をして把握する場合はどのように判断するか。 | ①「一部介助」<br>②「全介助」 | 評価軸としては「能力」ではなく「介助の方法」の評価軸であるため、実際に発生している一連の行為のどこに介助があり、どこは自分で介助なく行っているのかを整理して判断する必要があります。<br>①の場合は、支出入の把握について、報告という介助があって初めて把握しているため、「一部介助」と判断します。<br>②については、支出入の把握、管理ともに介助が発生しているため、「全介助」となります。 | 2019/12/2 |

## 「5－2 金銭管理」の基本的な考え方（2019.12.2 修正）

一連の行為を特定し、そこにどのような介助が発生しているのかを把握し、選択する。

○：介助なく自分で行う    △：不適切な状況    ●：介助を受けている    －：発生していない

|            | 支出入の把握        | 管理            | 計算            |
|------------|---------------|---------------|---------------|
| 年金・通帳等     | ○ / △ / ● / － | ○ / △ / ● / － | ○ / △ / ● / － |
| 小遣い等の手元のお金 | ○ / △ / ● / － | ○ / △ / ● / － | ○ / △ / ● / － |

どれかひとつでも「○」があれば「全介助」にはならない。どれかひとつでも「●」があれば「介助なし」にはならない。

## 5-2 金銭管理判断フロー

この判断フローは、テキストの内容を豊田市として解釈し、調査員がより迅速かつ正確に判断するために作成した補助ツールです。最終的には、その方に発生している一連の行為を特定し、テキストに沿った判断をしてください。個別具体的な事例で悩む場合は、認定担当の保健師に相談したり、「●(5-2) 悩んだが○○と判断した。」として審査会の意見を仰いでください。

注：定義に無いため、残高については判断に含めません。

介助には、支出入の把握のため  
報告を受けることも含めます

年金や貯金などのお金（手元の現金は  
含まない）の把握に介助が

自分で持っている、報告してもら  
うよう依頼したりする等、管理の主体が自  
分であれば「いる」に進みます。

年金・預金に介助があって、自分で  
管理できているので、以下はすべて  
一部介助になります。

自分で年金や貯金などのお金を管理して

この時点で年金・貯金の把握  
に介助が必要となります。

年金や貯金などの支出入を把握して

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

⑥ 一部介助

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

手元の現金などのお金の  
把握・計算に介助が

② 全介助

③ 全介助

④ 全介助

⑤ 一部介助

⑥ 一部介助

⑦ 一部介助

⑧ 一部介助※

⑨ 介助なし

⑩ 全介助

⑪ 全介助

⑫ 全介助

⑬ 全介助

⑭ 一部介助

⑮ 一部介助

⑯ 一部介助

⑰ 一部介助

※あまり見られま  
せんが、使いすぎ等  
不適切と判断でき  
る場合もあるため、  
個別相談が必要です。



### 5-3 日常の意思決定

| No | 事例                                                                                                                | 選択             | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 開始時期                    |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 習慣的に行くデイサービスは「特別」ではなく、「日常的」と考えられるが、どちらで捉えたらよいか？                                                                   |                | 日常的に利用していても「特別な場合」の判断で考える。<br>マニュアル P137「特別な」の中の「ケアプランの作成への参加」の一つとしているため。<br>(県)                                                                                                                                                                                                                                                                            | 2011/4/1                |
| 2  | 医師の治療方針等誰かに噛み砕いて説明してもらわないと理解できない場合どのように判断するか？<br>医師の治療方針等で医師がわかりやすく説明をしている場合も「噛み砕いている」と考え「特別な」を選択するのか？            | 「特別な場合を除いてできる」 | 誰かが噛み砕かないと決定できない状況より「特別な場合を除いてできる」を選択。(市)<br>医師にわかりやすく説明してもらっていて噛み砕いてもらわなくても、意思決定できれば「できる」を選択する。<br>独居等で、自分では理解して意思決定できないため、医師やケアマネ等が通常以上に噛み砕いて説明する等の指示や支援が必要であれば「特別な場合を除いてできる」を選択する。                                                                                                                                                                       | 2011/6/30<br>2022/11/22 |
| 3  | 日頃、選択する機会はないが、献立の選択という限定されたことのみ決めることができる。その他、テレビ番組や着る服の選択等は決めることができない。この場合は、献立の選択しか決めることができないため、「日常的に困難」を選択して良いか？ | 「日常的に困難」       | それでよいです。<br>「特別な場合を除いてできる」は、日常的なことは決められるが、特別な場合については指示や支援を要する状態像で、<br>「日常的に困難」は、日常的なことも決められないことが多いが、全くできないわけではなく、毎日の暮らしにおける活動に関する意思決定を「することがある」程度の状態像です。<br>二者択一など、選択の幅を狭めないと決められない場合は、「日常的に困難」を選択することとします。<br>今回の事例は、献立の選択という、限られたことしか決められないため「日常的に困難」を選択。<br>※ただし、日常的な場面で限られたこと以外にも決められることが多ければ、「特別な場合を除いてできる」を選択する。まれにしか決めることができない場合は、「日常的に困難」を選択します。(市) | 2017/3/6<br>2019/12/2   |
| 4  | 選択の際に本人が意思決定している場合の妥当性について評価の対象とするのか、しないのか。                                                                       |                | 「意思伝達」との違いは、「意思決定」は、決定すべき内容が何かということがわかってないと決定できないという点です。<br>例)「今日何が食べたい？」⇒「水戸黄門」では、「意思決定」は「できない」が「意思伝達」は「できる」になります。(県)                                                                                                                                                                                                                                      | 2010/12/8               |

|    |                                                                                                        |  |                                                                                                                                                             |           |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 5  | 本人が意思決定している事柄が妥当とは言えないであろう決定でも、危険に至らないなど、本人の意思を尊重してケアにあたっている場合は「できる」としてよいのか。                           |  | 意思決定の内容を理解した上で、自分の意思を決定しているかどうかポイントです。考え方としては、伝達がされていなくても決定されていれば「できる」となります。(たとえば、医師の治療方針に賛同できなくても、その後の人間関係等を考慮して文句を言わないでおくような態度は、高度な意思決定が行われていると考えられます。(県) | 2010/12/8 |
| 6  | 意思決定の内容が適切かどうかで判断されるべきと考えるがどうか。                                                                        |  | 意思決定の内容を理解した上で、自分の意思を決定しているかどうかポイントです。考え方としては、伝達がされていなくても決定されていれば「できる」となります。(たとえば、医師の治療方針に賛同できなくても、その後の人間関係等を考慮して文句を言わないでおくような態度は、高度な意思決定が行われていると考えられます。(県) | 2010/12/8 |
| 7  | 意思決定の内容が妥当ではない場合、「日常的に困難」で良いのか。(例：①さっき行ったばかりなのに何度もトイレに行きたがる。②清潔介助の拒否がある。《ケアプラン等その他の意思決定はあまりしていない人の場合》) |  | ①、②の「トイレに行く」「清潔保持の介助の拒否」は自分で意思を決定している「特別な場合を除いてできる」を選択してください。(県)                                                                                            | 2010/12/8 |
| 8  | 「草刈りがあるよ」という声掛けに対し車いすなのに「草刈に行きたい」という。実際は車椅子で参加することは不可能であるにもかかわらずという場合                                  |  | 意思の決定が妥当かどうかではなく、質問に対して何を聞かれているか理解して答えれば「できる」と判断します。(県)                                                                                                     | 2010/12/8 |
| 9  | 「お葬式に行く？」と聞くと、全然関係の無い「今度の老人会は・・・」と言って何を聞かれているか意味を理解されていない返答が返ってきた場合は？                                  |  | 質問の内容を理解していないため、質問の内容であれば「できない」との判断になります。(県)                                                                                                                | 2010/12/8 |
| 10 | 認知症があるが、自分でなんでもできると思い込んでいて、買い物にも一人で行ってしまう。外出もできるような方の判断は？                                              |  | 聞いていることに答えられれば、「できる」という判断になります。<br>意思決定はできるけど、生活行動がめちゃくちゃな方もいますが、この項目では、能力を聞いており、その行動の意味を評価するわけではありません。意思決定が出来るがゆえに、いろいろなことをされて迷惑だったり手間がかかったりすることがあります。(県)  | 2010/12/8 |

## 5 - 4 集団への不適応

| No | 事例                                                                | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                           | 開始時期      |
|----|-------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 認知症がひどく徘徊している人を、レクリエーションに参加させようとするが、やはり徘徊してしまい参加できない場合は「ある」でよいのか？ |      | 行動・活動に関連せず無目的に行動してしまう場合、手間の様子を記載し奇声を発する等の行動があれば「ある」。<br>始めから参加もせず、参加させようとするこ<br>ともなく不適応な行動がなければ「なし」。<br>(県)                                                                                  | 2010/12/8 |
| 2  | どんな状況が該当するのか？                                                     |      | レクや食事などに集まって何かするような場<br>合について拒否したり、人の邪魔をするよう<br>な言動をする等、適応できなかつたりする状<br>況が該当します。(市)<br><br>集団に参加したくないだけでは「ない」。<br>集団に参加している時に、自分勝手に行動す<br>る場合。例えば、レク中や食事中に席を離れ<br>てどこかへ行ってしまふ等が考えられる。<br>(県) | 2019/8/1  |
| 3  | 入所中で特定の利用者に対していじめの言葉をあびせている場合、「あり」と判断してよいのか？                      | 「ない」 | 行動の有無を問う項目の為、言葉をあびせる<br>だけでは「ない」。利用者を押したりしていれ<br>ば「あり」。(県)                                                                                                                                   | 2012/4/2  |



## 5-5 買い物

| No | 事例                                                                                                             | 選択                          | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                  | 開始時期                   |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1  | 入院、入所中で食材は病院、施設側が全て行っているが、認知症状なく必要な日用品を家族に依頼できる場合、できそうな場合は「一部介助」と判断するのか？                                       | 「全介助」                       | 入院、入所中の場合、認知症状なく依頼できていたとしても、食材全般は病院、施設側が購入している為、実際の介助方法「全介助」で判断する。(市)                                                                                                                                                                                               | 2010/5/13              |
| 2  | 定義に「買い物」とは食材、消耗品等の日用品を選び・・・とあるが、嗜好品、衣類も含めるのか？<br>自動販売機で飲料を買うことも含まれるか？                                          |                             | 食材等の中に嗜好品、衣類、自動販売機で飲料を買うことを含めて判断する。家族が見繕って購入する場合と本人が嗜好品、衣類、自動販売機で飲料を購入することがある場合は頻度での判断となる。(県)(市)                                                                                                                                                                    | 2011/3/4<br>2020/11/01 |
| 3  | 本人は、嗜好品を自分で選択して棚から取り、支払いまで行う。この時、介護者は本人の分として食材を選択し棚から取り、本人のカゴに入れて、支払いは本人が行う。調査前 1 週間の買い物は、この 1 回のみの場合、どう判断するか？ | <del>「介助なし」</del><br>「一部介助」 | <del>買い物の一連の動作のなかで、商品の選択、棚から取る、支払いの一連の動作が自分で行えていることがあれば、他の部分に介助があつたとしても「介助なし」を選択。買い物の一連の動作のなかになんらかの介助があれば、「一部介助」を選択。(市)</del><br>その場面に発生している一連の行為の中で、すべて自分で行っていれば「介助なし」とし、一連の行為のうち受けている介助が一つでもあれば「一部介助」を選択する。今回の場合は、「商品を選択し棚から取る」ところで本人以外が行っている介助があるため、「一部介助」を選択する。 | 2016/9/14<br>2019/2/21 |
| 4  | 家族が、他の家族のものと一緒に購入している場合の考え方について。                                                                               |                             | 家族が日用品をすべて代理で購入している(他の家族のものと一緒に購入している場合も含む)場合はその状況で判断します。サービスの一部として提供されるような購入代行は、介助ととらえません。(県)                                                                                                                                                                      | 2010/12/8              |
| 5  | 入院中で週 1 回売店で買い物をする人。                                                                                           |                             | 定義上は全介助。特記事項に状況を記載してください。ただし、不適切な介助と判断する場合は根拠を記載し適切な介助の方法を選択してください。介護認定審査会は、特記事項等を用いて一次判定の修正・確定及び二次判定を行います。(県)                                                                                                                                                      | 2010/12/8              |
| 6  | 定義でいう買い物とは「食材等の日用品を選び、代金を支払うことである」とあるが、食材は、家族が購入している(購入の依頼はしていない。)が、タバコなどの嗜好品は本人が購入している場合、一定期                  |                             | お見込みのとおり。ただし、不適切な介助と判断する場合は根拠を記載し適切な介助の方法を選択してください。状況を特記事項に記載してください。介護認定審査会は、特記事項等                                                                                                                                                                                  | 2010/12/8              |

|    |                                                                                                                        |        |                                                                                                              |            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|    | 間の中に、自分で嗜好品を買っていないのであれば、「4.全介助」として、特記事項に自分でも購入することができることを明記すればよい。                                                      |        | を用いて一次判定の修正・確定及び二次判定を行います。                                                                                   |            |
| 7  | 食材は、家族が毎日購入している（購入の依頼はしていない。）が、週1回外出時に嗜好品を自分で購入している場合は、食材等の購入が週8回発生し、そのうち1回介助されていないので、特記事項にこの状況を記入し頻度で「4.全介助」を選択すればよい。 |        | お見込みのとおり。ただし、不適切な介助と判断する場合は根拠を記載し適切な介助の方法を選択してください。状況を特記事項に記載してください。介護認定審査会は、特記事項等を用いて一次判定の修正・確定及び二次判定を行います。 | 2010/12/8  |
| 8  | 買い物：長期入院等でその人にとって必要な買い物が一定期間内で発生しない場合は「介助されていない」と判断してよい。                                                               |        | 食材の買い物を病院が行っているため、「全介助」とし、特記事項に記載してください。<br>記載例）長期入院のため、食材の買い物を、病院が行っているため「全介助」を選択してください。（県）                 | 2010/12/8  |
| 9  | 同じ店で、嫁は嫁と本人の分を見繕い購入。本人も自分で好きな物を選び購入する。買い物籠は別で、支払いもそれぞれ行う。買い物は1週間でこの1回のみ。この場合はどのように判断するか。                               | 「全介助」  | 嫁に見繕って購入してもらう部分「全介助」と、自分で「介助なし」で購入する部分が、同じ頻度で発生していると判断し、「全介助」を選択する。（市）                                       | 2020/11/01 |
| 10 | 商品の選択は自分でできるがレジの自動支払い機が上手く使えないため説明し見守りすれば自分で支払いできる。                                                                    | 「見守り等」 | セルフレジでの支払いも代金を支払うことの行為に含まれるため、「確認」「指示」「声掛け」をしていれば「見守り等」に該当する。（市）                                             | 2020/11/01 |
| 11 | 介助者が作った買い物リストを見ながら、買い物する。（メモがないと買い物ができない）この場合は「見守り等」で評価してよい。                                                           | 「見守り等」 | メモは指示と捉え、メモを見て自分で商品を選ぶと考えるため「見守り等」を選択する。                                                                     | 2020/11/01 |

## 5 - 6 簡単な調理

| No | 事例                                                                                                    | 選択     | 理由                                                                                                     | 開始時期                   |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1  | 食事としてゼリーが提供されていて、温めの介助をしていない場合は、簡単な調理は「介助なし」としてよいのか？                                                  | 「介助なし」 | 温めずにゼリーしか食べていない場合は、簡単な調理は「介助なし」の選択。(市)<br>食事形態がお粥や刻み食等をゼリー状に固めた「ゼリー食」の場合は、簡単な調理が発生しているため「全介助」となります。(市) | 2013/5/24<br>2022/1/17 |
| 2  | 簡単な調理はどこまでのことを指すのか。                                                                                   |        | 定義に記載してあるものの <u>み</u> を指す。(県)                                                                          | 2011/12/2              |
| 3  | 定義にある「弁当」とは？                                                                                          |        | コンビニ弁当やおにぎり、家族やヘルパー等の作った弁当やおにぎりを意味する。(市)                                                               | 2011/12/2              |
| 4  | 定義にある「惣菜」とは？                                                                                          |        | 店で購入する惣菜、家族やヘルパー等が作ったおかずや味噌汁を含む。ただし、インスタント味噌汁は含めない。(市)                                                 | 2011/12/2              |
| 5  | 定義にある「冷凍食品」とは？                                                                                        |        | 店で購入する冷凍食品、家族やヘルパー等が作ったご飯や惣菜を冷凍したものも含む。(市)                                                             | 2011/12/2              |
| 6  | 定義にある「加熱」とは？                                                                                          |        | レンジやガス(鍋等を使い)での加熱を意味する。ただし冷凍したご飯の加熱は含むが、冷ご飯の加熱は含まない。(市)                                                | 2011/12/2              |
| 7  | 定義にある「即席めんの調理」とは？                                                                                     |        | インスタントのカップ麺、袋麺の調理を意味する。ただし、そうめんやパスタの調理は含めない。(市)                                                        | 2011/12/2              |
| 8  | 経管栄養にさ湯を入れて温める場合、流動食の温めの介助として「全介助」としてよいのか？                                                            | 「介助なし」 | 流動食の温めをしている場合のみ「全介助」とする。(調査員テキスト P145 ①参照)(県)                                                          | 2012/6/25              |
| 9  | 買ってきた惣菜や弁当をそのまま食べている場合で、食生活として健康的とはいえないと判断した場合(例: 冷たい弁当を温めずに食べている、インスタントばかりの生活をしている場合など)、どのように判断するのか。 |        | 健康的とはいえないという線引きは難しいが、そのように調査員が判断した場合は、特記事項に記載し、介護認定審査会において一次判定の修正・確定及び二次判定を行います。(県)                    | 2010/12/8              |
| 10 | 簡単な調理: 毎食事は、家族が調理をして、本人は火を使わず、野菜を剥く手伝いをしているが調理とみなしてよいのか。                                              |        | 簡単な調理は、調査項目の定義にある「炊飯」「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めんの調理」のみです。これ以外の行為は簡単な調理とはしません。(県)                       | 2010/12/8              |
| 11 | 「炊飯」のみ家族が行い、惣菜のみ自分で電子レンジで温めている場合の考え方について                                                              |        | 朝昼夕と介助の状況が異なる場合は、定義に列挙してある項目の行為のそれぞれが1週間のうち何回あるかを抽出し、そのうち何回介助が発生しているかを確認し、その介助の状                       | 2010/12/8<br>2022/8/1  |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |                                                                                                                                                                                                                |           |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  | <p>況に基づいて、より頻度の多いものを選択します。</p> <p>例) 毎朝「炊飯」を家族が行う。7回全介助<br/> <del>(7/21回：全介助)</del>、おかずは毎食自分で電子レンジで温めている 13回「介助されていない」<br/> <del>(13/21回：介助されていない)</del> → 「介助されていない」(県)</p>                                   |           |
| 12 | <p>入院・入所等で本人の能力はあると思えるが介助が発生している場合の特記事項の記載例について、施設入所者や入院中で「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めんの調理」の機会がな場合、「炊飯」の介助の状況に基づいて選択するということによいか。</p>                                                                                                                                                                                                                                        |  | <p>施設入所者や入院中で「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めんの調理」の機会がな場合、「炊飯」の介助の状況に基づいて選択してください。(県)</p>                                                                                                                            | 2010/12/8 |
| 13 | <p>本人が自分で野菜など切ったりしており、家族が煮たり焼いたりしている場合、簡単な調理の定義に該当しないが、この場合介助状況で判断してよろしいか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  | <p>簡単な調理の定義にある物についてどのように介助されているかで判断してください。(県)</p>                                                                                                                                                              | 2010/12/8 |
| 14 | <p>炊飯は自分で行き、おかずは作れないため、ヘルパーが毎日作る。「弁当、レトルト食品、即席麺等の利用はない」場合、どのように判断すればよいか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  | <p>1 週間のうちの炊飯の頻度と介助の方法およびヘルパーが作ったおかずの温めがあれば、その頻度と介助の方法から行為量を特定し頻度で判断してください。(県)</p>                                                                                                                             | 2010/12/8 |
| 15 | <p>ひとり暮らしの場合、介護者が1日分作り置きして、本人がそれを電子レンジで温めて食べる人が多い。この場合、より頻回に見られる状況で判断すると、電子レンジで温める回数が多いことをもって「介助されていない」を選択するの<br/>         か。</p> <p>簡単な調理の内容を「炊飯等」に限定しているが、パンを焼く、うどんを作る、おかずを作るといった行為は類似行為として考えてよいか。</p> <p>「炊飯」は(広辞苑を引くと米を炊くこと)とあり、おかずを作ることは考慮しなくてもよいということか。</p> <p>自宅で調理が行われていなくても、介護者が調理したものを運んでいる場合は「介助されている」と判断してよいか。</p> <p>介助者不在の場合で調理品のみで生活している場合は、電子レンジを使う使わ</p> |  | <p>テキスト P144 の(1) 調査項目の定義を再度確認してください。なお、定義にある「炊飯」～「即席めんの調理」までの機会が発生しているのかいないのかをまず確認し、それぞれの介助の状況(「炊飯」～「即席めん」までのそれぞれの介助の回数/それぞれの行為の発生数)を評価した上で比較し、より頻回な状況に基づいて選択してください。また、選択した根拠や介助の状況については特記事項に記載してください。(県)</p> | 2010/12/8 |

|    |                                                                                                                 |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |            |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
|    | ないに関わらず、不適切な状況と判断してよいか。                                                                                         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |            |
| 16 | 加熱時に皿にラップをかけるのはヘルパーが行い、本人はレンジの操作だけをすればいい場合は、ラップがけも介助のひとつと考え「一部介助」と判断するのか？                                       |        | お見込みのとおり。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 2010/12/8  |
| 17 | I V Hは調理が発生しないので「介助されていない」を選択してよいでしょうか？                                                                         |        | <p>認定調査員テキスト 145 ページの記載のとおり、調査対象の行為自体が発生しない場合は、「1. 介助されていない」を選択します。</p> <p>なお、平成 21 年 9 月 30 日付事務連絡における「要介護認定方法の見直しに係る Q&amp;A」の問 1 の記載のとおり、現時点では、認定調査員テキスト及び平成 21 年 9 月 30 日付の事務連絡における Q&amp;A に記載されている規定に基づいて調査してください。</p> <p>それ以外は特に定めがないため、各保険者の判断に基づき調査を実施してください。</p> <p>そういった場合は、認定調査委員は、特記事項に具体的な状況と認定調査員の判断根拠等を記載し、介護認定審査会は、特記事項等を用いて一次判定の修正・確定及び二次判定を行います。</p> <p>今後さらに Q&amp;A が追加された場合は、当該 Q&amp;A に記載されている内容も含めて調査を行います。(県)</p> | 2010/12/8  |
| 18 | 調査前 1 週間のうち、5 日間は経管栄養を日に 3 回温めなく提供され、2 日間は炊飯をすべて介助されてお粥を提供される場合の判断はどのようになるか。                                    | 「全介助」  | 1 週間のうち「簡単な調理」が発生していればその場面での介助の方法を選択します。(市)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 2018/7/24  |
| 19 | <p>本人自身は簡単な調理は全くせず、本人の依頼によって、家族が簡単な調理を行う場合は、「一部介助」か「全介助」のどちらになるか。</p> <p>5-5 買い物では、依頼がある場合は一部介助と判断していると思うが。</p> | 「全介助」  | 5-5 買い物については、認定調査員テキスト P141「(3) 調査上の留意点及び特記事項の記載例」に本人が依頼する場合は記載してあるが、5-6 についてはそのような記載がないことから、依頼は一連の行為には含めずに判断します。(市)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2019/12/2  |
| 20 | 知人や別居の家族が炊飯したものを本人に届けることも「炊飯」に含まれるか。                                                                            |        | 対象者の為に炊飯しているのであれば、該当する。(市)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2020/11/01 |
| 21 | 医師の指示を受けて、リハビリの嚥下訓練食で発生している簡単な調理はどのような判断になるか。                                                                   | 「介助なし」 | リハビリの訓練としての嚥下訓練食であるため、簡単な調理としては考えない。手間として特記事項に記載する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 2022/8/1   |



過去 1 4 日以内にうけた  
特別な医療



過去 14 日間にうけた特別な医療について 1. 点滴の管理

| No | 事例                                                                                                      | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 開始時期                                                      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 1  | 入院中。調査時点で点滴を実施している。炎症を抑えるためのものと聞く。急性期の点滴と判断し、「なし」でよいのか？                                                 | 「ある」 | 入院中で、調査時点で点滴をしており、確実に急性期のものと言い切れない場合は、「ある」を選択する。(市)                                                                                                                                                                                                                                                     | 2013/2/23                                                 |
| 2  | 「輸血」は「点滴の管理」に含まれるか。                                                                                     |      | 特別な医療の三つの条件に該当すれば、チェックできます。(県)                                                                                                                                                                                                                                                                          | 2010/12/8                                                 |
| 3  | 14 日以内という規定のため、調査日により該当したりしなかったりする。公平性及び論理性からみて不適切と思われるかどうか。                                            |      | テキスト P147、1 行目の記載「継続して実施しているもののみを対象とし、急性疾患への対応で一時的に実施されている医療行為は含まない。従って…」の記載内容と P147 10 行目『なお、「特別な医療」が定義に即して実施されていることを介護認定審査会が検討できるようにするため、「実施頻度/継続性」、「実施者」、「当該医療行為を必要とする理由」について特記事項に記載すること』とされているので確認してください。また、チェックはできないが介護の手間がかかっているということであれば特記事項に記載してください。介護認定審査会は、特記事項等を用いて一次判定の修正・確定、二次判定を行います。(県) | 2010/12/8                                                 |
| 4  | 入院中の調査で、調査時は点滴をしている。調査後（調査日の夕方や、調査日の翌日を想定）には終了する予定がある場合は、「継続性はない」と判断するのか、「予定のため継続性がないとは判断しきれない」のか、どちらか。 | 「なし」 | 認定調査員テキスト P147 参照。急性期対応かどうかで対応する。例えば一時的な入院であり、終了予定日以降、今後は点滴が必要でないならば「継続性なし」と判断して良い。(県)                                                                                                                                                                                                                  | 2017/5/22                                                 |
| 5  | CV ポートから実施する、抗生剤や抗がん剤等の栄養目的外のものがある場合は該当するか。                                                             | 「ある」 | テキスト P147 参照。必要に応じて点滴が開始できる体制にあれば該当する。そのため何のための CV ポートかを確認し特記事項に記載する必要がある。(市)<br>また、調査日時点で CV ポート経由で点滴が実施されていない場合は、「必要に応じて点滴が開始できる体制」であるかを確認し、その状況を特記事項に記載する。<br>※定期的に生理食塩水やヘパリン加生理食塩水等でフラッシュが実施されている等。(市)<br>(6-2)も同様の考え方。ただし、(6-2)の場合は中心静脈栄養を過去に実施したことがあるかも合わせて確認すること。                                | 2018/2/26<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>2024/6/3 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 2. 中心静脈栄養

| No | 事例                                                                | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                            | 開始時期       |
|----|-------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 調査時点で、中心静脈栄養が、現在栄養供給されていないとしても、必要に応じて栄養供給できる体制にある場合は、「ある」を選択で良いか。 | 「ある」 | 現在栄養分が供給されていなくても、必要に応じて中心静脈栄養が供給できる体制にある場合、「ある（該当する）」を選択。（県）                                                                                                                                  | 2016/6/30  |
| 2  | CV ポートは中心静脈栄養に該当しますか？                                             |      | CV ポートは「Central Vein(Venous)」の略語で意味は「中心静脈」という意味です。<br>IVH「経静脈高カロリー栄養」と違い、皮下に埋め込まれた状態です。<br>CV ポートを使って高カロリー輸液が行われているまたは行われる目的で皮下に埋め込まれており特別な医療の三つの条件に該当すれば、チェックできます。<br>ルートの方法ではなく、目的が何かです。（県） | 2010/12/8  |
| 3  | 中心静脈カテーテルが挿入されているが、高カロリー輸液ではない栄養分や補液が投与されている場合は該当するか。             |      | 基本的に、「6-2 中心静脈栄養」とは、中心静脈カテーテル（CV ポート含む）経由で「高カロリー輸液」が投与されている場合に該当すると思う。カテーテル維持のため、他栄養分や補液等、高カロリー輸液以外のものが投与されていることもあるが、今後中心静脈栄養を再開する可能性がある場合は、「ある」とする。（県内中核市に聴取し、市として判断）                        | 2020/11/01 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 4. ストーマ（人工肛門）の処置

| No | 事例                                                             | 選択   | 理由                                                                    | 開始時期      |
|----|----------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | ストーマのバッグの取替え、消毒等は自分で行っているが、漏れがないか等の観察は看護師が行っている場合「ある」で<br>よいか？ | 「なし」 | 観察は含まない。消毒、バッグの取り替え等の処置が医師の指示に基づき、過去 14 日以内に看護師等によって行われている場合は「ある」。(県) | 2012/6/25 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 5. 酸素療法

| No | 事例                                                                                                                       | 選択   | 理由                                                                                                                                                                                                          | 開始時期                         |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 労作時、胸苦時のみ酸素を利用しているが、頻度が少ない。しかし、継続している場合は？                                                                                |      | 頻度が少なくても、定義にあてはまれば「ある」。(市)                                                                                                                                                                                  | 2010/12/8<br>2023/6/13<br>削除 |
| 2  | 在宅酸素療法について、医師が 1 ヶ月に 1 回往診をしている以外は、業者が 2 週間に 1 回機器のメンテナンスを行っている。主治医は在宅酸素療法指導管理料を取っている。業者のメンテナンスにより特別な医療の酸素療法をチェックしてよいのか。 |      | 在宅酸素療法指導管理料とは、主治医が 1 ヶ月に 1 回程度動脈血酸素分圧の測定を実施した場合に請求できるものであるため、機器のメンテナンスとは別のものです。<br>また、機器のメンテナンスは業者のアフターサービスです。(県)                                                                                           | 2010/12/8                    |
| 3  | 外出時のみ酸素療法を行っている方で、週 1 回訪問看護師が在宅に置いてある回路の確認をしている場合、該当するのか。                                                                | 「ない」 | 実施している最中に看護師等が実施した場合に該当するものと考えます。<br>テキスト P150(3)異なった選択が生じやすい点で「外出時のみ酸素療法がおこなわれており、自宅（居宅）では行われていない。」場合を「ある」でとり、実施場所は問わないとあります。場所は問わなくても、あくまでも看護師等によって実施された行為を評価するため、事例のように酸素療法そのものが実施されていない場合は該当しないと考えられます。 | 2018/10/25                   |
| 4  | 看護師等によって実施された行為とは具体的にどのようなものか。                                                                                           |      | 医師の指示に基づき、過去 14 日以内に酸素療法を行っている状態で、対象者の顔色等状態観察をしている場合を含みます。観察項目は問いません。また、観察が行われた診療科について、調査時に聞き取りをしてください。                                                                                                     | 2022/10/25                   |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 6. レスピレーター（人工呼吸器）

| No | 事例                                                                           | 選択 | 理由                                                                             | 開始時期       |
|----|------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 在宅で人工呼吸器によって酸素療法を実施している。2 週間に 1 回往診があり、医師が動作の確認を行う。この場合、6-6 レスピレーターのみが該当するか。 |    | 6-5 酸素療法と 6-6 レスピレーターの両方が該当します。レスピレーターは換気のための処置であるため、酸素療法が併用されていれば両方を選択します。（市） | 2018/10/25 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 7. 気管切開の処置

| No | 事例                       | 選択   | 理由                                                                                                         | 開始時期      |
|----|--------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 「気管切開の処置」とあるが、観察で<br>いか。 | 「なし」 | 観察は含まない。カニューレの交換、開口部<br>の消毒、ガーゼ交換、開口部からの喀痰吸引<br>などの処置が医師の指示に基づき、過去 14<br>日以内に看護師等によって行われている場合<br>は「ある」。(県) | 2012/6/25 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 8. 疼痛の看護

| No | 事例                                                                              | 選択   | 理由                                                                                                            | 開始時期      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | がん末期のペインコントロールに相当する痛み緩和目的で貼付型経皮吸収剤使用。家族が貼付し、週 1 回訪問看護師が疼痛の観察を行っている。この観察も含めてよいか？ | 「なし」 | 観察は含まない。がん末期のペインコントロールに相当する痛みで、鎮痛薬の点滴、硬膜外持続注入、座薬、貼付式型経皮吸入剤、注射が、医師の指示に基づき、過去 1 4 日以内に看護師等によって行われている場合は「ある」。(県) | 2012/6/25 |
| 2  | 疼痛の看護について、痛み止めの内服治療は該当しない、となっているが、特記に書いてもよいか。                                   |      | 特記事項に書くことを妨げるものではありません。「介護の手間」と「頻度」を記載してください。内服薬は「5-1 薬の内服」で評価します。(県)                                         | 2010/12/8 |
| 3  | 疼痛の看護の内服薬はチェックできないか。                                                            |      | 内服は含まないので、チェックできません。このことで介護の手間がかかっているということであれば特記事項に記載してください。内服薬は「5-1 薬の内服」で評価します。(県)                          | 2010/12/8 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 9. 経管栄養

| No | 事例                                                                                                                      | 選択   | 理由                                                                                                                  | 開始時期      |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 経管栄養の実施は家族が行っているが、<br>管の抜きの確認や胃瘻部の観察は看護師<br>が行っている場合「ある」でよいか？                                                           | 「なし」 | 観察は含まない。経管栄養が医師の指示に基<br>づき、過去 14 日以内に看護師等によって行<br>われている場合は「ある」。(県)                                                  | 2012/6/25 |
| 2  | 看護師免許を持つが病院等に所属してい<br>ない娘に、医師が口頭で「あなたが在宅<br>では経管栄養を行いなさい」と指示を受<br>け、過去 14 日以内に実施して、今後も<br>継続性がある場合、「経管栄養」は「ある」<br>になるか。 | 「なし」 | 6 群全てに言えるが、施設や病院、デイ等で<br>看護師等が「医療行為」を行う際は「医師の<br>指示」が法律上必要であるため、看護師等が<br>「医療行為」を行っている場合は「医師の指<br>示」があるものと解釈してよい。(国) | 2017/9/19 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 10. モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度等）

| No | 事例                                                                                | 選択   | 理由                                                                                                              | 開始時期     |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 1  | 心拍モニターについて、植え込み型心電図モニターの手術を施行し、居宅で生活している方。常時心拍データを病院に送信し、看護師や医師が適宜確認している場合は該当するか？ | 「あり」 | 医師の指示のもと、遠隔モニタリングで管理され、異常を生じた場合には医師等が対応できる状態であるため、該当する。受診の有無や医師の指示が 14 日以内にあることは問わないが、特記事項に継続性がわかるように記載すること。(市) | 2021/8/2 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 11. じょくそうの処置

| No | 事例                                                                                      | 選択   | 理由                                                                                                         | 開始時期       |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1  | 褥瘡は治癒したが、医師の指示により予防のための観察や軟膏を塗布する等の「処置」をしていれば「ある」でよいか？                                  | 「ある」 | 医師または医師の指示に基づき、看護師等が14日以内に予防のための観察、体位変換や軟膏の塗布を行っている場合は「ある」を選択する。(県)                                        | 2016/6/30  |
| 2  | 予防の処置として医師の指示に基づいて訪問看護において観察のみが継続されている場合、観察も処置に該当するのか。                                  | 「ある」 | 該当します。「介護の手間」と「頻度」を記載してください。(県)                                                                            | 2010/12/8  |
| 3  | 臀部に褥瘡を認め、主治医の診断もある。皮膚の変色あり、デイサービスにて看護師が観察を行っているが、主治医の指示はない。この場合、主治医の指示がないことから「ない」とするのか？ | 「ある」 | 施設や病院等で看護師等が医療行為を行う際は法律上医師の指示が必要であるが、認定調査業務実施上そこまで関与するところではない。そのため、看護師等が医療行為を行っている場合は医師の指示があるものと解釈してよい。(国) | 2018/10/01 |



過去 14 日間にうけた特別な医療について 1 2. カテーテル（コンドームカテーテル、留置カテーテル、ウロストーマ等）

| No | 事例                                                                 | 選択   | 理由                                                                                                                               | 開始時期      |
|----|--------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1  | 自己導尿を行っており、尿量のチェックや手技の確認を看護師が行っている場合「ある」でよいか？                      | 「ある」 | 観察も含む為（県）2010/12/8<br>コンドームカテーテル、留置カテーテルの使用、もしくは間欠導尿等、尿の排泄のためのカテーテルが使用されており、その管理が、医師の指示に基づき、過去 1 4 日以内に看護師等によって行われている場合は「ある」。（県） | 2012/6/25 |
| 2  | 自己導尿を行っている。手技も自分で正しい看護師による観察はない。看護師は尿量や尿の性状のみを観察している場合、「ある」でよいか？   | 「ある」 | 自分で導尿したものであっても、カテーテルを使用して排泄した尿を医師の指示に基づき、尿量や尿の性状を観察することを看護師が管理しているため。（市）                                                         | 2025/2/10 |
| 3  | 自己導尿を行っており、手技も尿量の確認も全て自分で行っている。医師や看護師が本人からの報告でのみ把握している場合、「ある」でよいか？ | 「なし」 | 医師や看護師が本人から口頭で報告を聞くのみでは、管理が看護師等によって行われているとはいえない為。（市）                                                                             | 2025/2/10 |



# 障害高齢者の 日常生活自立度



この判断フローは、テキストの内容を豊田市として解釈し、調査員がより迅速かつ正確に判断するために作成した補助ツールです。

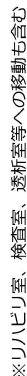
最終的には、テキストに沿った判断をしてください。個別具体的な事例で悩む場合は、認定担当の保健師に相談したり、「●(7-1)悩んだが○と判断した。」として審査会の意見を仰いでください。

疾病や傷病及びそれらの後遺症あるいは老衰により生じた身体機能の低下が無い方

7日間どのような移動する日が多いか

---

※時間帯や体調等によって能力の程度が異なる場合はより頻回に見られる状況や日頃の状況で選択する





障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

| No | 事例                                                                                                  | 選択              | 理由                                                                                                                                  | 開始時期                  |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 0  | 〈障害高齢者の日常生活自立度の考え方〉<br>調査員テキスト P.155 及び P.156 を基に、移動の状態像と ADL の状況から総合的に判断する。                        |                 |                                                                                                                                     | 2021/1/4              |
| 1  | J1：「交通機関等を利用しての外出」とあるが、タクシーの利用や自分で運転する人は該当するか？                                                      | J1<br>J2        | タクシーの利用や自分で運転する人は、その距離に関わらず、「J1」と判断する。（県）<br>自家用車やタクシー利用の場合は距離に関わらず「J2」と判断する。（市）                                                    | 2010/12/8<br>2021/1/4 |
| 2  | A ランクの場合で活動性乏しく日中ベッドで臥床がちであるが、週 4 回デイに通う。外出頻度が多いと判断し「A1」を選択すれば良いか？                                  | A2              | ④活動状況の有無⑤外出頻度の順に考え左記のケースにおいては「A2」を選択する。<br>調査員テキスト P.156 を参考に、外出頻度と活動状況の有無から総合的に判断する。左記のケースにおいては活動性が乏しいため「A2」を選択する。判断に迷うケースは要相談。（市） | 2011/9/13<br>2021/1/4 |
| 3  | 車椅子を使用していない。歩行できず常時這っている場合は、「B ランク」を選択すれば良いか？                                                       | B ランク           | 歩行できず常時這っている場合は、「B ランク」を選択する。（市）                                                                                                    | 2011/9/13             |
| 4  | 通院時、行き（帰り）は介護者が車で送迎するが、帰り（行き）は対象者はタクシーを利用し一人で帰ってくる。それ以外の外出の機会はない。                                   | A ランク           | 行き、帰り、どちらかでも、介助があれば、「A ランク」と判断する。（市）※行きも帰りも外出時、独力で外出している場合のみ「J ランク」の判断。                                                             | 2012/11/26            |
| 5  | 対象者が、家族の通院に付き添っている。それ以外の外出の機会はない。                                                                   | J ランク           | 基本的に、1 人で外出する機会が無い場合は「A ランク」と考えるが、家族の付き添いという理由が明確ならば「J ランク」で判断。その理由が分かるように特記事項に記載。（県）                                               | 2013/4/1              |
| 6  | 介護タクシーを利用して外出。それ以外の外出の機会はない。                                                                        | A ランク           | タクシーの利用が出来ていても、介護タクシーであれば、一人での外出ではないので、「A ランク」と判断。（市）                                                                               | 2013/5/24             |
| 7  | 同じ敷地内の棟に暮らす棟違いの人の家へ一人で出かけている場合、棟の敷地内を 15 分程、一人で散歩し自宅へ戻るは、一人で外出していると考え「J2」の判断で良いか？（それ以外の外出はない場合）     | 「J2」            | 敷地内であっても、一人で自宅から自立して独力で外出できているため「J2」と判断する。（市）※敷地内の外出かどうかを問うのは 2-12 の外出の頻度のみ（テキスト P.99）                                              | 2017/2/24             |
| 8  | 一人で外出できるが、妻が認知症で自宅に一人にできないために、通院の時も、妻を車に乗せて外出している場合（公共交通機関等で付き添う場合も含む）、一人では外出はしていないが、J ランクと判断して良いか？ | 「J1」<br>「J ランク」 | 一人で外出ができる人のため、J ランクと判断する。妻と一緒に外出しているのは、妻を介助する目的であるため、一人で外出できると判断し、状況の特記事項に記載し「J ランク」と判断する。（市）                                       | 2017/2/24<br>2021/1/4 |

|    |                                                                                     |         |                                                                                                                                           |            |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 9  | 徘徊する高齢者は「自立」か「J ランク」か「A ランク」か。                                                      |         | 徘徊は評価に含めません。それ以外の状況で選択してください。ただし、特記事項には徘徊している状況も記載して下さい。(市)                                                                               | 2018/10/25 |
| 10 | J-1 は「公共交通機関」を利用して積極的にとあるが月 1 回他の手段がなく病院受診の際だけ公共交通機関を利用している場合は J-1 でよいか             |         | 公共機関を利用するということのみで判断するのではなく、はじめに何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する方について「交通機関等を利用して外出する」、「隣近所へなら外出」するかで判断します。(県)                             | 2010/12/8  |
| 11 | 日に 3 回、3m 先のトイレまでは介助なく歩行移動するが、日に 3 回の食事や週 2 回の入浴の際は全介助で車椅子移動する場合は A ランクか B ランクのどちらか | 「B ランク」 | 車椅子移動の頻度が多いため「B ランク」の評価となります。テキスト P155(2)にあるように、「能力」の評価ではなく「状態」、特に「移動」に関わる状態像に着目して評価をします。そのため、歩行と車椅子移動の両方がある場合は、原則移動の頻度で判断します。            | 2018/7/24  |
| 12 | 施設バスで往復している(介助者なし)場合は J2 でよいか。                                                      | 「J2」    | 施設バスは公共機関には該当しないため、「J2」と判断する。(市)                                                                                                          | 2020/11/01 |
| 13 | 外出先で付き添いや介助が必要で、本人が運転する車に家族が乗って外出。1 人で外出する事はない。                                     | 「A ランク」 | 調査員テキスト P156 より外出に援助を要しているため「A ランク」。(市)                                                                                                   | 2020/11/01 |
| 14 | 本人が車を運転して外出するが、運転が心配な為、毎回、家族が同乗して付き添う。1 人で外出する事はない。                                 | 「A ランク」 | 外出に援助を要しているため「A ランク」。(市)                                                                                                                  | 2020/11/01 |
| 15 | 地域バスを予約し乗る場合は「J2」でよいか。                                                              |         | 地域バスの予約をして、 <u>家の前に迎えに来て乗る場合「J2」</u><br>地域バスの予約をして、 <u>決められたバス停や停留所に行き乗る場合「J1」</u><br>※予約が必要なことや目的地が決まっているかどうかではなく、バスがどこに迎えに来るのかで判断する。(市) | 2023/6/13  |

# 認知症高齢者の 日常生活自立度



認知症高齢者の日常生活自立度

| No | 事例                                                                                         | 選択 | 理由                                                                                                                                                                                   | 開始時期                   |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1  | 「Ⅱa」「Ⅱb」の判断は、重度判定なのか、家庭の「内」「外」で判断してよいのか。                                                   |    | 基本的に重度判定でよい。(県)                                                                                                                                                                      | 2010/7/9               |
| 2  | 「4-4 昼夜逆転」が、週3回ある場合、Ⅲbを選択していいか？                                                            |    | 「Ⅲb」を選択するためには、「4-4 昼夜逆転」が、5 割以上ある場合とします。そのため、週4回以上ある場合に「Ⅲb」を選択してください。(市)                                                                                                             | 2012/11/26             |
| 3  | 意識障がいがある場合の「Ⅳ」と「M」の判断はどのようにしたら良いか？                                                         |    | 「Ⅳ」の判断：少しでも意思疎通が図れる場合が想定される。(例：声掛けや質問、呼びかけになんらかの応答がある、自分の言いたいことを伝える(言葉に限らず、ジェスチャー等も含む) ことがある等)<br>「M」と判断：遷延性の意識障害で、意思疎通が全く図れない、全く反応がない場合が想定される。また、上記の状態、反射的に顔をしかめる程度の反応しかない場合も含む。(市) | 2017/2/24<br>2022/5/19 |
| 4  | 毎日興奮、他者への威嚇、攻撃、暴力、激しい暴言、妄想や思い込みなどあり専門医(精神科受診、投薬)に継続受診しているが、特養等に入所している場合、Ⅳと判断するのか、Mと判断するのか。 |    | 「M」と判断する。(県)                                                                                                                                                                         | 2010/12/8              |
| 5  | ⅢaとⅢbを選択する際など頻度選択することがあるが、その際は1週間か、ひと月かどの程度の期間での頻度を選択するか。                                  |    | ひと月の頻度で選択してください。<br>環境が大きく変化している場合は、変化後からの頻度で選択してください。(市)                                                                                                                            | 2020/4/1               |





連絡先

豊田市役所 福祉部 介護保険課 認定担当

電話：(0565) 34-6961

FAX：(0565) 34-6034

メール：[kaigohoken@city.toyota.aichi.jp](mailto:kaigohoken@city.toyota.aichi.jp)